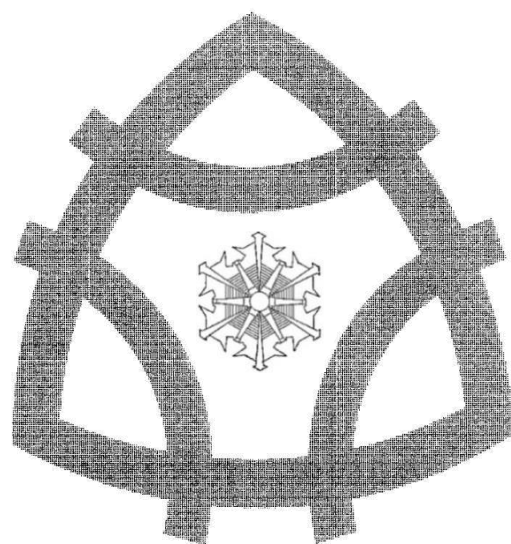


令和元年版

消防年報



三木市消防本部

令和2年刊行

は　じ　め　に

この年報は、令和元年中における三木市の主な消防事情について収録し、今後の消防行政の参考に資するとともに、広く一般に紹介するため編集したものです。

なお、この年報は、予算関係は会計年度とし、火災・救急・救助関係にあつては暦年をもって表し、その他は必要に応じ当該表の右上に基準日を表示しています。

皆様にご高覧いただき、本市消防業務に対するご理解を深めていただく一助になれば幸いです。

令和2年7月

三木市消防長　　藤　原　秀　行

目 次

概要編

三木市の概要	1
一目統計	2
消防の推移	3
消防の沿革	4～13
消防組織	14
事務分掌	15
管内図	16
消防庁舎の概要	17
消防相互応援協定	17
条例規則等の制定改正状況	17
令和元年度主要行事	18～19

総務編

事務事業の現況	20
消防施設整備事業	20
消防予算	21
消防予算年度別比較	21
消防予算に対する市民負担	21
消防予算節別比較	22
消防職員	23
職員の配置状況	23
職員年齢構成及び階級別消防吏員数	24
職員資格取得状況	25
職員研修	26
消防表彰等状況	27

予防編

予防行政の現況	28
自主防火防災組織等の状況	28
予防広報	29
火災予防講習会等	29
防火対象物の状況	30
防火対象物の推移	31
地区別防火対象物の現況	31
消防用設備等の設置状況	32
中高層建築の現況	33
用途別同意件数と工事別処理状況	34

建築同意処理状況	35
予防関係届出状況	35
製造所等の状況	36
危険物製造所等の推移	37
危険物製造所等の設置状況	37
地区別危険物施設設置状況	37
危険物製造所等の申請・届出処理状況	38
製造所等の各種調査及び検査状況	38
液体危険物タンクの完成検査前検査実施状況	39
手数料収入額	39
移譲事務関係の届出及び検査状況	39
三木防火協会の現況	40
会員数と予算の推移	40
令和元年度の主要行事	40

警防編

消防車両配置状況	41
消防機械器具保有状況	42
消防車両等修理状況	42
管内消防水利の現況（消火栓）	43
管内消防水利の現況（防火水そう）	43
各種届出等受理状況	44
消防活動状況	44
訓練実施状況	44
消防訓練等指導状況	45
気象情報発令状況	45
月別気象状況	46
月別降水量	46
月別平均風速	46
水防資器材備蓄状況	47

火災編

過去の主な火災	48
令和元年中の主な火災	48
火災概要（対前年比）	49
火災件数の推移	50
地区別火災件数	50
月別火災件数	51
時間別火災件数	51
署別火災件数	52
四季別火災件数	52
火災損害額の推移	53
火災損害額	53
初期消火の状況	53

出火原因別件数	54
火災による死者数の推移	55
消防部隊出動状況	55

救急編

救急出場件数	56
発生地区別出場件数	56
署別救急出場件数	56
救急出場件数の推移	57
事故種別救急出場件数	57
月別救急出場件数	58
曜日別救急出場件数	58
時間別救急出場件数	59
現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）	59
病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）	60
事故種別救急搬送人員	60
傷病程度別救急搬送人員	60
発生場所別救急出場件数	61
事故種別年齢別搬送人員	61
性別科目別搬送人員	61
高速道路における救急活動状況	62
応急処置件数	62

救助編

救助出動件数の推移	63
救助活動件数・救助人員の推移	63
救助出動状況	63
署別救助出動件数	64
地区別救助出動件数	64
発生場所別救助出動件数	65

指令編

指令業務	66
119番受信件数	66
119番通報件数（回線区分別）	66
通信指令系統	67
通信系統図	67
高機能消防指令システム機器一覧	68～69
消防通信施設状況	70
デジタル無線	70
アナログ無線	70
火災出動体制	70
消防無線通信施設	71～72

消防団編

消防団の現況	73
機構	73
令和元年度消防団の主な行事	73
消防団員在職年数	74
消防団員年齢調べ	74
消防団分団・階級別実員数	75
消防団ポンプ現勢一覧表	76～79
消防団員報酬・退職・新任状況	80
報酬	80
退職事由	80
退職団員の在職年数	80
新入団員年齢別	80
消防団員出動状況	80
消防団員関係表彰状況	81

三木市の概要

三木市は、兵庫県の中南部、日本標準時子午線上に位置し、まちの中央部を東西へ加古川の支流、美囊川が流れる沖積平野や台地、丘陵から成り立つ恵まれた自然環境と優れた伝統に培われたまちです。

昭和29年6月1日に美囊郡三木町、別所町、細川村、口吉川村が合併して市制を施行、兵庫県で16番目の市として発足し、同年7月1日に志染村が合併し、平成17年には美囊郡吉川町と合併しました。

三木市は、古い歴史と自然に恵まれ、播磨風土記には、億計(おけ)、弘計(をけ)2皇子の古代ロマンの物語が記されています。また、戦国時代には、東播8郡24万石を領した別所氏の居城があり、三木合戦によって荒廃した町は、豊臣秀吉の復興策によって商工業が活発化し、今日の金物産業の発展の基礎をつくりました。別所氏の居城であった三木城跡と織田方によってつくられた包囲網の付城跡・土塁は平成25年3月に国史跡指定となっています。

また、三木市は山田錦(酒米)の主産地となっており、三木金物ブランドとともに更なる発展が期待されます。

一方、市域内を中国及び山陽自動車道が通過するなど、全国的にも交通の要衝として注目され、西日本一多くのゴルフ場が立地する他、「三木ホースランドパーク」、「山田錦の館」、「吉川温泉よかたん」など、観光資源も多彩なものがあります。

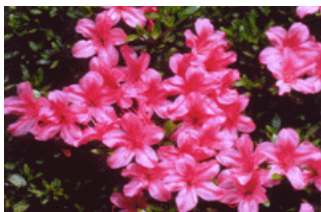
優れた交通立地を活かし、「県立三木総合防災公園」や「ひょうご情報公園都市」が整備され、将来が期待されるところです。



市 の 木 「 松 」

「松」は、三木市を取り巻く山の樹木の大部分を占め、常に山の緑を保ち、市民の気持ちをなごやかにしてくれる貴重な存在です。また、年中変わらない緑葉の若々しさ、枝ぶりの優雅さ、幹皮の力強さは、三木市の調和ある発展を象徴しています。

(昭和46年6月に制定)



市 の 花 「さつき」

「さつき」は、三木市内に数多く見られ、花は多彩、変化に富んでいます。さつきが群生し、競い合って咲いている様子は、まさに豊かに発展しようとしている三木市を表しています。

(昭和46年6月に制定)

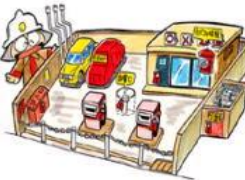
その火事を 防ぐあなたに 金メダル
(2020年度全国統一防火標語)

一目統計

令和2年4月1日現在

				
面積	人口	世帯数	消防予算	署所
176.51 k m ²	男性 37,289人 女性 39,640人 合計 76,929人	34,033世帯	1,432,494千円	消防本部 1 消防署 1 分署 2

			
消防職員	消防団・分団	消防団員	消防車両
定員 93人 実員 99人 (再任用職員6名含む) 平均年齢 37.6歳	分団数 38分団 班数 103班	定員 1,360人 実員 1,336人 平均年齢 40.2歳	ポンプ車 6台 救急車 5台 救助工作車 1台 化学車 1台 水槽車 1台 はしご車 1台 指揮車 1台 その他の車両 12台

				
消防水利	防火対象物	立入検査回数	自主防災組織	危険物施設
消火栓 2,296基 防火水槽 739基	特定用途防火対象物 610棟 非特定用途防火対象物 1,935棟	一般 660回 危険物 136回	婦人防火クラブ 1 少年消防クラブ 1 幼年消防クラブ 8 自由が丘消防隊 1	製造所 3 貯蔵所 172 取扱所 108 合計 283施設

令和元年中

				
火災	救急	救助	その他の災害	119番受信
発生件数 22件 損害額 40,779千円	発生件数 4,038件 搬送人員 3,770人	発生件数 60件 活動件数 40件 救助人員 34人	231件 警戒・偵察・風水害等	6,656件 問い合わせ・間違い等含む

消防の推移

(令和元年12月31日基準)

年次	区分	管内人口	世帯数	消防職員数	消防団員数		火災件数	損害額 (千円)	焼死者	救急出場件数
					三木	吉川				
S30		38,876	7,793		1,807		14	359		
58		81,329	21,736	80	1,118	575	71	88,046	1	1,203
59		81,808	22,008	80	1,113	575	82	132,846		1,315
60		82,336	22,294	80	1,113	515	56	76,215	1	1,359
61		82,422	22,477	79	1,110	506	74	47,474	1	1,316
62		82,772	22,874	81	1,110	506	64	35,074	2	1,511
63		84,089	23,164	81	1,110	506	65	119,307	3	1,616
H1		84,401	23,800	81	1,110	506	59	100,458	3	1,612
2		85,115	24,307	80	1,111	506	69	126,846		1,728
3		85,731	24,739	81	1,112	506	53	146,294	1	1,725
4		85,983	25,217	83	1,113	506	59	109,055		1,636
5		85,886	25,516	83	1,113	506	54	74,671	2	1,754
6		86,134	25,919	86	1,113	506	70	143,646	1	1,813
7		87,177	26,696	85	1,113	506	58	108,945	3	2,374
8		87,852	27,284	86	1,113	506	66	75,083	3	2,259
9		88,193	27,826	88	1,113	506	50	94,043	2	2,173
10		88,070	28,286	90	1,113	506	47	123,228	5	2,393
11		87,615	28,525	90	1,113	506	57	91,708		2,305
12		87,165	28,728	90	1,113	506	61	125,153	2	2,478
13		86,675	29,057	90	1,113	506	63	66,033	3	2,536
14		86,351	29,400	90	1,006	506	77	68,434	4	2,631
15		85,647	29,756	90	1,006	506	54	153,585	1	2,764
16		85,568	30,034	90	972	506	34	45,214		2,783
17		85,045	30,364	90	1,375		47	125,700	5	3,094
18		84,642	30,760	90	1,363		47	108,378	1	3,040
19		83,989	31,081	90	1,369		44	128,088	3	3,077
20		83,711	31,511	90	1,367		50	174,107	2	2,980
21		82,060	31,089	92	1,342		53	119,764		3,008
22		82,383	32,007	91	1,337		48	34,189		3,195
23		81,829	32,228	91	1,337		72	103,355	2	3,323
24		81,304	32,276	91	1,337		42	72,553	3	3,314
25		80,391	32,387	91	1,332		45	28,148		3,384
26		79,768	32,566	91	1,340		35	53,772		3,416
27		79,282	32,881	91	1,331		35	21,879	1	3,597
28		78,803	33,078	91	1,326		28	18,774	1	3,755
29		78,414	33,389	91	1,328		39	99,498	3	3,784
30		77,552	33,729	93	1,321		28	80,258	1	4,036
R1		77,238	33,947	91	1,321		22	40,779		4,038

(注) 消防職員数及び消防団員数は実数

消防の沿革

昭和22年	4月	消防団令が制定公布され、消防団が誕生。
昭和23年	7月	消防組織法が施行（S22.12.24公布）。消防事務が市町村に移管され、自治体消防制度が発足、各町村長が所管する消防団を設置。
昭和29年	6月	旧美嚢郡のうち、三木町・別所村・細川村・口吉川村の1町3村の合併により三木市が誕生。（同年7月1日に三木市と志染村が合併）昭和29年7月消防組織は旧町村単位の5団を統合、三木市連合消防団を設置。
	7月	三木市連合消防団長に魚住丑之助氏就任。
	10月	消防ポンプ自動車（トヨタ）1台購入、連合消防団に配備。
	12月	消防団常備部車両1台・人員8名を設置。
昭和30年	12月	三木市役所内に常備部消防詰所を整備設置。
昭和33年	4月	第2代連合消防団長に津村武雄氏就任。
昭和34年	10月	第3代連合消防団長に山口静男氏就任。
昭和36年	1月	消防団常備部に消防ポンプ自動車1台購入を配備。
	3月	水槽付消防ポンプ自動車（トヨタ）1台購入、消防団常備部に配備。
昭和37年	4月	三木市火災予防条例を制定。
昭和38年	10月	三木市連合消防団を発展的解消し、三木市消防団が発足。 初代消防団長に山口静男氏就任。
	12月	消防団常備部に消防ポンプ自動車（ニッサン）を配備。
昭和39年	2月	日本消防協会長表彰により表彰旗を授与。
	10月	中短波無線電話、基地局1台、移動局3台を消防署に設置。
昭和40年	4月	三木市消防本部、消防署を設置、常備消防が発足。水槽付消防ポンプ自動車1台 普通消防ポンプ自動車1台、消防職員21名で業務を開始。 消防団常備部は解散する。消防長事務取扱に衣巻顕明氏（市長）、消防本部次長 兼消防署長に今井真治氏就任。三木市消防団員定数1,566名と定める。
	5月	第2代消防団長に大林嘉三氏就任。
	10月	三木市消防団・県知事表彰受賞、楯を授与。
	12月	三木市加佐字草加野及び三木市細川町脇川（通称草加野）の両地区の消防行政を小野市消防本部に委託。
昭和41年	4月	消防職員4名採用（総数25名）三木市消防団員定数1,500名と定める。
	9月	13日午前2時10分覚知。三木市立豊地小学校から出火し、2階建校舎延べ面積1,539㎡が全焼。原因不明。
昭和42年	2月	消防ポンプ自動車（いすゞ・A-2級）1台を購入、消防署に配備。
	4月	第2代消防長に金鹿秀夫氏（助役）就任。
	6月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	7月	加古川市、小野市と「消防相互応援協定」を締結。
	10月	三木市消防団員定数1,450名と定める。
	12月	第3代消防長に大原義治氏（市長）就任。
昭和43年	3月	細川地区消防団に消防ポンプ自動車1台（トヨタ・A-2級）を配備。 細川機動隊が発足。消防本部及び消防団・消防庁長官表彰を受賞、竿頭綬を授与。
	4月	三木市消防団、組織・機構改革60分団を29分団に統合整備。

昭和43年	4月	三木市消防団員定数1, 400名と定める。消防職員3名採用(総数28名)
	6月	第4代消防長に今井真治氏就任。
	10月	神戸市と「消防相互応援協定」を締結。 中短波無線電話機移動用1台購入、消防署に設置。
昭和44年	1月	救急自動車(トヨタ)1台を購入、消防署に配備し、救急業務を開始。
	4月	消防職員3名採用(総数29名)
	10月	三木市消防団員定数1, 380名と定める。
昭和45年	3月	化学消防自動車(三菱ふそう・A-2級)1台を購入、消防署に配備。
	4月	消防職員2名採用(総数30名)
	5月	三木第2分団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。
	7月	吉川町、東条町と「消防相互応援協定」を締結。
	10月	三木市消防団員定数1, 280名と定める。
	12月	消防庁舎建設工事着手(三木市本町2丁目9番1号) 口吉川地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。 口吉川機動隊が発足。消防救助隊発隊。(隊員15名)
昭和46年	4月	消防職員2名採用(総数31名)
	6月	消防指令台を消防署に設置、運用開始。 超短波無線電話機基地局(ほんぶ)1台、移動局4台新設、消防署に設置。
	7月	消防本部新庁舎が竣工、業務開始。(鉄筋コンクリート造・3階建)
	8月	志染地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。 志染機動隊が発足。
	10月	組織・機構改革。消防署に機械係を新設。 三木市消防団員定数1, 200名と定める。
昭和47年	4月	第5代消防長に五百蔵利治氏就任。消防職員5名採用。(総数34名)
	10月	別所地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。 別所機動隊が発足。三木市消防団員定数1, 140名と定める。
昭和48年	3月	屈折はしご付消防ポンプ自動車(三菱・A-1級)1台を購入、消防署に配備。
	4月	消防職員4名採用(総数39名)
	10月	消防職員1名採用(総数40名)
	11月	三木第6分団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を更新配備。
昭和49年	4月	消防職員5名採用(総数45名)
	7月	三木青年会議所から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	8月	消防指令車1台を購入、消防本部に配備。 三木市消防団・県知事表彰を受賞、表彰旗を授与される。
昭和50年	3月	消防本部及び消防団・消防庁長官表彰を受賞、表彰旗を授与。
	4月	消防職員4名採用(総数48名)
昭和51年	4月	消防職員5名採用(総数53名)
	9月	消防署広野分署庁舎建設工事に着手。(三木市志染町広野5丁目1番)
	12月	消防ポンプ自動車(ニッサン・A-2級)1台を購入、消防署に配備。
昭和52年	1月	水槽付消防ポンプ自動車(三菱ふそう・A-2級)1台を購入、消防署に配備。
	3月	三木市消防署広野分署新庁舎が竣工。水槽付消防ポンプ自動車1台、普通ポンプ自動車1台、救急自動車1台、及び消防吏員15名で業務を開始。 組織・機構改革。消防署に消防第1係及び消防第2係を新設。 超短波無線前進基地局(ひろの)1台、移動局2台、広野分署に設置。

昭和52年	3月	査察広報車1台を購入、消防本部に配備。 13日午後1時40分覚知。三木市志染町四合谷から出火し、強風にあおられ造成予定地であった高男寺周辺の山林30haを焼失、翌朝に鎮火。
	4月	組織・機構改革。消防署に消防課を新設、消防本部総務課と2課制とした。 第6代消防長に戸田良一氏就任。消防職員6名採用（総数58名）
	9月	日本消防協会から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	10月	消防ポンプ自動車1台をロータリークラブから寄贈を受け、消防署に配備。 三木第4分団・三木第8分団に消防ポンプ自動車(ニッサン・A-2級・BD-I型)を更新配備。
昭和53年	3月	消防パトロール車1台を購入、消防本部に配備。
	4月	消防職員4名採用（総数62名）
昭和54年	10月	日本損害保険協会から、消防ポンプ自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	4月	組織・機構改革。総務課に企画係・庶務係・予防第1係及び予防第2係、消防課に警備第1係・警備第2係・機械第1係・機械第2係に組織改正。 消防職員4名採用（総数64名）
	8月	加東消防事務組合と「消防相互応援協定」を締結。
昭和55年	2月	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入、消防署に更新配備。
	4月	第7代消防長に北川真昭氏就任。消防職員6名採用（総数69名）
昭和56年	3月	山之内製薬（株）から救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
	4月	組織・機構改革。消防本部総務課に企画係・庶務係・予防係・危険物係及び消防係、消防署に警備第1係・警備第2係・機械第1係・機械第2係・消防第1係・消防第2係・通信第1係・通信第2係・救急第1係及び救急第2係に組織改正した。消防職員4名採用（総数72名）
昭和57年	1月	緊急用資材搬送車1台を購入、消防本部に配備。
	4月	第8代消防長に上野成生氏就任。消防職員3名採用（総数75名）
	11月	美嚢郡吉川町と三木市との間における「消防事務委託に関する協定書」に調印。
	12月	三木ライオンズクラブから救急自動車1台寄贈を受け、消防署に配備。
昭和58年	2月	石対交付金事業により、現場指揮自動車1台を購入、消防本部に配備。
	3月	超短波無線前進基地局(よかわ)1台を整備、吉川町役場に設置。
	4月	三木市消防署吉川分署を開設し、化学消防自動車1台、普通ポンプ自動車1台、救急自動車1台及び消防吏員12名で業務を開始。 組織・機構改革。消防本部総務課に企画係・管理係・予防係及び危険物係を、消防署消防課に警備第1係・警備第2係・消防第1係・消防第2係・機械係・通信第1係・通信第2係・救急第1係及び救急第2係に組織改正。 消防職員6名採用（総数80名） 中国道のうち兵庫県の区域における消防相互応援に関する協定を締結。
	5月	第3代消防団長に小山伊一氏就任。
昭和59年	1月	水槽付ポンプ自動車及び消防ポンプ自動車各1台を購入、消防署に配備。
	3月	日本自動車工業会から救急自動車1台寄贈を受け、広野分署に配備。
	5月	8日午後9時6分覚知。三木市別所町下石野屋外物品集積所から出火し、古タイヤ約20,000本が焼失、翌朝に鎮火。
昭和60年	1月	化学消防ポンプ自動車(日野)1台を購入、消防署に更新配備。
	3月	消防本部の通信指令室・食堂及び待機室を改装整備。
	4月	第9代消防長に谷川齊氏就任。消防職員2名採用（総数80名）

昭和 60 年	5 月	三木市・小野市の両市境界上の消火栓新設等に関する覚書を締結。
	10 月	三木市消防団員定数 1, 113 名と定める。
	11 月	三田市、稲美町と「消防相互応援協定」を締結。
	12 月	加古川市と「消防相互応援協定」を一部改正、締結。
昭和 61 年	3 月	消防本部の消防・救急指令台を更新配備。
	7 月	大和ハウス工業㈱から水槽付ポンプ自動車(日野)1 台寄贈を受け、広野分署に配備。
	8 月	資材搬送車 1 台を購入、吉川分署に配備。
昭和 62 年	12 月	消防指令車 1 台を購入、消防本部に配備。
	3 月	消防本部無線基地局を更新設置。
昭和 63 年	8 月	消防本部の査察車 1 台を購入、更新配備。
	3 月	「舞鶴自動車道における消防相互応援協定」を締結。
平成 元年	4 月	組織・機構改革。消防本部に予防課を新設、総務課と 2 課制とし、総務課に企画係・管理係を、予防課に予防係・危険物係を置く組織改正。
		消防職員 2 名採用(総数 81 名)
	6 月	日本防火協会から三木市少年婦人防火委員会へ防火広報車「火の用心」号 1 台の寄贈を受ける。
	7 月	「中国道のうち兵庫県の区域における消防相互応援協定」を一部改正締結。
	8 月	「兵庫県広域消防相互応援協定」を締結。
	12 月	超短波無線基地(全国共通波・県内共通波)1 台を整備、消防署に設置。
平成 2 年	11 月	親と子の防火のつどい「幼年・少年・婦人防火安全大会」を開催。幼年・婦人防火クラブ員・消防関係者約 560 名が参加。パレードの後、文化会館において王子動物園の亀井一成氏を講師に招き講演会を開催。
	12 月	資機材搬送車 1 台を購入、広野分署に更新配備。
平成 3 年	8 月	日本消防協会から三木市消防団に広報車 1 台寄贈を受け、団本部に配備。
	3 月	救急自動車 1 台を購入、吉川分署に更新配備。
平成 4 年		救助工作車 1 台を購入、消防署に配備。
	4 月	消防職員 2 名採用(総数 81 名)
	12 月	資機材搬送車 1 台を購入、消防署に更新配備。
	3 月	はしご付消防自動車(日野・30m 級)1 台を購入、広野分署に配備。 (屈折はしご付ポンプ自動車は廃棄)
平成 5 年	4 月	消防職員 2 名採用(総数 83 名)
	10 月	広野分署の無線前進基地局を更新設置。
	2 月	兵庫衛星通信ネットワーク管理運営に関する協定書を締結。
	4 月	兵庫衛星通信ネットワーク設備を導入。
	9 月	神戸市救急救命士養成所に三木市から職員 1 名を派遣。養成研修を開始。
平成 6 年	10 月	準高規格救急自動車(トヨタ)1 台を購入、消防署に更新配備。
	11 月	15 日午後 2 時 32 分消防本部覚知。中国自動車道上り 41KP 付近でタンクローリーが中央分離帯に衝突炎上、ガソリン・軽油等 20,000L が燃え、神戸市からヘリ等特別応援を要請、三木市・神戸市から 13 台が出場。
	4 月	消防職員 3 名採用(総数 86 名)
		組織・機構改革。消防署消防課に高度救急担当を新設。
		救急救命士国家試験に合格。救命士誕生。(神戸市救急救命士養成所 1 名)
	10 月	美嚢郡吉川町と三木市との間における「消防事務委託に関する協定書」の一部

平成 6 年	1 0 月	改正に調印。
	1 1 月	市民に対する応急手当の普及啓発を推進するため、普通救命講習会を開始。
平成 7 年	1 月	1 月 1 7 日午前 5 時 4 6 分震度 7 の兵庫県南部地震が発生し、三木市内も全域にわたり被害を受けた。消防本部は、2 5 日まで神戸市応援を行う。
平成 8 年	3 月	消防ポンプ自動車(CD—I 型) 1 台を購入、広野分署に更新配備。 東播磨内陸地域 5 公立病院と「兵庫県東播磨内陸地域救急救命士に対する医師の 具体的指示等に関する協定書」に調印。 小型動力ポンプ付水槽車(II 型) 1 台を消防署に更新配備。 消防ポンプ自動車(CD—I 型) 1 台を吉川分署に更新配備。 三木第 4 分団・三木第 8 分団に消防ポンプ自動車(CD—I 型)に更新配備。
	4 月	第 1 0 代消防長に大貫盛行氏就任。消防職員 2 名採用(総数 8 6 名) 組織・機構改革。消防署消防課に防災指導担当を新設。 「中国自動車道のうち兵庫県の区域における消防相互応援協定の一部を改正する 協定書」に調印。
	9 月	兵庫県消防防災航空隊の発足、三木市から隊員として職員 1 名を派遣。
	1 0 月	高規格救急車 1 台・救急救命士 6 名体制で三木市高度救急業務を開始。 消防組織法に基づく三木市消防本部消防職員委員会を設置。 三木市災害対応総合情報ネットワークシステムが整備完了、運用開始。
	1 1 月	山陽自動車道の神戸ジャンクションから三木、小野インター間が開通、日本道路 公団等と消防相互応援協定を締結、消防及び救急業務を開始。
	1 2 月	三木第 6 分団消防器具庫竣工。(鉄筋 A L C 造、2 階建延べ 8 1 m ²)
平成 9 年	3 月	「山陽自動車道消防相互応援協定」及び「山陽自動車道消防相互応援協定に基づ く覚書」を日本道路公団及び兵庫県と締結。 消防指令車 1 台を購入、消防本部に更新配備。(トヨタクラウン・2 0 0 0 cc)
	4 月	消防職員 2 名採用(総数 8 8 名) 組織・機構改革。消防署広野分署に救急担当を新設。
	7 月	吉川分署配備の救急車に高度救急資器材を積載し、準高規格救急自動車に整備。
	1 2 月	高規格救急自動車 1 台を購入、広野分署に更新配備。 (いすゞスーパーメディック)
平成 1 0 年	1 月	高規格救急自動車 1 台・救急救命士 4 名体制で広野分署高度救急業務開始。
	4 月	組織・機構改革。消防本部に「警備課」を新設、消防署消防課を「消防第 1 課」 「消防第 2 課」に改正。 消防職員 4 名採用(総数 9 0 名) 代表消防本部を経由して携帯電話からの 1 1 9 番通報を受信開始。
	5 月	山陽自動車道の西神線開通。「三木ジャンクション」から「神戸西インター」ま での間、関係機関と応援協定を締結、消防及び救急業務を開始。
	9 月	アポロキャップを採用。
	1 0 月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈を受け、消防署に配備。
	1 2 月	山陽自動車道消防相互応援協定の一部を改正する協定を関係市町と締結。
平成 1 1 年	4 月	組織・機構改革。消防署吉川分署に救急担当を新設。
	7 月	3 台目の高規格救急自動車 1 台を購入、吉川分署に更新配備。(トヨタグランビ アハイメディック)救急救命士 3 名体制で吉川分署高度救急業務開始。
	1 2 月	新消防庁舎移転建設検討委員会・幹事会を消防本部内に設置。

平成 11 年	1 2 月	コンピューター西暦 2 0 0 0 年問題対策委員会を設置、危機管理計画作成。
平成 12 年	6 月	新消防庁舎基本構想を策定。
	9 月	「ガス漏れ及び爆発事故等の防止対策に関する覚書」を大阪ガスと締結。
	1 0 月	消防ポンプ自動車(CD—I 型) 1 台を購入、消防署に更新配備。 (ミツビシキャンター)
		広野分署梯子付消防自動車のオーバーホール完了。(日本機械工業 K・K) 消防 細川機動隊にポンプ自動車(BD—I 型) 1 台を更新配備。 (トヨタランドクルーザー)
		神戸市救急救命士養成所へ三木市から事務職員 1 名を派遣。
平成 13 年	1 2 月	資材搬送車 1 台を購入、消防署に更新配備。(ミツビシトラック)
	4 月	別所町コミュニティ消防センター竣工。(鉄骨造 2 階延べ面積 8 4 m ²) 喫煙室を設置し、消防本部庁舎における分煙を実施。
	5 月	査察車を購入、消防本部に更新配備。(ミツビシミニキャブ)
	7 月	4 台目の高規格救急車を購入、消防署に更新配備。(消防 1 1 号車を更新)
	1 0 月	三木市消防団に兵庫県知事から竿頭綬を授与。
	1 2 月	資材搬送車 1 台を購入、吉川分署に更新配備。(ミツビシトラック)
平成 14 年	1 月	口吉川第 4 分団裾原班・三木第 5 分団加佐西班に小型動力ポンプ軽四輪積載車 を配備。
	3 月	細川第 6 分団脇川班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
		事務連絡車 1 台を購入、吉川分署に更新配備(ミツビシミニキャブ)
	4 月	消防職員 1 名採用(総数 9 0 名)
		三木市消防団員定数改正。1, 1 1 3 名を 1, 0 0 6 名と定める。
		組織・機構改革。予防課に「設備担当」消防課に「調査担当」を新設。
	1 1 月	石対交付事業により、小型動力ポンプ(C—I 級) 2 台を購入、広野分署・吉川 分署に配備。
		三木市消防本部(署)防災センター設計者選定委員会設置。
平成 15 年	3 月	新消防庁舎建設に伴う調整池工事完了。 新消防庁舎用地(防災拠点施設整備事業用地)取得。(2 1, 4 3 9 m ²) 新消防庁舎建設に伴う建築提案設計の実施及び作品の決定。 消防吏員服制準則一部改正に伴い、三木市消防吏員服制規則(別表 2)を全面改 正。
	4 月	第 1 1 代消防長に岡本忠文氏就任。消防職員 2 名採用(総数 9 0 名)
	1 1 月	三木第 2 分団・口吉川第 2 分団大島班に小型動力ポンプ(B—I 3 級)を更新配備。
	1 2 月	別所第 3 分団西這田北班・口吉川第 2 分団榎班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を 配備。
平成 16 年	1 月	消防指揮車(三菱デリカ) 1 台を購入、消防署に更新配備。
	3 月	新消防庁舎建設に伴う実施設計。 兵庫県立広域防災センター竣工式に伴い、消防本部から 1 2 名、車両 4 台が一斉 放水訓練に参加、また、口吉川第 2 分団榎班による小型ポンプ操法を披露。
	4 月	兵庫県消防防災航空隊に、隊員として職員 1 名を派遣。 消防団にアポロキャップを採用し全団員に貸与。
	7 月	1 8 日未明に発生した福井県北部の豪雨災害に、1 8 日から 1 9 日の 2 日間、緊 急消防援助隊として、消防隊 1 隊(5 名)・救急隊 1 隊(3 名)を派遣した。 (東播ブロックから明石市・加古川市・高砂市・三木市の各消防本部を派遣) 緊急消防援助隊法制化以降、初の出動となった。

平成16年	10月	20日に発生した台風23号により豊岡市で豪雨災害が発生、兵庫県下広域応援隊として、21日から22日の2日間、救急隊1隊(3名)が出動した。 (東播ブロックから明石市・加古川市・加西市・加東行政・高砂市・三木市の各消防本部が出動)
	12月	志染機動隊・別所町第3分団花尻班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
平成17年	3月	三木第5分団加佐東班・細川第1分団に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
	4月	消防職員2名採用(総数90名)
	8月	財団法人日本宝くじ協会から、防災整備事業助成として消火・通報訓練指導車の寄贈を受け、消防本部に配備。
	10月	「消防事務委託」を受託していた、美囊郡吉川町と合併。 三木市消防団員定数改正。1,006名を1,428名と定める。
	11月	携帯電話からの119番緊急通報が直接受信方式に変更。
平成18年	12月	高規格救急自動車(ニッサン エルグランド パラメディック)1台を購入。消防署に更新配備。
	2月	別所第4分団下石野班・ロ吉川第2分団大島班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。三木第5分団加佐東班・ロ吉川第5分団東中班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
	3月	水槽付消防ポンプ自動車(水I-A)1台を購入、吉川分署に更新配備。 延田興業から高規格救急自動車(トヨタ グランビア ハイメディック)の寄贈を受け、広野分署に配備。 毎月10日を住宅用火災警報器推進デーと定め、住宅用火災警報器推進隊(平成23年5月まで)を発足。
	4月	第12代消防長に竹中誠一氏就任。消防職員3名採用(総数90名)
	9月	行幸啓に伴う現地警備を実施。
	10月	のじぎく兵庫国体のソフトテニス・サッカー・馬術競技会場及び、のじぎく兵庫大会障害者サッカー大会に職員延べ130名、車両延べ52台を持って現地警備を実施。 第20回全国消防操法大会が三木市の兵庫県広域防災センターで開催される。
	11月	消防本部(署)庁舎の実施設計の変更。
	2月	岩宮・花尻・保木班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。ロ吉川機動隊・三和平田・殿畑班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
	3月	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(II型)を購入。消防署に配置。
	4月	第13代消防長に常深譲氏就任。消防職員5名採用(総数90名)
平成19年	5月	第4代消防団長に中西君一氏就任。
	8月	消防庁舎建設の工事始まる。
	10月	神戸市消防局警防部救急救助課へ三木市から事務職員1名を派遣する。 はしご付消防自動車のオーバーホールを実施。
平成20年	3月	東這田・殿畑・西這田南・久次・南畑・桃坂班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。窟屋・豊岡班に小型動力ポンプ(B-3級)を更新配備。
	3月	まとい会の五百蔵幸三氏より、広報車1台と軽四輪消防車2台の寄贈を受け消防署と広野分署に配備。 自治体消防制度60周年記念式典に消防長、消防団長、消防副団長が参加。
	4月	組織、機構改革。「総務課」に管理係・企画係・指令係を、「警防第1・2課」に消防係・警防係を、また「救急救助課」を新設し救急係・救助装備係を置く。 消防職員3名採用(うち、1名は消防本部発足後、初の女性消防職員)

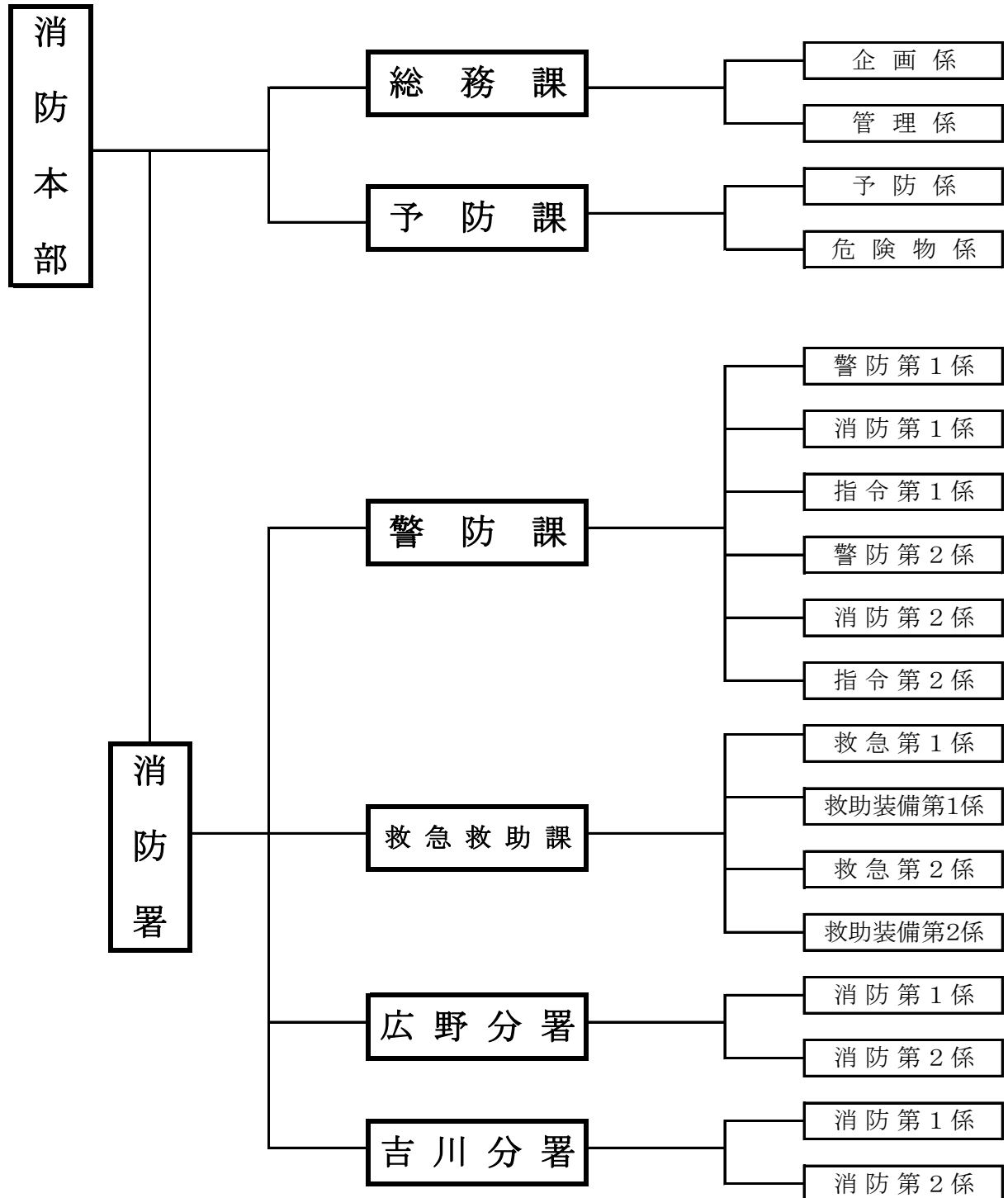
平成 20 年	4 月	新消防庁舎完成。 庁舎(鉄筋コンクリート造・2階建て延べ面積 2, 7 8 7 m ²) 備蓄倉庫・一般車両倉庫(鉄骨造平屋建て面積 4 9 5 m ²) 訓練塔(鉄筋コンクリート造 5 階建て延べ面積 2 9 4 m ²) 高機能消防指令システム I 型(N E C)整備。 新消防庁舎竣工式と市民見学会を実施。
	5 月	北播消防協議会総会をグリーンピア三木で開催する。
	1 1 月	口吉川機動隊に普通小型動力ポンプ積載車を配備。平井班、興治班、窟屋班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。細川第 2 分団・前田班・古川班に小型動力ポンプ(B—3 級)を更新配備。
平成 21 年	4 月	第 1 4 代消防長(理事兼防災監)に井上茂利氏就任。 消防職員 4 名採用(総数 9 2 名) 三木市消防団員定数改正。1, 4 2 8 名を 1, 3 6 0 名と定める。
	8 月	御坂班・戸田班に小型動力ポンプ付軽四輪積載車を配備。三木第 2 分団に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	1 1 月	平成 21 年度秋季兵庫県下消防長会をグリーンピア三木にて開催。
平成 22 年	2 月	兵庫県下消防長会警防事務担当者会議を消防本部にて開催。
	3 月	広野分署に水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ)を更新配備。
	4 月	第 1 5 代消防長に高谷尚志氏就任。 消防職員 3 名採用(総数 9 1 名)
	9 月	総務省消防庁から無償貸与を受けた消防団救助資機材搭載車両を志染機動隊に更新配備。 別所機動隊に普通小型動力ポンプ積載車を配備。
	1 2 月	消防団員リーダー研修として、各地区から消防団員が各種防災知識の習得ならびに実技訓練を実施する。
		吉川分署に高規格救急自動車を更新配備。
平成 23 年	3 月	東日本大震災の被災地に、3 月 1 1 日から 4 月 2 1 日の 4 2 日間、兵庫県緊急援助隊として消火隊 1 隊を派遣し、3 3 名の隊員が捜索・情報収集・火災警戒活動にあたる。
	9 月	三木第 6 分団に普通小型動力ポンプ積載車を配備。
	1 0 月	和田班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。渡瀬法光寺班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	1 1 月	細川第 1 分団・毘沙門班・新田班に小型動力ポンプ(B—3 級)を更新配備。
	1 月	資材搬送車を 1 台購入。消防署に更新配備。
	2 月	東播地区消防本部 N B C 災害対応訓練を三木山総合運動公園で実施。東播 7 消防本部・三木警察、延べ 7 5 名参加し(県広域消防相互応援協定に基づき)災害対応能力向上、連携強化を図った。
平成 24 年	3 月	消防団にワッペンを採用し機動隊に貸与。 救助工作車Ⅱ型を消防署に更新配備。
	4 月	消防職員 2 名採用(うち、1 名は消防本部発足後、初の救急救命士有資格者) 消防団に 9 隊目の吉川機動隊が発足。
	1 0 月	7 名の隊員が指揮支援隊の委嘱を受け、三木市消防署指揮支援隊発隊。 兵庫県広域防災センター、神戸空港島内訓練会場で実施された緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練に救急部隊として参加。 消防救急デジタル無線実施設計業務委託。

平成 24 年	1 1 月	グリーンピア三木グリーンピアホールにおいて、三木防火協会創立 50 周年記念式典を開催。
	1 2 月	一般社団法人日本損害保険協会から高規格救急自動車の寄贈を受け、消防署に更新配備。 三木第 3 分団久留美班、別所第 5 分団和田班、吉川第 5 分団貸潮班に小型動力ポンプ(B-3 級)を更新配備。
	3 月	小和田神社で機動隊合同林野火災防ぎょ訓練を実施。
平成 25 年		日本消防協会より消防団多機能型車両の寄贈を受け、吉川機動隊に配備。
	4 月	第 16 代消防長に森本英樹氏就任。 消防職員 4 名採用(総数 91 名)
	7 月	3 か年計画で消防救急無線デジタル化整備工事に着手。
	10 月	吉川第 7 分団上荒川班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	11 月	吉川第 8 分団富岡班、志染第 1 分団戸田班、別所第 2 分団東這田班、吉川第 4 分団西奥班に小型動力ポンプ(B-3 級)を更新配備。 東京ドームで開催された消防団 120 年・自治体消防 65 周年記念大会に団長以下 18 名が参加。
平成 26 年	4 月	消防職員 5 名採用(総数 91 名) 兵庫県消防防災航空隊に隊員として職員 1 名を派遣。
	6 月	広野分署耐震診断及び耐震補強計画実施設計業務委託。
	7 月	第 25 回北播消防操法大会が兵庫県消防学校で行われ、別所第 3 分団花尻班が小型ポンプの部で優勝。
	10 月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が和歌山県で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。 志染第 4 分団東吉田班、別所第 4 分団下石野班、吉川第 1 分団福吉班に小型動力ポンプ(B-3 級)を配備。
	11 月	口吉川第 5 分団西中班、東中班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
平成 27 年	1 月	吉川分署に消防ポンプ自動車(CD-I 型 C A F S 装置付)を更新配備。
	3 月	東洋物産工業から高規格救急自動車(トヨタ ハイエース ハイメディック)の寄贈を受け、広野分署に配備。
	4 月	消防職員 7 名採用(総数 91 名) 三木市消防本部発足 50 周年を迎える。
	5 月	北播消防協議会総会をメゾン・ド・リヴァージュで開催する。
	6 月	三木市内コンビニ全店舗に A E D 設置事業を開始。 広野分署庁舎耐震補強工事及び庁舎改修工事に着手。
	10 月	緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が京都府で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。
	11 月	三木市消防本部 50 周年記念誌を発刊。 細川第 5 分団高篠班、吉川第 1 分団稲田班に小型動力ポンプ(B-3 級)を更新配備。 小型動力ポンプ付軽四輪積載車を高木班に更新配備。
	12 月	広野分署に消防ポンプ自動車(CD-I 型 C A F S 装置付)を更新配備。
平成 28 年	2 月	広野分署庁舎耐震補強工事及び庁舎改修工事完了。
	4 月	第 17 代消防長に藤原秀行氏就任。 消防職員 3 名採用(総数 91 名) 熊本地震の被災地に、4 月 16 日から 22 日の 7 日間、兵庫県緊急消防援助隊として後方支援隊 1 隊を派遣し、6 名の隊員が活動にあたる。

平成28年	4月	平成25年から整備を進めてきた消防救急デジタル無線を運用開始。
	10月	三木第1分団与呂木班、細川第1分団、口吉川第2分団楨班に小型動力ポンプ（B－3級）を更新配備。 吉川第6分団山上班、吉川第8分団富岡班に軽四輪積載車を新規及び更新配備。 緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が奈良県で行われ、東播ブロックの後方支援部隊として参加。 消防署に高規格救急自動車を更新配備。
平成29年	11月	消防署にはしご付消防自動車を更新配備。
	4月	消防職員3名採用（総数91名） 兵庫県消防学校に研修教官として職員1名を派遣。 組織・機構改革。消防本部「指令係」を消防署「警防課指令係」に組織改正。
平成30年	10月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が大阪府で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。 志染第2分団井上班、吉川第2分団奥谷班に小型動力ポンプ（B－3級）を配備。
	12月	消防署に消防ポンプ自動車（CD－I型CAFS装置付）を更新配備。
	2月	三木第4分団にCD－I型消防ポンプ自動車を更新配備。
	3月	極東開発工業株式会社三木工場に三木市消防団企業連携消防団を発足。
	4月	消防職員6名採用（総数94名うち再任用2名） 組織・機構改革。消防署「警防第1課、警防第2課」を「警防課」に組織改正。 警防課長を新設し、「警防1部、警防2部」に組織改正した。
	9月	三木第1分団宿原班、三木第7分団鳥町班に小型動力ポンプ（B－3級）を更新配備。
	11月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が福井県で行われ、東播ブロックの後方支援部隊として参加。
平成31年	12月	消防署広野分署に、大規模停電発生時に備えた72時間電源確保を目的に非常用発電設備を設置。
	3月	三木第8分団にCD－I型消防ポンプ自動車を更新配備。 消防署に大型水槽付消防ポンプ自動車を更新配備。
	4月	消防職員6名採用（総数95名うち再任用2名） 高機能指令システムの更新に伴う実施設計業務を委託。 ゴルフ場におけるドクターヘリ運用の覚書を市内ゴルフ場と締結。
令和元年	5月	消防力の適正配置等に関する調査分析業務を委託。
	6月	第78回東播地区警防主幹者会議を三木市消防本部で開催。 消防本部（署）外壁クラック補修工事に着手。
	9月	三木第3分団岩宮班、三木第5分団加佐西班、別所第1分団小林班、吉川第2分団東田班に小型動力ポンプ（B－3級）を更新配備。 消防本部（署）外壁クラック補修工事完了。
	10月	小型動力ポンプ付軽四輪積載車を三木第5分団加佐西班、吉川第2分団東田班に更新配備。
令和2年	12月	消防署にCD－I型水槽付消防ポンプ自動車を更新配備。 日本消防協会から防災活動車（SUV型）の寄贈を受け、消防本部に更新配備。
	2月	消防署に高規格救急自動車を新規配備し、救急予備車（消防11号車）運用開始。
	4月	消防職員7名採用（総数99名うち再任用6名）

消防組織

令和2年4月1日現在



事務分掌

総務課	企画係	消防施設整備、補助事務、広報、公聴、県消防協会、団員任免、表彰・災害補償・退職報償事務・教養訓練、北播消防協議会、団事務組織、制度の企画、消防力の整備指針
	管理係	庶務事務連絡調整、渉外事務、文書收受発送配布、予算編成執行調整、決算、収入支出命令、職員給与、物品調達、職員任免・定員・服務・表彰・懲戒事務、人事管理、職員服制・福利厚生・教養訓練計画、消防職員委員会、消防年報編集、職員公務災害、庁舎維持管理
予防課	予防係	設備設置指導、事前協議、消防同意、予防統計、火災予防査察、予防条例、防火管理講習、火災予防運動、消防訓練、住宅用火災警報器設置推進、防火団体の育成指導、防火教室
	危険物係	県移譲事務、立入検査、危険物の許認可及び検査、火災予防条例、危険物統計、防火協会、火災予防思想の普及、消防広報
警防課	警防第1・2係	危機管理情報収集、水防計画、水防資機材整備、火災警報注意報、開発指導、統計、消防水利施設配置計画・管理補修、消防水利の基本計画、災害現場の情報収集及び広報、警防計画、相互応援協定、緊急消防援助隊等広域災害への体制整備
	消防第1・2係	災害防ぎょ活動、水防業務、救急救助活動、地水利調査保全、通信・気象情報、機械器具整備保全、火災原因調査、消防訓練、り災証明、火災統計、震災対策並びに警防業務の推進、防火教室、自主防災組織の訓練等指導、自主防火防災対策の推進
	指令第1・2係	通信施設の設置運用、災害受報及び出動指令、非常招集計画、通信統制・災害情報、気象情報、通信機械器具整備保全、有無線電話の維持管理、災害対応総合ネットワークシステム管理
救急救助課	救急第1・2係	救急業務計画・運用、救急関係機関との協議調整、救急教育訓練、救急資器材配置保管、救急法指導、救急統計、高度救急業務推進、応急手当普及、救急資機材整備
	救助装備第1・2係	救助業務計画・運用、救助教育訓練、救助統計、消防機械器具の運用及び整備保安、消防自動車の登録検査、機関員及び整備員の養成、機械器具改善、燃料、安全運転、事故防止対策、消防車両の更新及び維持管理
広野分署	消防第1・2係	災害防ぎょ及び救急救助活動、水防業務、通信及び気象情報、機械器具の運用及び整備保全、火災原因及び損害、消防訓練、調査、地水利調査、救急救助訓練、救急救助業務、自主防災組織の訓練等指導
吉川分署	消防第1・2係	災害防ぎょ及び救急救助活動、水防業務、通信及び気象情報、機械器具の運用及び整備保全、火災原因及び損害、消防訓練、調査、地水利調査、救急救助訓練、救急救助業務、自主防災組織の訓練等指導

管内図



**三木市消防署
吉川分署**



**三木市消防本部
三木市消防署**



**三木市消防署
広野分署**

消防庁舎の概要

庁 舎 名	所 在 地	建築年月日 構 造	面 積 (㎡)		
			敷 地	建 築	延
三木市消防本部 三木市消防署	三木市福井 1933番15	平成20年 3月31日 鉄筋コンクリート造 地上2階	10,390.000	1,553.357	2,786.852
三木市消防署 広野分署	三木市志染町 広野5丁目1	昭和52年 3月 7日 鉄筋コンクリート造 地上2階	1,828.145	402.705	559.140
三木市消防署 吉川分署	三木市吉川町 大畑480番地	昭和58年 3月30日 鉄筋コンクリート造 平屋建	1,446.230	419.340	419.340

消防相互応援協定

(令和2年4月1日現在)

市 町 村 等	締 結 年 月 日	改 正 年 月 日
加 古 川 市	昭和42年 7月 1日	平成20年 3月 1日
小 野 市	昭和42年 7月 1日	平成23年 3月14日
神 戸 市	昭和43年10月 1日	平成19年 1月19日
三 田 市	昭和60年11月 1日	平成22年12月 6日
北はりま消防組合(西脇市・加西市 加東市・多可町)消防相互応援協定	平成23年 6月 6日	
中国道のうち兵庫県のある区域	昭和58年 4月 1日	平成27年 9月26日
舞鶴若狭自動車道における 消防相互応援協定	昭和63年 3月 24日	平成27年 2月18日
兵庫県広域消防相互応援協定	昭和63年 8月 1日	平成25年10月23日
山陽自動車道消防相互応援協定	平成 9年 3月 26日	平成30年 4月 1日

条例規則等の制定改正状況

(令和2年4月1日現在)

公布年月日	条 例 規 則 等 の 名 称	制定改正等の別
平成26年 6月20日	三木市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例	改 正
平成28年 3月26日	三木市火災予防条例	改 正
平成29年 3月27日	三木市消防団条例	改 正
平成30年 3月29日	三木市手数料条例	改 正
平成30年 4月 1日	三木市消防本部の組織に関する規則の一部	改 正
平成30年 4月 1日	三木市消防団規則	改 正
平成30年12月21日	三木市火災予防条例の一部	改 正
平成30年12月21日	三木市火災予防規則の一部	改 正
平成31年 3月27日	三木市職員定数条例の一部	改 正
令和 元年 6月26日	三木市火災予防条例の一部	改 正

令和元年度主要行事

月 日	行 事	内 容
4月14日	消防団幹部、機関員及び新入団員教養訓練実施	三木市消防本部において消防団員391名の教養訓練を実施した。訓練礼式、消防ポンプの操作要領、水防工法講習を行い、団員の技術向上と士気の高揚を図った。
4月28日	三木市消防大会	三木市文化会館駐車場及び文化会館小ホールにおいて、消防関係者1,198名参加のもと、消防車両42台の行進、操法の披露、一斉放水等の部隊訓練や、職員・団員・事業所等8団体214名に表彰状、87名に感謝状を贈呈した。子どもを含め見学者も多く、消防ふれあいコーナーも盛況であった。
5月30日 ～31日	水防訓練	消防緊急指令システムと三木市水防計画に基づく初動体制の確立、各担当部署の連絡体制の確認訓練を実施した。
6月2日 ～8日	危険物安全週間	危険物災害の未然防止を図るため、「無事故への 構え一分の 隙も無く」を危険物安全週間推進標語に、ポスター・懸垂幕等による広報活動、危険物施設の火災想定消火訓練を吉川町畑枝の株式会社Mizkan三木工場で実施し、危険物施設への立入検査などを実施し危険物の安全管理の徹底に努めた。
7月20日	第48回消防救助技術近畿地区指導会	兵庫県広域防災センターの訓練施設で開催された大会に、ロープブリッジ渡過3人、ほふく救出1チーム3人、ロープブリッジ救出1チーム4人が出場し、ロープブリッジ渡過3人とロープブリッジ救出が入賞した。
8月7日 ～9日	北播磨救急連絡部会の応急手当普及員講習会	令和元年度の応急手当普及員講習会は北はりま消防組合西脇消防署で開催。三木市からは6人が受講した。
8月21日 ～22日	甲種防火管理新規講習	三木市消防本部で2日間にわたり講習会を開催。事業所等から47名が受講し、講習修了証を交付した。
9月8日 ～14日	「救急の日」及び「救急医療週間」	救急医療及び救急業務に対する市民の正しい理解と認識を深めるために、救急広報パネルの展示や救急法講習会等を実施。
9月10日	集団災害救急訓練	多数傷病者発生時における、消防機関と医療機関との現場での円滑な連携、指揮運用強化を目的に兵庫県立加古川医療センター、北播磨総合医療センター、小野市消防本部との4機関合同実働訓練を施した。また、患者役として関西国際大学の学生が参加した。
9月29日	第39回防災フェスティバル 三木市総合防災訓練 兵庫県消防防災航空隊連携訓練	関係者及び市民約2,200人が参加し、「火災のない明るいまちづくり運動」の一環として本大会を開催し、企業及び市民一人ひとりの防火防災に対する正しい知識の習得と、防災技術の向上を図ることにより自主防災体制を確立し、三木市から災害の絶滅を期することを目的として実施した。

月 日	行 事	内 容
10月25日	神戸市西消防署との情報交換会	三木市消防署広野分署において、隣接市消防相互応援協定及び覚書に基づく活動内容の再確認、相互協力体制の確立を図ることを目的に情報交換会を行った。
10月27日	兵庫県広域防災センター実戦デモ訓練	阪神・淡路大震災から25年の節目を迎えるにあたり、消防、警察、自衛隊及び関係機関による実戦的な訓練が兵庫県広域防災センターで開催され、車両4台16名の消防隊員が参加。三木市消防団志染第3分団窟屋班が小型ポンプ操法を披露した。
11月9日 ～15日 3月1日 ～7日	秋の火災予防運動 春の火災予防運動	『ひとつずつ いいね！で確認 火の用心』を統一標語に、NESTA RESORT KOBEにおいて消防総合訓練、一日消防士研修会、消防展等を開催した。春には、消防展の開催等の諸行事を行い、火災の未然防止と啓発を行った。
11月11日 ～12日	警防錬成会	消防本部訓練場において、火災現場における即応能力の向上及び消火技術伝承を目的に警防錬成会を実施した。
11月11日 ～15日	トライやる・ウィーク (中学生体験活動)	学校、家庭、地域社会連携のもと、心の教育の充実を図ることを目的として実施されたトライやる・ウィークで、市内3中学校から4名を受け入れ、防火・防災に関する知識と防災技術の習得及び各種訓練体験を行った。
12月1日	消防団員現地訓練	消防本部訓練場において、各地区の代表が小型ポンプ操法を実施し、兵庫県消防学校教官から審査と講評をいただき、更なる技術の向上を図った。
12月27日 ～1月5日	年末年始火災特別警戒実施	看板設置・広報パトロール及び消防団夜間特別警戒を実施した。
12月17日	北はりま消防本部加東消防署東条出張所との連携消防訓練	通常応援区域における火災を想定した小隊連携訓練を実施した。合同訓練により隣接している加東消防署東条出張所との連携活動の質の向上を図った。
1月26日	第66回文化財防火デーに伴う消防訓練	市民への火災予防の周知徹底及び防火意識の高揚並びに消防隊員の初動体制の確立と消防技術の向上を目的として、吉川町の「湯川山 法光寺」にて訓練を実施した。
年 間	住宅用火災警報器推進	住宅用火災警報器の設置推進と維持管理の啓発を図るため、職員により文化祭等のイベントで広報活動を実施した。

総務編



事務事業の現況

市民の安全で安心な暮らしを守るため、「災害に強いまちづくり」を重点施策とし、住民の期待に応えるべく、時代に即した消防体制の充実を始め、救急業務の高度化、高齢化を迎えての防災対策、消防施設整備に取り組んでいます。

令和元年度実施事業は、現状の消防力の運用効果、今後の消防需要と人員運用を算定する消防力の適正配置等に関する調査分析業務委託、高機能指令システム更新に向けた実施設計委託、C D－I 型水槽付消防ポンプ自動車、高規格救急自動車、小型動力ポンプの更新等、消防力の強化を図ると共に、消火栓ボックスの整備など地域防災体制の充実、また、消防職、団員の資質向上のため、消防大学校、兵庫県消防学校への派遣教育、救急救命士の養成、各種資格の取得研修訓練を実施し、防災体制の確立に努めました。

消防施設整備事業

令和元年度

事業名	数量	設置場所
消火栓ボックスセット	12	大二谷（１）、広野（１）、あさひが丘（２） 加佐西（３）、窟屋（１）、下石野（１） 中自由が丘1丁目（１）、朝日ヶ丘（２）
消火栓ボックス（ボックスのみ）	4	西中（２）、豊岡（１）、久留美（１）
消防器具庫修繕	2	跡部、三木第6分団
小型動力ポンプ（B－3級）	4	岩宮、加佐西、小林、東田
サイレン修理	2	高篠、毘沙門
ホース干し新設	2	跡部、興治
ホース干し修繕	2	金屋、吉安上
サイレン新設	1	大二谷
軽四輪積載車	2	加佐西、東田
C D－I 型水槽付消防ポンプ自動車	1	消防署（本署）
高規格救急自動車	1	消防署（本署）
消防庁舎外壁クラック補修工事	1	消防署（本署）
新通信指令システム実施設計委託	1	消防署（本署）

消防予算

消防予算年度別比較

(単位：千円)

年度	市一般会計予算	消防予算	比率	常備消防費	非常備消防費	消防施設費	水防費	災害対策費
22	28,350,000	953,433	3.4	798,633	90,650	51,384	117	12,649
23	29,510,000	951,622	3.2	797,514	89,867	51,722	118	12,401
24	29,960,000	947,015	3.2	802,722	91,625	16,941	120	35,607
25	29,800,000	1,154,978	3.9	774,883	91,291	257,158	93	31,553
26	29,330,000	966,668	3.3	779,488	95,399	58,922	135	32,724
27	30,470,000	1,005,552	3.3	813,965	95,965	69,976	125	25,521
28	31,020,000	1,093,345	3.5	755,788	99,839	212,558	152	25,008
29	30,880,000	956,757	3.1	755,903	102,881	77,367	136	20,470
30	31,610,000	1,035,888	3.3	807,104	102,424	103,936	136	22,288
R元	32,770,000	1,059,498	3.2	805,440	102,879	129,912	136	21,131

消防予算に対する市民負担

年度	区分	消防予算 (千円)	人 口	世帯数	負 担	
					市民一人当り(円)	一世帯当り(円)
22		953,433	82,193	32,094	11,600	29,708
23		951,622	81,529	32,246	11,672	29,511
24		947,015	80,926	32,306	11,702	29,314
25		1,154,978	80,065	32,414	14,426	35,632
26		966,668	79,479	32,658	12,163	29,600
27		1,005,552	79,014	32,939	12,726	30,528
28		1,093,345	78,516	33,159	13,925	32,973
29		956,757	78,100	33,435	12,250	28,615
30		1,035,888	77,552	33,729	13,357	30,712
R元		1,059,498	76,929	34,033	13,772	31,131

消防予算節別比較

(単位：千円)

目	節 / 年度	令和2年度	令和元年度	前年度に対する増減
常備消防費	給料	360,639	357,984	2,655
	職員手当等	237,264	237,838	△ 574
	共済費	119,399	116,135	3,264
	報償費	209	206	3
	旅費	2,440	2,322	118
	交際費	10	10	0
	需用費	38,817	37,111	1,706
	役務費	11,455	10,843	612
	委託料	25,825	29,465	△ 3,640
	使用料及び賃借料	3,449	2,209	1,240
	工事請負費	0	0	0
	原材料費	5	5	0
	備品購入費	2,237	1,097	1,140
	負担金補助及び交付金	9,928	9,618	310
	公課費	703	597	106
	小計	812,380	805,440	6,940
非常備消防費	報酬	18,499	18,499	0
	報償費	46,573	34,443	12,130
	旅費	5,000	5,000	0
	需用費	2,560	2,054	506
	役務費	1,427	1,504	△ 77
	委託料	0	0	0
	使用料及び賃借料	69	65	4
	備品購入費	2,664	324	2,340
	負担金補助及び交付金	40,594	40,495	99
	公課費	397	495	△ 98
	小計	117,783	102,879	14,904
消防施設費	需用費	1,532	1,492	40
	役務費	289	416	△ 127
	委託料	1,700	5,300	△ 3,600
	使用料及び賃貸料	0	0	0
	工事請負費	16,500	3,000	13,500
	原材料費	15	150	△ 135
	公有財産購入費	0	0	0
	備品購入費	380,100	115,800	264,300
	負担金補助及び交付金	1,235	3,657	△ 2,422
	公課費	26	97	△ 71
	小計	401,397	129,912	271,485
水防費	需用費	111	111	0
	原材料費	25	25	0
	小計	136	136	0
災害対策費	報酬	96	92	4
	報償費	60	60	0
	旅費	100	100	0
	需用費	13,271	8,523	4,748
	役務費	2,263	1,339	924
	委託料	13,685	3,690	9,995
	使用料及び賃借料	4,103	3,015	1,088
	工事請負費	46,800	0	46,800
	備品購入費	15,040	0	15,040
	負担金補助及び交付金	5,380	4,279	1,101
	公課費	0	33	△ 33
	小計	100,798	21,131	79,667
合計		1,432,494	1,059,498	372,996

△印は減少

消防職員

職員の配置状況

(令和2年4月1日現在)

階級 所属			消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	合 計
総 数			1	16	25	22(6)	6	29	99(6)
消 防 本 部	消 防 長		1						1
	次 長			1					1
	総務課	企 画 係		3	3	1(1)		1	20(1)
		管 理 係			1	1	1	1	
		派 遣				1		7	
	予防課	予 防 係		2	2	3(1)		2	13(1)
		危険物係			1	1		2	
小 計			1	6	7	7(2)	1	13	35(2)

消 防 署	署 長		1					1
	警防課	警 防 係	5	3	1(1)		1	22(3)
		消 防 係		2	1		4	
		指 令 係		1	3(2)	1		
	救急救助課	救 急 係	2	3	4(1)			13(1)
		救助装備係		2	1		1	
	広野分署		1	3	2	2	6	14
	吉川分署		1	4	3	2	4	14
	小 計		10	18	15(4)	5	16	64(4)

※()は再任用

職員年齢構成及び階級別消防吏員数

(令和2年4月1日現在)

年齢 \ 階級	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	小 計
18歳						1	1
19歳						3	3
20歳						5	5
21歳						4	4
22歳						4	4
23歳						2	2
24歳						3	3
25歳						6	6
26歳					1	1	2
27歳					3		3
28歳				3			3
29歳				2	2		4
30歳				1			1
31歳							0
32歳				1			1
33歳				2			2
34歳			1	2			3
35歳			1	2			3
36歳			1	3			4
37歳			3				3
38歳							0
39歳			2				2
40歳			1				1
41歳			1				1
42歳			1				1
43歳							0
44歳			2				2
45歳			3				3
46歳			5				5
47歳			1				1
48歳							0
49歳							0
50歳			1				1
51歳							0
52歳		1					1
53歳		1	1				2
54歳		1					1
55歳		4					4
56歳		1	1				2
57歳		3					3
58歳		4					4
59歳	1	1					2
60歳以上				6(6)			6(6)
総 数	1	16	25	22(6)	6	29	99(6)
平均年齢	59	56	43	32(61)	28	22	37.6(60)

※()は再任用

職員資格取得状況

(令和2年4月1日現在)

階級 種別			合計	消 防 司令長	消 防 司令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士
職 員 数			99	1	16	25	22	6	29
予 防	消 防 設 備 士		8	0	4	1	3	0	0
	危険物取扱者	乙 種	55	1	5	20	15	4	10
		丙 種	24	0	11	10	3	0	0
	予防技術資格者 ※()は 検定合格者	防火査察	12(32)	0(0)	4(1)	6(17)	2(8)	0(4)	0(2)
		消防用設備等	10(9)	0(0)	4(0)	4(6)	2(3)	0(0)	0(0)
		危険物	8(13)	0(0)	2(1)	4(8)	2(4)	0(0)	0(0)
通 信	2 級陸上特殊無線技士		92	1	16	25	22	6	22
	アマチュア無線技士		10	0	5	3	2	0	0
技 術	自動車運転免許	大 型	58	1	11	22	18	4	2
		中 型	7	0	2	2	3	0	0
		中型8 t 限定	6	0	3	1	1	0	1
		準中型	0	0	0	0	0	0	0
		準中型5 t 限定	9	0	0	0	0	1	8
		普 通	19	0	0	0	0	1	18
救 急	救 急 隊 員		55	0	9	7	14	5	20
	救 急 救 命 士		38	1	7	18	8	1	3
	指 導 救 命 士		3	0	0	3	0	0	0
	認定救急救命士	気管挿管	28	0	4	17	4	1	2
		薬剤投与	30	0	6	17	4	1	2
		ビデオ喉頭鏡	26	0	4	16	3	1	2
		拡大二行為	23	0	1	16	4	0	2
	応 急 手 当 指 導 員		75	1	7	20	19	6	22
救 助	特定化学物質等作業主任者		3	1	0	1	1	0	0
	小型移動式クレーン修了者		38	0	8	17	12	1	0
	玉掛け技能講習修了者		38	1	11	14	10	1	1
	2 級小型船舶操縦士		6	0	3	2	1	0	0
総 務	潜 水 士		12	0	1	5	3	2	1
	衛生管理者		2	0	2	0	0	0	0
	衛生推進者		2	0	2	0	0	0	0

※再任用含む

職員研修

消防業務の多様化に伴い、高度な専門的知識及び幅広い見識を持った職員を育成するため、消防学校教育及び各種の研修会等に職員を派遣しています。

(令和元年度)

研 修 名			期 間	人 数
消防大学校 専科教育 幹部科			3 3 日	1
救急救命東京研修所 第 5 6 期研修			6 ヶ月	1
兵庫県消防学校	専科教育	初任教育	6 ヶ月	6
		予防査察科	1 0 日	1
		火災調査科	1 0 日	1
		救急科	3 8 日	6
		救助科	2 2 日	1
	特別教育	災害現場指揮科	3 日	1
		通信指令科	5 日	1
	救急救命士養成課程		7 ヶ月	1
	指導救命士養成研修		1 2 日	1
	山岳救助器具取扱技術研修		3 日	1
	ポンプ操法研修		1 日	2
実火災体験型訓練（ホットトレーニング）			1 日	10
火災科学セミナー			1 日	2
災害派遣医療チーム（DMAT）研修			1 日	4
兵庫県災害医療センター救急救命士研修			8 日	5
兵庫県立加古川医療センター救急救命士研修			8 日	5
医療従事者蘇生トレーニングコース（ICLS）			1 日	2
病院前外傷救護（JPTEC）研修			1 日	3
多数傷病者への対応標準化トレーニングコース（MCLS）			1 日	1
近畿救急医学研究会救急隊員部会			1 日	3
小型船舶操縦免許講習（湖川小出力）			2 日	2
玉掛け技能講習会			3 日	1
小型移動式クレーン運転技能講習会			3 日	1
惨事ストレス研修			2 日	1
接遇研修（播磨内陸広域行政）			1 日	2
政策法務研修			1 日	5
管理職研修			2 日	2
監督職研修			3 日	2
監督職研修（播磨内陸広域行政）			2 日	1
ハラスメント等相談窓口相談員向け研修会			1 日	1
ソリューションフォーカス研修（播磨内陸広域行政）			1 日	1
消防実務講習会			1 日	1
クレーム対応力向上研修			1 日	1
サイバーセキュリティ研修会			1 日	2
消防財政実務講習会			1 日	1
衛生推進者養成講習会			1 日	2
安全運転管理者等講習			1 日	2
消防職員安全衛生研修会			2 日	1
面接官研修			1 日	1
パソコン研修			2 日	2

消防表彰等状況

(令和元年度)

種 別 \ 階 級		合 計	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士
消防庁長官表彰	永年勤続功労章	1		1				
全国消防協会会長表彰	全国優良消防職員	1		1				
兵庫県知事表彰	功労章	3		3				
	永年勤続功労章	2			2			
全国消防長会会長表彰	消防特別功労者	0						
	30年永年勤続功労章	0						
三木市長表彰	40年永年勤続職員	2	1	1				
	30年永年勤続職員	0						
	20年永年勤続職員	0						
三木市消防長表彰	優 良 職 員	4			1	3		
三木市消防署長表彰	優 良 職 員	6					2	4
	優 良 機 関 員	7			4	2	1	

予 防 編



予防行政の現況

社会情勢や生活様式の変化により、火災をはじめとする災害も年々複雑多様化の傾向にあります。

このような状況を踏まえ、住宅防火を推進するため、文化祭の機会や広報誌による広報等を通じ防火の啓発に努めています。また、事業所の予防査察を推進し、防火管理業務、危険物施設の安全管理の適正化、法令改正の周知等を図り、火災等の災害の未然防止、拡大の抑制に努めています。

自主防火防災組織等の状況

(令和2年3月31日現在)

団 体 名		会員数 隊員数	結 成 年月日	活 動 状 況
三 木 防 火 協 会		222	S37. 7. 16	防災フェスティバル 一日消防士研修会開催
自由が丘婦人防火クラブ		25	S60. 12. 1	公民館文化祭消防展開催
豊地小学校少年消防クラブ		13	S43. 3. 2	防火教室
幼 年 消 防 ク ラ ブ	別所幼年消防クラブ	125	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	志染幼年消防クラブ	75	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	エンゼル幼年消防クラブ	165	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	ひろの幼年消防クラブ	180	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	あけぼの幼年消防クラブ	120	S58. 11. 17	避難訓練・地震教室・救急教室
	えびす幼年消防クラブ	180	S59. 6. 5	避難訓練・地震教室・救急教室
	上の丸幼年消防クラブ	90	H20. 9. 1	避難訓練・地震教室・救急教室
	よかわ幼年消防クラブ	150	H20. 9. 1	避難訓練・地震教室・救急教室

予防広報

市民に広く防火を呼びかける広報媒体として活用しています。

(令和元年度)

種 別	回数(回)	種 別	枚数(枚)
広報「みき」掲載	12	防火ポスターの配布	2,000
「防火の日」新聞広告	15	救急の日ポスター配布	193
防火広報パトロール	104		

火災予防講習会等

事業所や自治会等の団体を中心に、防火知識の高揚に努めています。

(令和元年度)

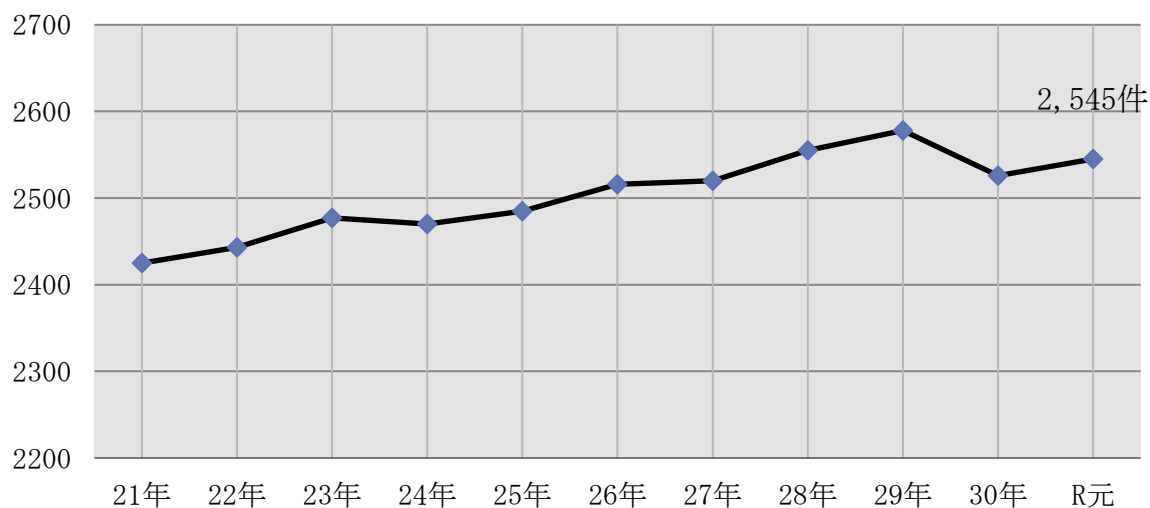
種 別	回数(回)	参加者(人)	備 考
消防訓練等指導	120	9,150	学校・病院・事業所等
防火団体指導	26	2,870	防火クラブ
自治会等指導	44	2,112	自治会・自主防災組織
甲種防火管理新規講習	1	47	R1.8.21～R1.8.22
一日消防士研修会	1	30	R1.11.8
危険物取扱者養成講習会	1	40	R2.2.14

防火対象物の状況

(令和元年度)

区 分 用 途			防火対象物数	査察実施件数
合 計			2,545	660
1 項	イ	劇場・映画館等	9	16
	ロ	公会堂又は集会場	126	15
2 項	イ	キャバレー・カフェー等		
	ロ	遊技場又はダンスホール	5	1
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等		
	ニ	カラオケボックス等	2	2
3 項	イ	待合・料理店等	2	
	ロ	飲食店	54	124
4 項		百貨店・マーケット・店舗	105	60
5 項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	6
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	399	6
6 項	イ	病院・診療所又は助産所	48	11
	ロ	養老・救護・更生施設等	31	18
	ハ	老人デイサービスセンター等	59	58
	ニ	幼稚園・特別支援学校	10	1
7 項		小・中・高校・大学等	107	56
8 項		図書館・博物館・美術館	6	4
9 項	イ	蒸気浴場 ・ 熱気浴場		
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	3
10 項		車両停車場・船舶発着場	2	
11 項		神社・寺院・教会等	55	5
12 項	イ	工場又は作業場	550	116
	ロ	映画・テレビスタジオ		
13 項	イ	自動車車庫又は駐車場	39	1
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	
14 項		倉庫	310	31
15 項		前各号に該当しない事業所	371	97
16 項	イ	特定防火対象物複合用途	142	16
	ロ	上記以外の複合用途	75	6
16の2		地下街		
16の3		準地下街		
17 項		重要文化財等	16	7
18 項		延長50m以上のアーケード		
19 項		市町村長の指定する山林		
20 項		総務省令で定める舟車		

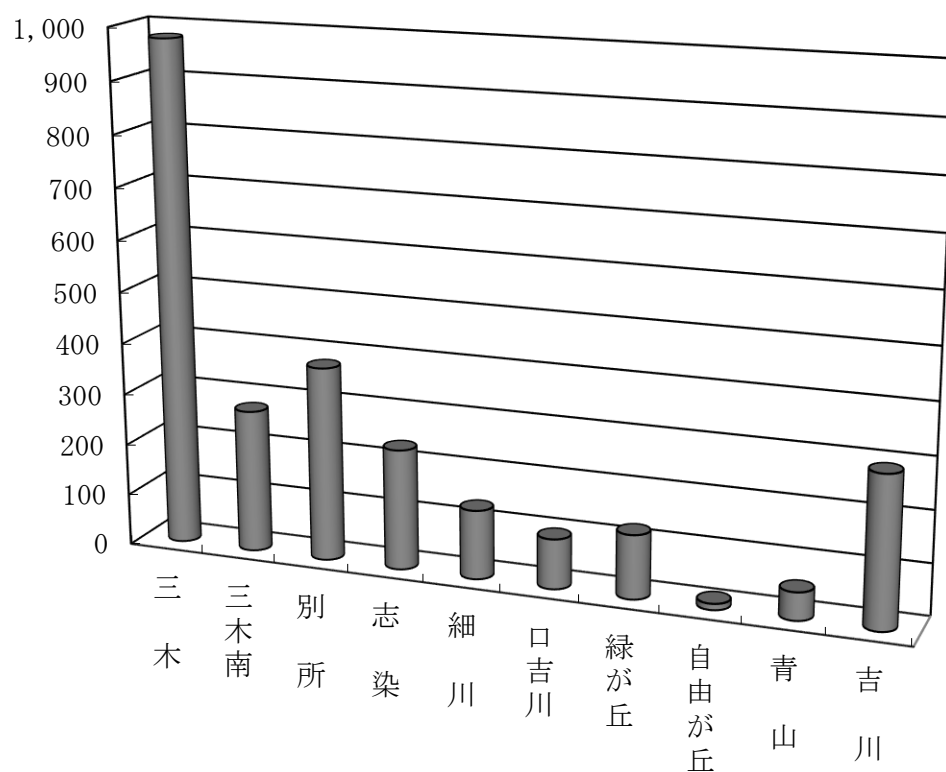
防火対象物の推移



年度	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R元
棟数	2,425	2,443	2,477	2,470	2,485	2,516	2,520	2,555	2,578	2,526	2,545

地区別防火対象物の現況

(令和元年度)



地区	三木	三木南	別所	志染	細川	口吉川	緑が丘	自由が丘	青山	吉川
棟数	927	278	375	237	135	97	121	12	59	304

消防用設備等の設置状況

(令和2年3月31日現在)

用 途		防火対象物の 消防用設備等	防 火 対 象 物 数	自 動 火災報知 設 備	屋内消火 栓 設 備	スプリン ク ラ ー 設 備	屋外消火 栓 設 備
合 計			2,545	1,132	294	63	38
1 項	イ	劇場・映画館等	9	8	7	3	1
	ロ	公会堂又は集会場	126	47	8		
2 項	イ	キャバレー・カフェー等					
	ロ	遊技場又はダンスホール	5	5	4		
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等					
	ニ	カラオケボックス等	2	2			
3 項	イ	待合・料理店等	2	2			
	ロ	飲食店	54	23	3		
4 項		百貨店・マーケット・店舗	105	69	9	12	
5 項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	52	5	1	1
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	399	59	2		
6 項	イ	病院・診療所又は助産所	48	27	5	8	
	ロ	養老・救護・更生施設等	31	43		32	
	ハ	老人デイサービスセンター等	59	41	1	1	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	10	10	4		
7 項		小・中・高校・大学等	107	81	40		
8 項		図書館・博物館・美術館	6	4	2		
9 項	イ	蒸気浴場・熱気浴場					
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	4	2		
10 項		車両停車場・船舶発着場	2				
11 項		神社・寺院・教会等	55				
12 項	イ	工場又は作業場	550	291	111		30
	ロ	映画・テレビスタジオ					
13 項	イ	自動車車庫又は駐車場	39	14			
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	1			
14 項		倉庫	310	140	27	1	5
15 項		前各号に該当しない事業所	371	98	51		
16 項	イ	特定防火対象物複合用途	142	72	8	5	1
	ロ	上記以外の複合用途	75	26	4		
16の2		地下街					
16の3		準地下街					
17 項		重要文化財等	16	13	1		
18 項		延長50m以上のアーケード					
19 項		市町村長の指定する山林					
20 項		総務省令で定める舟車					

中高層建築物の現況

建築物の大規模化と用途の多様化が進んでいる状況を表しています。

(令和2年3月31日現在)

区 分 用 途			防 火 対 象 物 数								
			総数	地 上					小計	うち 地下 1階	うち 地下 2階
				3階 未満	3階	4階	5階	6階 以上			
合 計			2,545	2,096	302	72	61	14	60	58	2
1項	イ	劇場・映画館等	9	7	2				5	5	
	ロ	公会堂又は集会場	126	124		2			1	1	
2項	イ	キャバレー・カフェー等									
	ロ	遊技場又はダンスホール	5	5							
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等									
	ニ	カラオケボックス等	2	2							
3項	イ	待合・料理店等	2	2							
	ロ	飲食店	54	53	1				1	1	
4項		百貨店・マーケット・店舗	105	99	5	1			5	5	
5項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	9	5	1		2	1	1	
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	399	251	79	18	47	4			
6項	イ	病院・診療所又は助産所	48	34	8	2	3	1	1	1	
	ロ	養老・救護・更生施設等	31	22	5	2		2	4	4	
	ハ	老人デイサービスセンター等	59	55	3	1			1	1	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	10	8	2						
7項		小・中・高校・大学等	107	69	18	16	2	2	1	1	
8項		図書館・博物館・美術館	6	5	1						
9項	イ	蒸気浴場・熱気浴場									
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	4					1	1	
10項		車両停車場・船舶発着場	2	2							
11項		神社・寺院・教会等	55	53	2				1	1	
12項	イ	工場又は作業場	550	514	31	3		2	5	5	
	ロ	映画・テレビスタジオ									
13項	イ	自動車車庫又は駐車場	39	36		2	1				
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	1							
14項		倉庫	310	284	23	2	1		1	1	
15項		前各号に該当しない事業所	371	304	54	9	3	1	27	25	2
16項	イ	特定防火対象物複合用途	142	90	43	8	1		3	3	
	ロ	上記以外の複合用途	75	47	20	5	3		2	2	
16の2		地下街									
16の3		準地下街	16	16							
17項		重要文化財等									
18項		延長50m以上のアーケード									
19項		市町村長の指定する山林									
20項		総務省令で定める舟車									

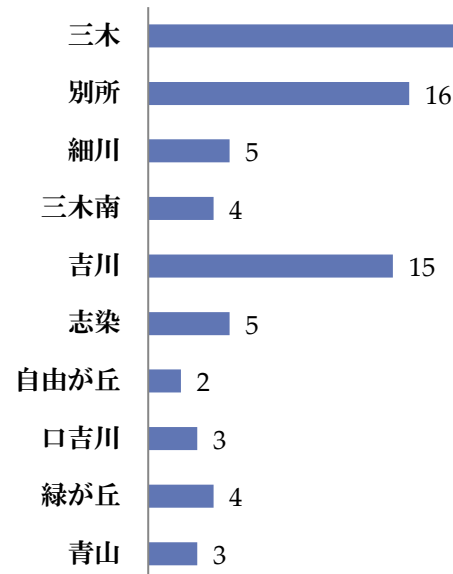
用途別同意件数と工事別処理状況

(令和元年度)

用途			区分	合計	新築	増築	改築	用変	その他
合計				84	60	22	1	1	
1項	イ	劇場・映画館等							
	ロ	公会堂又は集会場		1		1			
2項	イ	キャバレー・カフェー等							
	ロ	遊技場又はダンスホール							
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等							
	ニ	カラオケボックス等							
3項	イ	待合・料理店等							
	ロ	飲食店		1	1				
4項		百貨店・マーケット・店舗		5	4	1			
5項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所							
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅		8	8				
6項	イ	病院・診療所又は助産所		1		1			
	ロ	養老・救護・更生施設等		1	1				
	ハ	老人デイサービスセンター等		2		1		1	
	ニ	幼稚園・特別支援学校							
7項		小・中・高校・大学等		2		2			
8項		図書館・博物館・美術館							
9項	イ	蒸気浴場・熱気浴場							
	ロ	上記以外の公衆浴場							
10項		車両停車場・船舶発着場							
11項		神社・寺院・教会等		1			1		
12項	イ	工場又は作業場		12	5	7			
	ロ	映画・テレビスタジオ							
13項	イ	自動車車庫又は駐車場		1		1			
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫							
14項		倉庫		10	6	4			
15項		前各号に該当しない事業所		12	9	3			
16項	イ	特定防火対象物複合用途		3	3				
	ロ	上記以外の複合用途							
16の2		地下街							
16の3		準地下街							
17項		重要文化財等							
18項		延長50m以上のアーケード							
		住	宅	6	5	1			
		長	屋	10	10				
		納	屋	8	8				
		危	険						
		工	作						
		そ	の						

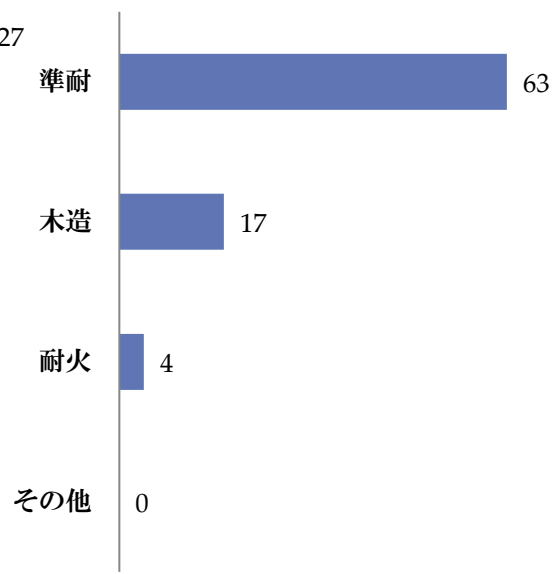
建築同意処理状況

地区別建築同意状況



令和元年度 84件

構造別建築同意状況



令和元年度 84件

予防関係届出状況

(令和元年度)

届出の種類	受付件数	届出の種類	受付件数
防火対象物使用開始届	79	少量危険物貯蔵取扱	17
消防用設備等着工届	71	少量危険物貯蔵廃止届	10
消防用設備等工事計画書	58	圧縮アセチレンガス等の貯蔵・廃止	12
防火対象物変更届	55	発電設備	6
防火管理者選解任届	167	変電設備	20
消防計画	207	蓄電池設備	9
改修計画	131	給湯設備・ボイラー	9
消防用設備等点検結果報告	609	乾燥設備	1
防火対象物点検結果報告	69	ヒートポンプ冷暖房機	1
自衛消防訓練通知	384	指定可燃物貯蔵取扱	4
自衛消防訓練実施結果報告	347	煙火打ち上げ	4
消防用設備等特例適用願	2	催し物開催	25
危険物品持込・喫煙承認	26	露店等の開設届	106

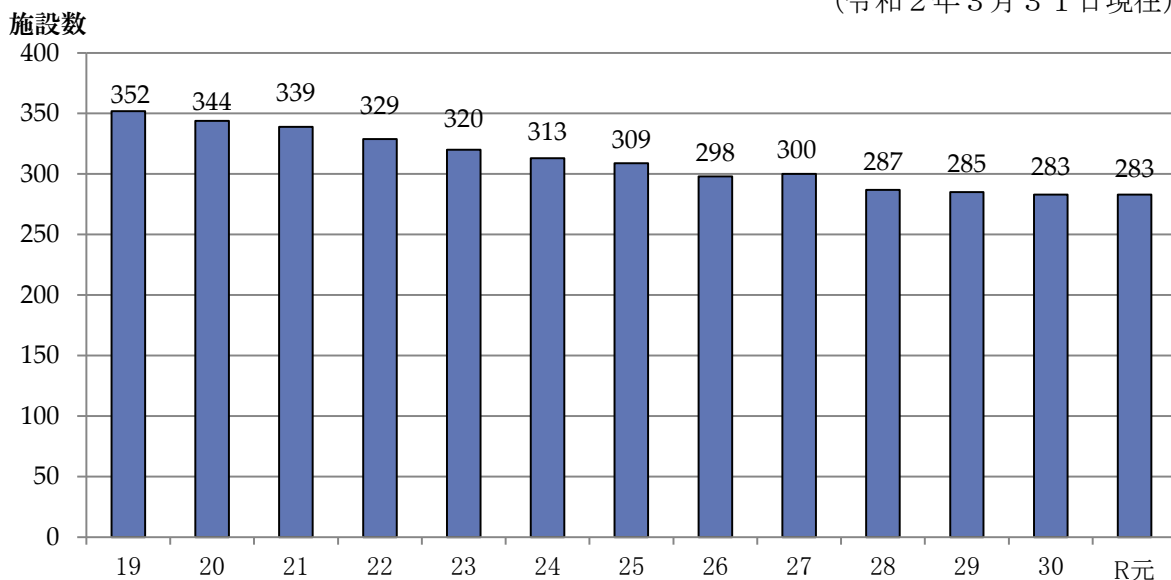
製造所等の状況

(令和2年3月31日現在)

製造所等の区分 区 分			計	製 造 所	貯蔵						所 移 動 タンク 外	取 給 油	扱 販 売	所 一 般
					屋 内	屋 外 タンク	屋 内 タンク	地 下 タンク	簡 易 タンク					
施 設 数			283	3	73	9	1	59		28	2	73		35
数 量 別	5 倍 以 下		129		42	3	1	36		19	1	13		14
	5 倍 を 超 え 1 0 倍 以 下		34		6	1		12				6		9
	1 0 " 5 0 "		65		10	3		7		4	1	29		11
	5 0 " 1 0 0 "		15	3	2	2		1		5		2		
	1 0 0 " 1 5 0 "		17		13			1				2		1
	1 5 0 " 2 0 0 "		7					2				5		
	2 0 0 " 1 0 0 0 "		16									16		
	1 0 0 0 " 5 0 0 0 "		0											
	5 0 0 0 " 1 0 0 0 0 "		0											
	1 0 0 0 0 倍 を 超 え る も の		0											
類 別	単	第 1 類												
		第 2 類												
		第 3 類	1		1									
	独	第 4 類	274	3	67	9	1	59		28	2	73		32
		第 5 類	2		2									
		第 6 類												
	混 在		6		3									3

危険物製造所等の推移

(令和2年3月31日現在)



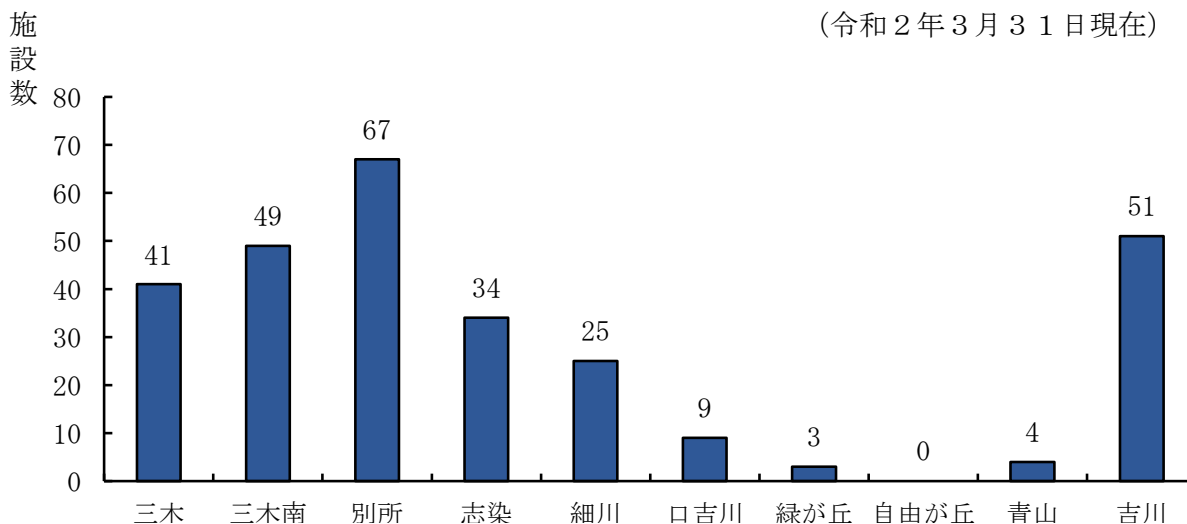
危険物製造所等の設置状況

(令和2年3月31日現在)

製造所の 区分 施設数		計	製 造 所	貯 蔵 所						取 扱 所				
				屋 内	屋 外 タン ク	屋 内 タン ク	地 下 タン ク	簡 易 タン ク	移 動 タン ク	屋 外	給 油	販 売		一 般
												第 一 種	第 二 種	
30 年 度 末 数		283	3	72	8	1	60		27	2	74			36
R1年度	新 設 (転入含む)	6		2	1				2					1
	廃 止 (転出含む)	6		1			1		1		1			2
R1 年 度 末 数		283	3	73	9	1	59		28	2	73			35

地区別危険物施設設置状況

(令和2年3月31日現在)



危険物製造所等の申請・届出処理状況

(令和元年度)

製造所等の 区分 種 別		計	製 造 所	貯 蔵 所						取 扱 所			許 可 施 設 外	
				屋 内	屋 外 タンク	屋 内 タンク	地 下 タンク	簡 易 タンク	移 動 タンク	屋 外	給 油	販 売		一 般
許可	設 置	5		1	1				3					
	変 更	23		1			1		1		12		8	
完 成 検 査	設 置	6		2	1				2				1	
	変 更	20		1			2		1		7		9	
仮 使 用		18		1							10		7	
水圧・水張検査		175												175
廃止（転出含む）		6		1			1		1		1		2	
種類数量変更		4		3							1			
軽微変更		72	1	6			10		3		46		6	
保 安 監督者	選 任	28		9	2						13		4	
	解 任	22		6	1						13		2	
休 止		2							2					
定期点検報告		35					21		1		12		1	
仮貯蔵・仮取扱		4					1				1		2	
そ の 他		19	3								6		4	6

製造所等の各種調査及び検査状況

立入検査を通して施設の適正管理について指導を行っています。

(令和元年度)

製造所等 区分 種 別	計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			許 可 施 設 外
			屋 内	屋 外 タンク	屋 内 タンク	地 下 タンク	簡 易 タンク	移 動 タンク	屋 外	給 油	販 売	一 般	
立 入 検 査	136		12	2		11		31		66		14	
完 成 検 査	26		3	1		2		3		7		10	
完成検査前検査（水圧・水張）	175												175
中間検査（地下配管・タンク防水）	6			3								3	
仮貯蔵 ・ 仮取扱調査	4					1				1		2	
各種届出に伴う現地調査	78	1	7			11		4		47		8	

液体危険物タンクの完成検査前検査実施状況

(令和元年度)

合 計	水 張 検 査				
	小計	10KL以下	10KLを超え 1,000KL以下	1,000KLを超え 2,000KL以下	2,000KLを 超えるもの
175	2	2			
	水 圧 検 査				
	小計	600 L以下	600Lを超え 10KL以下	10KLを超え 20KL以下	20KLを 超えるもの
	173	1	15	96	61

手数料収入額（単位：千円）

(令和元年度)

区 分	合 計	製造所等の許可・完成検査 及び完成検査前検査				仮貯蔵・仮取扱及び仮使用		
		許 可		完成検査	完成検査 前検査	仮貯蔵	仮取扱	仮使用
		設置	変更					
件 数	252	5	23	27	175		4	18
収入額	3,878	118	539	296	2,806		22	97

移譲事務関係の届出及び検査状況

(令和元年度)

種別 施設又は 建築物	計	映画館・公会堂	キャバレー・遊技場	料理飲料店	百貨店・マーケット	旅館・共同住宅	病院・診療所	各種学校	図書館・博物館	その他の施設
液化石油ガス設備工事届出	1					1				
液化石油ガス設備事前協議	3					2				1
設備工事届出に伴う立入検査	1					1				
一般高圧ガス立入検査	4			1		1				2

三木防火協会の現況

三木防火協会は、消防諸般の研究と防火思想の普及徹底及び自主保安体制の整備を図り、火災による災害防止と被害の軽減に万全を期することを目的として設立され、防災フェスティバルを始めとする多くの事業を通じて、地域社会の安全・安心に寄与する団体として活躍している。

現在の会員数は、２２２事業所で組織の充実を図り安全で災害に強いまちづくりを目指している。

【沿革】

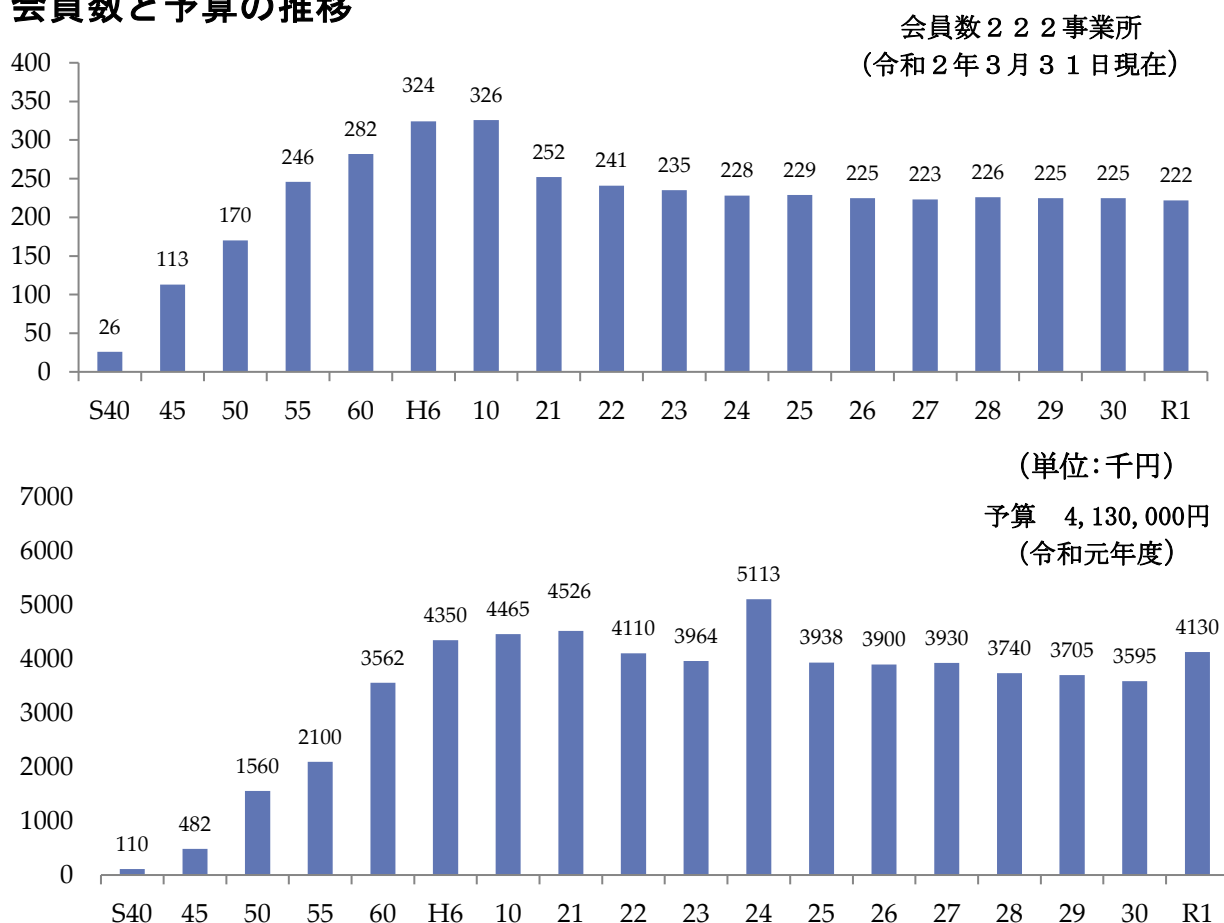
昭和３７年７月１６日 「兵庫県危険物安全協会三木支部」設立

昭和４０年４月 １日 三木市消防本部（署）発足に伴い、事務局を消防本部内に置く。

昭和５０年５月１２日 「兵庫県危険物安全協会三木支部」を解散、危険物施設事業所及び一般事業所を対象とした「三木市防火協会」に発展的改組する。

昭和５８年６月 ２日 東播磨危険物安全協会と合併「三木防火協会」に名称変更

会員数と予算の推移



令和元年度の主要行事

- 6月 2日～8日 危険物安全週間推進事業
- 6月 6日 兵庫県危険物安全・安心大会
- 6月 20日 三木防火協会定例総会
- 6月 28日 危険物取扱者研修会
- 8月 21日～22日 甲種防火管理新規講習
- 9月 29日 第39回防災フェスティバル
- 11月 6日 先進地事業所視察研修
(神戸市・明石海峡大橋ブリッジワールド)
- 11月 8日 一日消防士研修会
- 2月 14日 危険物取扱者養成講習会

警 防 編



消防車両配置状況

(令和2年3月31日現在)

	車名等	車両名	車種	製作会社名	年式	級別	ポンプ形式	出力PS	備考
消防本部	指令車	消防5	トヨタ	トヨタ	H9			135	市単
	査察車		スズキ	スズキ	H30			49	リース
	資材搬送車	消防80	日野	藤井ポンプ	H24			136	市単
	資材搬送車	消防21	スズキ	スズキ	H20			48	寄贈
	防火広報車	消防23	トヨタ	トヨタ	H20			133	〃
	広報車		日産	日産	R1			147	(寄)日本消防協会
	消火通報訓練指導車		マツダ	マツダ	H17			100	(寄)日本宝くじ協会
	公用車		トヨタ	トヨタ	H11			-	市単
	連絡車		スズキ	スズキ	H18			-	〃
消防署	化学車	消防1	日野	日本機械	H19	A2	二段バランス	220	国補
	ポンプ車	消防3	〃	(株)モリタ	H29	〃	一段タービン	145	市単
	はしご車	消防4	〃	(株)モリタ	H28			313	〃
	タンク車	消防6	〃	長野ポンプ	R1	A2	二段タービン	150	国補
	指揮車	消防7	三菱	三菱自動車	H16			136	石対
	救助工作車	消防8	日野	日本機械	H24			220	国補
	水槽車	消防30	〃	〃	H31	A2	二段バランス	380	市単
	救急車	消防10	トヨタ	トヨタ	H28	高規		151	〃
	〃	消防11	ニッサン	ニッサン	H24	〃		180	(寄)日本損保協会
	〃	消防12	トヨタ	トヨタ	R2	〃		151	国補
	小型動力ポンプ	(消防1)	ラビット	富士ロビン	H19	C1	一段タービン	11	〃
	〃	(消防3)	〃	シバウラ	H29	〃	〃	9	〃
広野分署	資材搬送車	消防20	スズキ	スズキ	H20			48	寄贈
	ポンプ車	消防52	日野	(株)モリタ	H27	A2	一段ボリュート式	150	国補
	タンク車	消防53	日野	日本機械	H22	〃	二段バランス	227	〃
	救急車	消防60	トヨタ	トヨタ	H27	高規		151	東洋物産工業(株)寄贈
	小型動力ポンプ	(消防52)	ラビット	シバウラ	H27	C1	一段タービン	9	国補
	〃	(消防53)	トーハツ	トーハツ	H22	〃	〃	9	市単
吉川分署	資材搬送車	消防22	三菱	三菱自動車	H13			48	石対
	ポンプ車	消防81	日野	(株)モリタ	H27	A2	一段ボリュート式	145	国補
	タンク車	消防82	日野	日本機械	H18	〃	二段バランス	220	市単
	連絡車		スズキ	スズキ	H14			48	〃
	救急車	消防90	トヨタ	トヨタ	H22	高規		151	国補
	小型動力ポンプ	(消防81)	トーハツ	トーハツ	H27	C1	一段タービン	10	〃
	〃	(消防82)	ラビット	富士ロビン	H18	〃	〃	11	市単

消防機械器具保有状況

(令和2年3月31日現在)

	種 類	保 有 数		
		本署	広野	吉川
救 急 救 助	空気呼吸器	36	9	8
	エンジンカッター	4	2	2
	アルミボート	1		
	ゴムボート	1		
	プラスチックボート			
	船外機	2		
	救助幕	1		
	油圧救助器具	4	2	3
	エア－救助器具	2	1	1
	ガス溶断機	1		
	スローダン	1		
	チルホール	2	1	1
	救命索発射銃	1		
	エンジン チェーンソー	1	1	
	削岩機	1		
	ハンマードリル	1		
	排煙機	2		
	赤外線スコープ	1	1	1

	種 類	保 有 数		
		本署	広野	吉川
消 火	簡易水そう	3		
	東消式高発泡装置	2	1	1
	ジェットシューター	8	4	5
	インパルス	1		
照 明	発電機	4	3	2
	投光器	6	3	4
そ の 他	有毒ガス検知器	2	1	1
	可燃性 ガス測定器	2		
	放射線測定器	1		
	煙発生器	1		
	ホーン測定器	1		
予 防	漏電計	1		
	プレッシャーゲイジ	1		
	絶縁抵抗計	1		
	静電気チェッカー	1		
	膜厚計	1		

消防車両等修理状況

(令和2年3月31日現在)

所属	車 両 区 分	修理回数
消 防 本 部 ・ 署	消 防 1	0
	〃 3	0
	〃 4	2
	〃 5	0
	〃 6	0
	〃 7	0
	〃 8	2
	〃 10	4
	〃 11	4
	〃 12	0
	〃 20	0
	〃 21	3
	〃 22	1
	〃 23	1
	〃 30	3
	〃 52	1
	〃 53	1
	〃 60	1
	〃 80	0
	〃 81	3
	〃 82	3
	〃 90	5
	査察車	0
	団広報車	0
	計	34

所属	修理箇所別	修理回数
消 防 本 部 ・ 署	ポンプ系統	0
	エンジン系統	0
	電気系統	11
	動力伝達系 統	2
	外装系統	8
	その他	13
	計	34

所属	地 区 名	修理回数
消 防 団	三 木 地 区	
	別 所 地 区	1
	志 染 地 区	
	細 川 地 区	
	口 吉 川 地 区	
	吉 川 地 区	
	計	1
	修理箇所別	修理回数
	ポンプ系統	
	エンジン系統	
	電気系統	1
	動力伝達系統	
	その他	
	計	1

管内消防水利の現況（消火栓）

（令和2年3月31日現在）

地区別	公私	50mm	65mm	75mm	100mm	125mm	150mm	200mm	250mm	300mm	350mm	400mm	450mm	計
三 木	公設			161	145		138	53	10	12	4			523
	私設			3			6							9
三 木 南	公設	1		63	38		53	19	4			2		180
	私設			7				1						8
別 所	公設	1		76	48		42	27	7					201
	私設													0
志 染	公設	7	1	74	75	1	45	4	3		1			211
	私設													0
細 川	公設	9		40	35	3	20	9						116
	私設		1	3	4		2							10
口 吉 川	公設	22		31	17		18	2						90
	私設													0
自由が丘	公設			103	98		49	31	1	7				289
	私設													0
緑 が 丘	公設			23	83		40	9	9					164
	私設													0
青 山	公設			8	51		43	19	3	3			2	129
	私設													0
吉 川	公設	14		111	67	5	91	47	23	6	1			365
	私設				2		1							3
小 計	公設	54	1	690	657	9	539	220	60	28	6	2	2	2,268
	私設	0	1	13	6	0	9	1	0	0	0	0	0	30
合 計		54	2	703	663	9	548	221	60	28	6	2	2	2,298

管内消防水利の現況（防火水そう）

（令和2年3月31日現在）

地区別	公私	20 t 未満	20t以上40t未満	40t以上	計
三 木	公設	1	13	94	108
	私設		2	71	73
三 木 南	公設		3	33	36
	私設		2	42	44
別 所	公設	1	1	45	47
	私設		1	42	43
志 染	公設	2	9	42	53
	私設	1	1	31	33
細 川	公設	1	1	19	21
	私設		1	37	38
口 吉 川	公設		1	10	11
	私設			14	14
自由が丘	公設		2	64	66
	私設			6	6
緑 が 丘	公設			24	24
	私設			6	6
青 山	公設			21	21
	私設			12	12
吉 川	公設	1	1	21	23
	私設			60	60
小 計	公設	6	31	373	410
	私設	1	7	321	329
合 計		7	38	694	739

各種届出等受理状況

(令和元年中)

各 種 届 出	受 理 件 数
道路工事届	154
火災とまぎらわしい煙・火災を発するおそれのある行為の届	276
水道の断水又は減水届	11
要望・苦情・相談願	37
火災損害届（事故届出含む）	34
り災証明等交付申請	13
り災証明等発行	26
都計法関係届	38
計	589

消防活動状況

(令和元年中)

種 別 区 分	火 災	救 急	救 助	風 水 害	警 戒	偵 察	非 常 招 集	地 水 利 調 査	警 防 調 査 等	パ ト ロ ー ル	広 報	原 因 調 査	警 備	応 援	計
出 動 回 数	22	4,038	60	0	147	80	439	242	14	125	23	4	4	5,198	
出動延べ人員	215	12,598	506	0	395	336	2268	342	49	173	105	39	24	17,050	

訓練実施状況

(令和元年中)

訓 練 種 別	場 所 等	回 数	出動延べ人員	車両台数
基本・応用訓練	本署・広野分署・吉川分署	528	2,485	445
救助訓練	本署	140	743	27
火災予防運動に伴う訓練	ネスタリゾート神戸	1	24	9
危険物安全週間に伴う訓練	株式会社Mizkan三木工場	1	22	9
三木市総合防災訓練	三木山総合公園	1	31	10
文化財防火デーに伴う訓練	伽耶院	1	22	10
水防訓練	本署・吉川分署	3	73	6
ボート取扱訓練	通り池・その他	3	48	11
機関員訓練(年度)	管内道路等	133	266	133
計		811	3,714	660

消防訓練等指導状況

(令和元年中)

種 別	回 数	参 加 人 員	職員派遣人員
普通救命講習	41	523	51
救急法講習	107	4,250	154
消防操法指導	37	1,259	92
自主防災訓練	38	1,870	59
庁舎見学	26	963	90

気象情報発令状況

(令和元年中)

警報・注意報		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
警 報	洪水													0
	大雨													0
	暴風								13	2	6			21
	暴風雪													0
	大雪													0
	波浪													0
	高潮													0
計		0	0	0	0	0	0	0	13	2	6	0	0	21

注 意 報	波浪													0
	乾燥	32	15	44	31	35	1			4	6	19	12	199
	雷	7	2	28	16	11	58	76	82	49	32	8	9	378
	大雨						4	8	13	6	7			38
	洪水						4		8					12
	強風	21	8	33	21	20	38	29	30	11	35	13	11	270
	高潮	2	5	5	2			1	1		2	1	8	27
	濃霧			25	8									33
	霜													0
	大雪													0
	大風	2												2
	着雪													0
	雪崩													0
	津波													0
	低溫													0
計		64	30	135	78	66	105	114	134	70	82	41	40	959

情 報	台風							6	16	7	13			42
	大雨													0
	大雪	6					11	10	4		2			33
	高雪													0
	竜巻							3	17	7				27
	地震	1		1										2
	梅雨						3		2	2	3			10
	土砂													0
	その他			12	1	12	9	9	13		8	3		67
計		7	0	13	1	12	23	28	52	16	26	3	0	181

火災気象通報	8	4	13	11	13	4	3	5	6	23	22	10		122
--------	---	---	----	----	----	---	---	---	---	----	----	----	--	-----

水防指令						1			4	1				6
------	--	--	--	--	--	---	--	--	---	---	--	--	--	---

月別気象状況

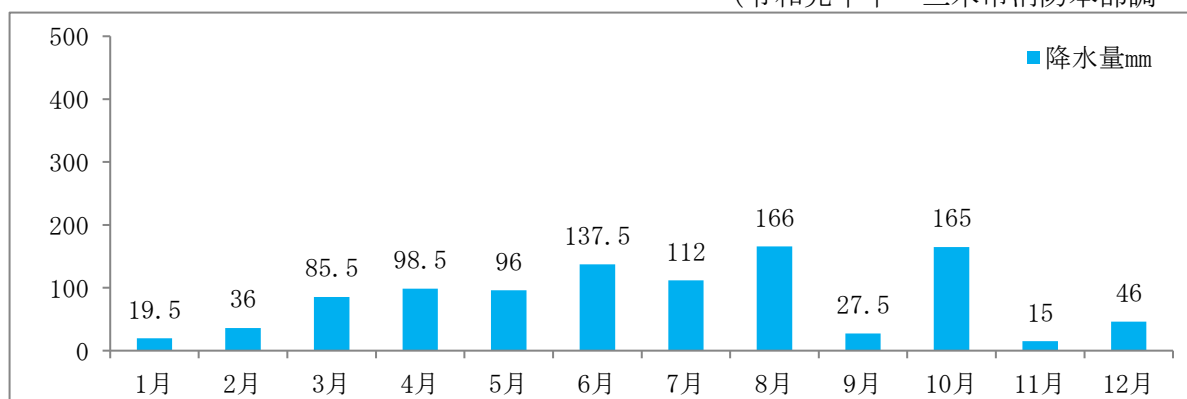
(令和元年中・三木市消防本部調べ)

種別 月	気 温 °C			湿 度 %			実効湿度 %		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
1	11.6	-3.3	4.0	96.5	31.4	70.7	61.3	52.8	56.1
2	17.1	-2.4	5.9	99.9	26.0	70.4	64.3	50.3	56.0
3	19.7	-1.2	8.7	99.9	9.4	68.2	62.3	48.0	55.5
4	26.4	-0.4	12.8	99.9	15.7	67.1	63.7	47.4	54.9
5	31.8	4.3	19.3	99.9	12.5	63.2	63.6	47.2	53.9
6	31.6	15.1	22.8	99.9	30.5	74.9	64.2	53.1	57.3
7	34.8	19.8	25.6	99.9	46.4	83.7	64.1	56.3	60.1
8	36.1	19.8	28.0	99.9	41.6	79.9	64.4	54.3	58.9
9	35.4	13.7	25.2	99.9	34.5	76.5	62.4	53.4	57.9
10	31.5	8.3	19.0	99.9	33.5	80.1	64.1	53.7	58.9
11	22.3	-0.3	11.6	99.9	34.8	74.7	62.5	51.5	57.4
12	16.5	-0.8	7.1	99.9	36.9	76.7	64.2	52.8	57.9
年間平均	15.8			73.8			57.1		

月別降水量

(年間降水量 1,005 mm)

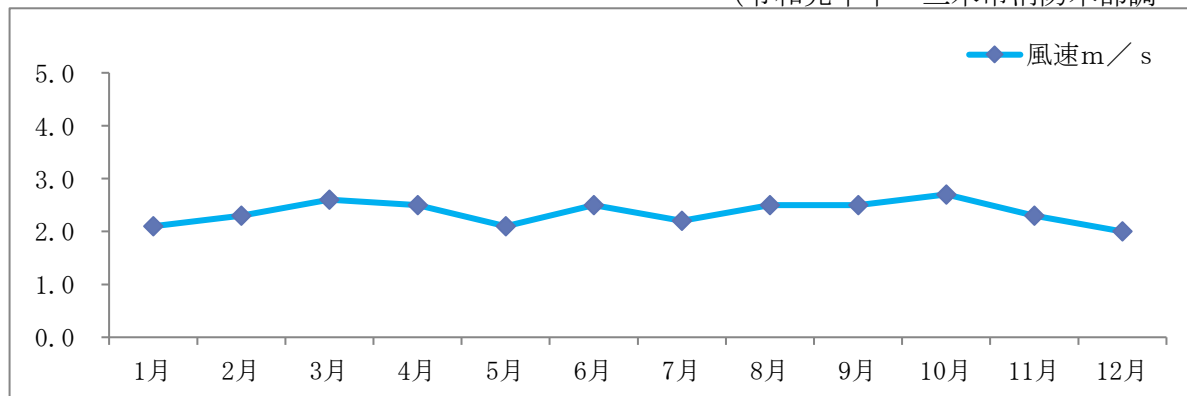
(令和元年中・三木市消防本部調べ)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量mm	19.5	36	85.5	98.5	96	137.5	112	166	27.5	165	15	46

月別平均風速

(令和元年中・三木市消防本部調べ)



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
風速m/s	2.1	2.3	2.6	2.5	2.1	2.5	2.2	2.5	2.5	2.7	2.3	2.0

水防資器材備蓄状況

(令和2年3月31日現在)

場所 備蓄 資器材	消 防 本 部	広 野 分 署	吉 川 分 署	末 広	大 塚	福 井 二 丁 目	岩 宮	別 所	志 染	細 川	口 吉 川	吉 川 支 所	計
土のう袋	6,000	2,100	1,600	3,000	2,000	3,000	3,000	1,000	1,900	1,500	1,200	3,000	29,300
作製済土のう	360	190	100									200	850
スコップ	23	31	13	20	10	20	10	10	10	14	10	14	185
ウォーターゲル	500	80	43		22	160							805
麻袋					20				30		0	100	150
ブルーシート	86	43	35	50	20	60	25	25	21	18	20	150	553
麻シート				6		10	5						21
Pロープ	58	1		12	25	10	6	10	5	15	2		144
木杭	70	97	21	20	180	500	600	750	480	450	200	140	3,508
鉄杭	250	10	29	25	0	40	30	20	24	30	22	15	495
むしろ	40			13	2	36	4	5	170	5			275
ハンマー	19	2	5	2	21	3	3	2	2	3	2	2	66
カケヤ	18	23	8	10	20	22	5	5	5	5	5	8	134
つるはし	6	6	7		5	4						4	32
平鍬	5		1		3			1				9	19
カスガイ	62	43	11		5								121
ジョレン	3	4	1	2	3	2	2	2	2	2	2	3	28
片刃ノコギリ	37	2	6		4		2					25	76
両刃ノコギリ	6	1	2	2	2		2	2	2	2	2	3	26
薄鎌	24	4	2	9	20	3	2	5	2	2	2	15	90
木鎌	5	12	6	1		1	4					27	56
なた	5	8	4		3	5	1	1	1	1	1	10	40
草刈り機	9	1	2										12
釘 (箱)	1			1		1		2	1	1	1	1	9
金槌	3		2	1		1	1	1	1	1	1	3	15
釘抜き	1	1			1								3
針金	10	1	2	1	5	15	1	1	1	1	1	1	40
ペンチ	7			1	9	1		1	1	1	1	4	26
プライヤー	2		1										3
クリッパー	3		1		1	1		1	1		1	2	11
かます											35		35
番線	4	1	4	1	1	2	2	1	1	2	1	2	22
しの	17	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	33
コンパネ	19			25	13	9						60	126
たる木	22			19									41
杉板	30			34			20						84
ナワ						20	1		3		4	2	30
携帯用ライト	20	10										20	50
巾ビロ				1		1	1		1		1		5
胴付長ぐつ	13												13
一輪車	7	4	2	5	2			1	1	1	1	18	42
縫針		6	3		1	4					2		16

火災編



過去の主な火災

()は負傷者

発生年月日	覚知時間	場 所	火元用途	焼損面積	死 者
S52. 3. 12	13:40	志染町四合谷	山林	30ha	
S53. 1. 9	17:55	大塚 2 丁目	学校	617m ²	
S54. 4. 18	14:35	芝町	酒造会社	1, 309m ²	
S54. 9. 6	1:00	加佐	住宅	110m ²	4
S59. 2. 14	0:00	吉川町新田	養鶏舎	626m ²	
S59. 5. 8	21:06	別所町下石野	屋外物品集積所	古タイヤ2万本	
S63. 5. 18	6:02	吉川町市野瀬	店舗	396m ²	
S63. 11. 12	21:36	吉川町毘沙門	住宅	301m ²	
H2. 6. 12	16:50	福井	養鶏舎	397m ²	
H2. 8. 8	2:13	別所町興治	倉庫	327m ²	
H3. 1. 27	7:00	府内町	住宅	329m ²	
H4. 11. 21	14:18	吉川町実楽	倉庫	386m ²	
H5. 11. 15	14:32	吉川町金会	タンクローリー	3台	
H6. 7. 6	13:53	細川町豊地	住宅	337m ²	
H10. 9. 6	1:20	別所町興治	廃車車両	約250台	
H11. 2. 5	13:23	細川町細川中	住宅	323m ²	
H11. 10. 31	10:12	別所町花尻	倉庫	354m ²	
H12. 3. 6	20:35	志染町三津田	工場	676m ²	
H12. 4. 30	13:07	細川町細川中	納屋	352m ²	1
H15. 3. 6	1:54	緑が丘町中 2 丁目	住宅・店舗	544m ²	1
H17. 7. 28	18:11	吉川町豊岡	住宅・納屋	23m ²	2
H17. 9. 24	7:03	志染町窟屋	住宅	571m ²	
H18. 4. 19	12:30	福井	作業所	344m ²	
H19. 4. 5	3:52	口吉川町西中	住宅	394m ²	
H20. 9. 17	21:25	志染町井上	住宅	328m ²	
H23. 12. 18	16:29	口吉川町笹原	住宅兼店舗	880m ²	
H24. 3. 28	19:52	福井 1 丁目	住宅	239m ²	1
H24. 6. 18	19:42	志染町西自由が丘 2 丁目	共同住宅	24m ²	1
H24. 8. 28	11:11	吉川町古市	林野	4 a	1
H25. 5. 25	14:47	吉川町稲田	住宅	277m ²	(1)
H26. 5. 8	13:11	大村	林野	2. 5ha	
H27. 3. 25	13:43	鳥町	住宅	276m ²	(1)
H27. 5. 1	15:30	宿原	住宅	141m ²	
H27. 10. 4	13:11	吉川町渡瀬	住宅	300m ²	(2)
H28. 2. 11	6:49	本町 3 丁目	住宅	85m ²	1
H28. 8. 21	21:04	福井	住宅	180m ²	
H29. 2. 2	2:20	細川町垂穂	乗用車	普通乗用車	1
H29. 3. 21	7:11	本町 1 丁目	住宅	116m ²	1(1)
H29. 12. 8	19:45	別所町東這田	住宅	260m ²	1(1)
H30. 1. 4	22:05	本町 3 丁目	住宅	250m ²	(3)
H30. 3. 4	17:58	末広 1 丁目	住宅	駅舎他 592m ²	1
H30. 8. 6	15:59	細川町中里	住宅	505m ²	

令和元年中の主な火災

()は負傷者

発生年月日	覚知時間	場 所	火元用途	焼失面積	死 者
R元. 9. 1	17:09	細川町垂穂	住宅	346m ²	
R元. 9. 25	19:33	別所町高木	作業所・工場	1072m ²	

火災概要（対前年比）

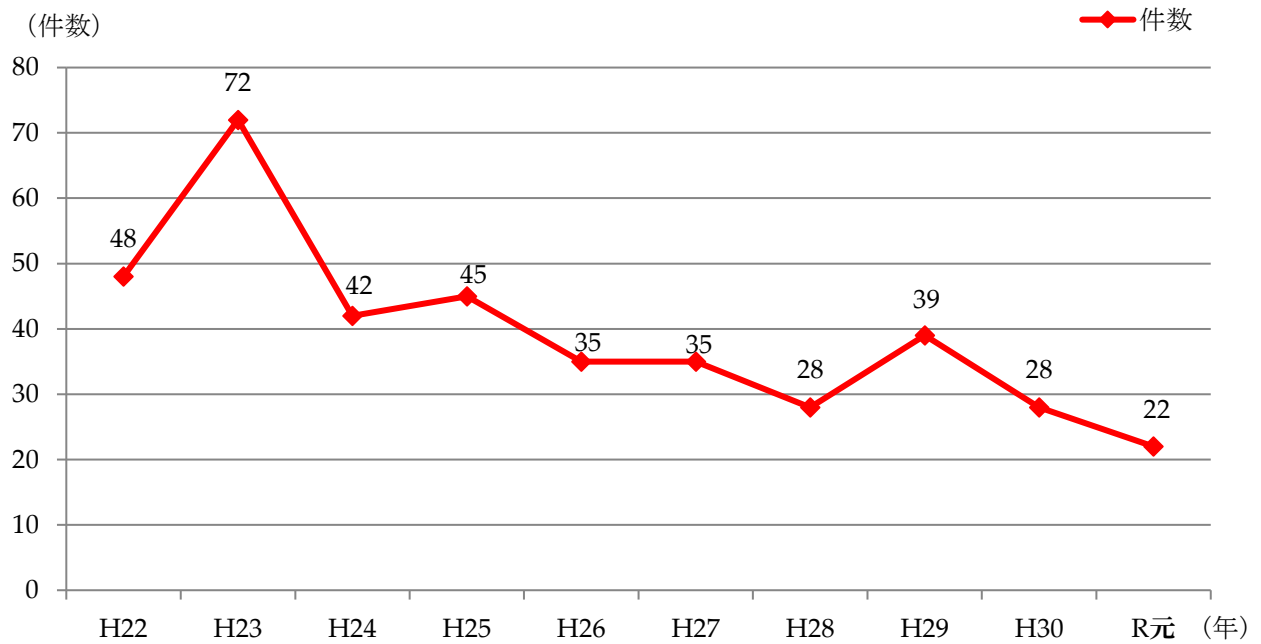
出火件数は前年と比べ6件減少。

建物火災が8件、その他火災が1件減少し、林野火災が3件増加しました。

区 分				単 位	令和元年	平成30年	増 減	
出 火 件 数	建 物			件	22	28	△ 6	
	内	住 宅	〃	10	18	△ 8		
		工 場	〃	5	8	△ 3		
		其 他	〃	2	4	△ 2		
	訳	その他	〃	3	6	△ 3		
		林 野			〃	4	1	3
		車 両			〃	4	4	
	船 舶			〃	0	0		
	そ の 他			〃	4	5	△ 1	
損 害 額	千円			40,779	79,770	△ 38,991		
	建 物	内	建 物	〃	38,406	74,185	△ 35,779	
			収容物	〃	29,817	50,752	△ 20,935	
			収容物	〃	8,589	23,433	△ 14,844	
	林 野			〃	0	0		
	車 両			〃	1,863	4,520	△ 2,657	
	船 舶				0	0		
	そ の 他			〃	510	1,065	△ 555	
	爆 発			〃	0	0		
建 物 焼 損 棟 数	棟			16	30	△ 14		
	全 焼			〃	9	12	△ 3	
	半 焼			〃	0	2	△ 2	
	部 分 焼			〃	3	9	△ 6	
	ぼ や			〃	4	7	△ 3	
爆 損	損害棟数			棟	0	0		
	車両等数			台	0	0		
焼 損	建物床面積			m ²	1,470	1,911	△ 441	
	建物表面積			m ²	26	82	△ 56	
	林 野			a	40	19	21	
	車 両			台	5	8	△ 3	
	船 舶			艇	0	0		
負 傷 者				人	2	10	△ 8	
死 者				〃	0	1	△ 1	
り 災 世 帯				世帯	11	14	△ 3	
全 損				〃	7	7		
半 損				〃	0	0		
小 損				〃	4	7	△ 3	
り 災 人 員				人	20	28	△ 8	
建物1件当りの損害額				千円	3,841	4,121	△ 280	
〃 焼損床面積				m ²	147	106	41	

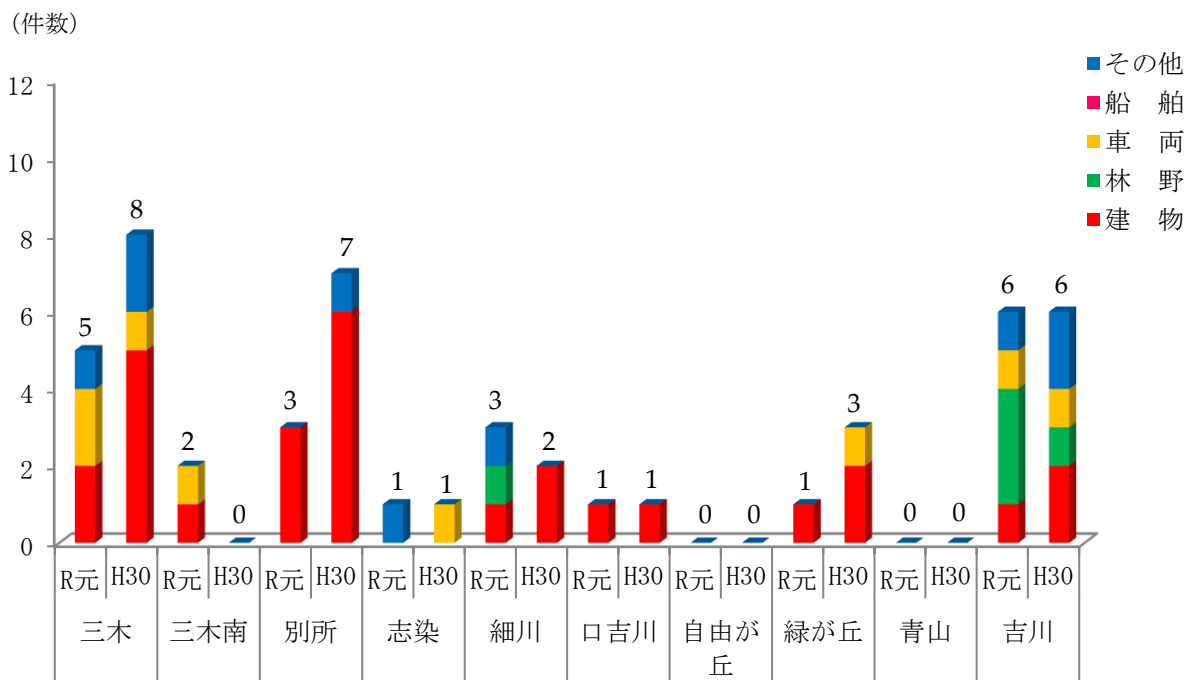
△印は減少

火災件数の推移

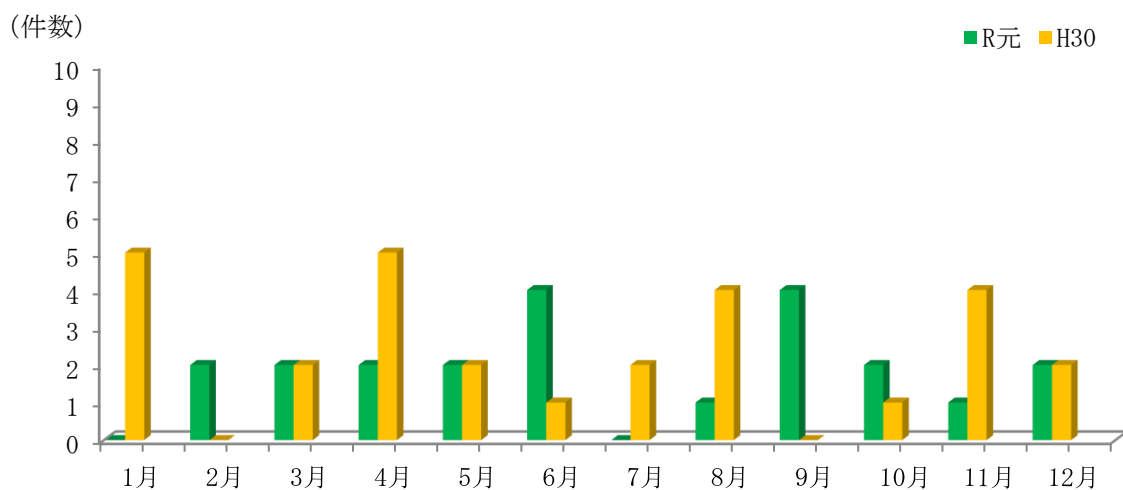


地区別火災件数

前年と比較すると、三木南地区、細川地区が増加し、三木地区、別所地区、緑が丘地区が減少しています。自由が丘地区、青山地区は2年連続0件です。
※三木地区5件の内、1件は高速道で発生しています。

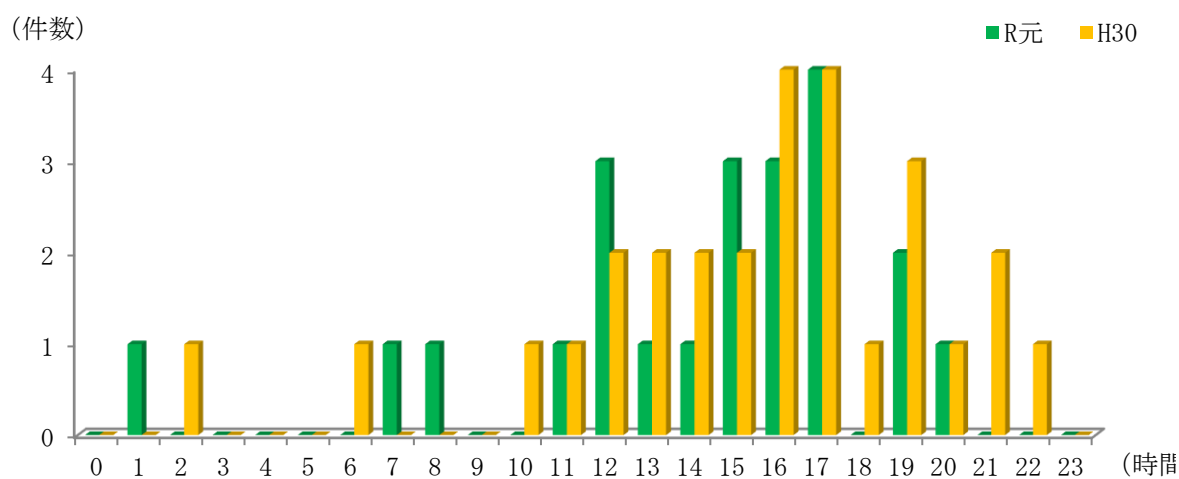


月別火災件数



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
R元	0	2	2	2	2	4	0	1	4	2	1	2	22
H30	5	0	2	5	2	1	2	4	0	1	4	2	28

時間別火災件数

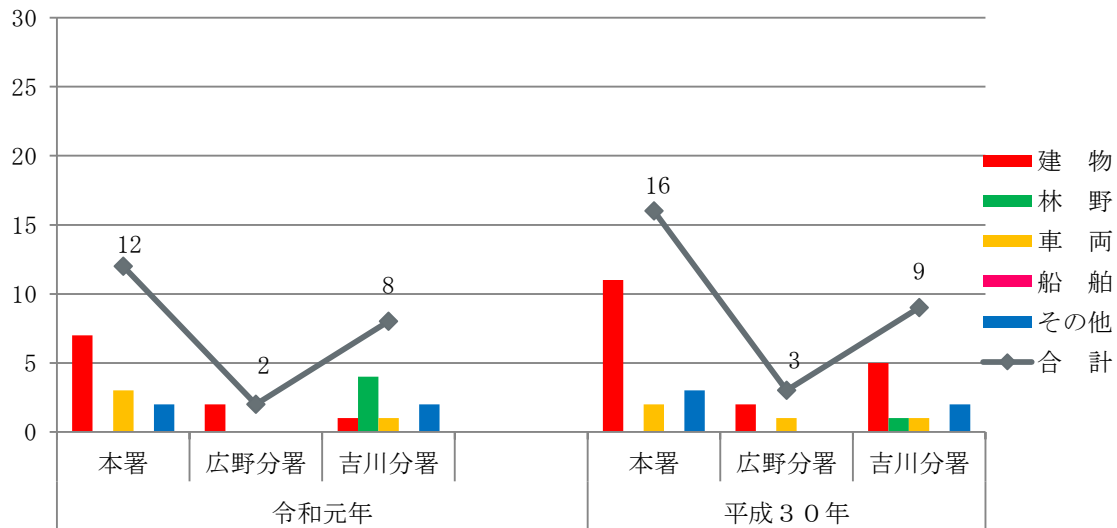


年 \ 時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
R元	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	3	1	1	3	3	4	0	2	1	0	0	0	22
H30	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	2	2	2	2	4	4	1	3	1	2	1	0	28

署別火災件数

前年と比較して、本署・広野分署・吉川分署の3署とも火災件数は減少しています。

(件数)



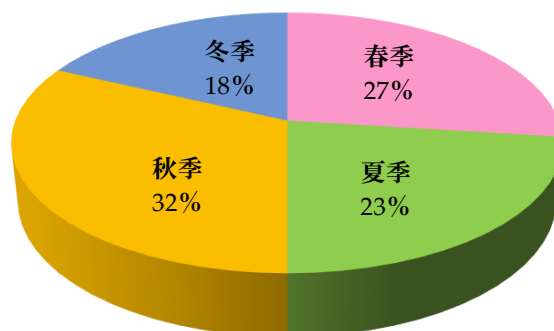
種別	令和元年			平成30年		
	本署	広野分署	吉川分署	本署	広野分署	吉川分署
建物	7	2	1	11	2	5
林野	0	0	4	0	0	1
車両	3	0	1	2	1	1
船舶	0	0	0	0	0	0
その他	2	0	2	3	0	2
合計	12	2	8	16	3	9

四季別火災件数

(令和元年中)

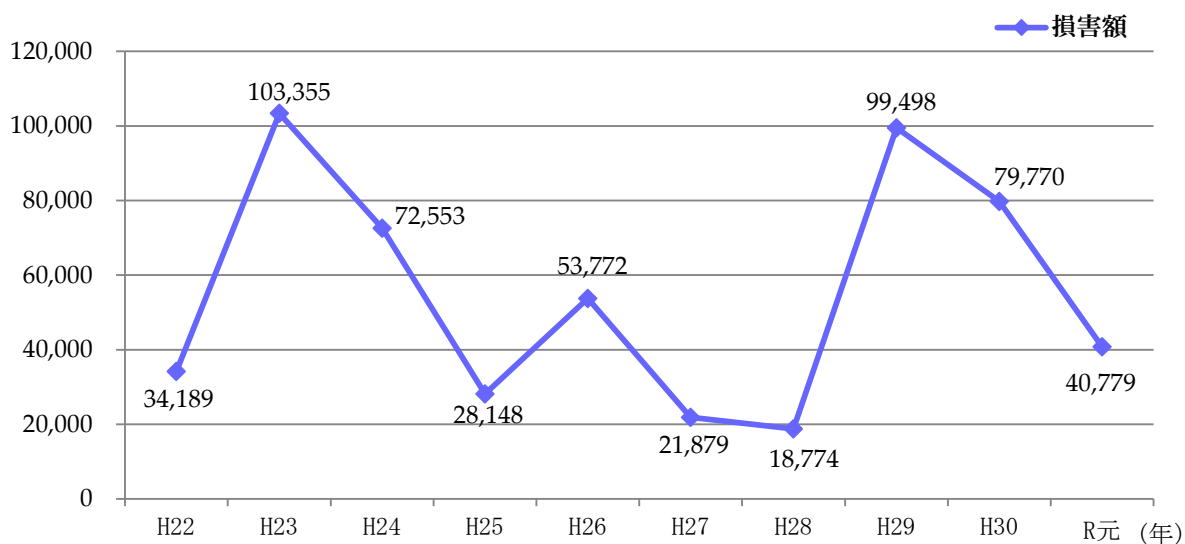
春季(3・4・5月)	6件
夏季(6・7・8月)	5件
秋季(9・10・11月)	7件
冬季(12・1・2月)	4件
合計	22件

出火件数比率



火災損害額の推移

(損害額単位：千円)



火災損害額

(損害額単位：千円)

項 目 \ 年	R元	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22
火 災 損 害 額	40,779	79,770	99,498	18,774	21,879	53,772	28,148	72,553	103,355	34,189
内 訳										
建物	38,406	74,185	94,687	15,039	18,234	51,036	27,185	71,452	101,949	32,120
林野										
車両	1,863	4,520	1,361	3,555	1,577	1,017	765	415	695	579
船舶				47						
その他	510	1,065	3,450	133	2,068	1,719	198	686	711	1,490
1件当り損害額	1,854	2,849	2,551	670	625	1,536	625	1,727	1,435	712
出 火 件 数	22	28	39	28	35	35	45	42	72	48
内 訳										
建物	10	18	18	9	18	13	17	20	28	21
林野	4	1	2	4	2	9	9	7	19	8
車両	4	4	6	5	4	2	4	6	5	4
船舶	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
その他	4	5	13	9	11	15	15	9	20	15

初期消火の状況

令和元年に発生した22件の火災の中で、初期消火が行われたのは19件です。
そのうち有効な消火活動となったのは10件です。

項 目 \ 年	令 和 元 年		平 成 3 0 年	
	実 施	有 効	実 施	有 効
消火器以外の消防用設備				
水 バ ケ ツ	2	1		
消 火 器	6	3	8	5
水道・浴槽・汲み置きの水	7	4	12	5
寝具・衣類等をかけた				
も み 消 し た	3	1	1	1
そ の 他	1	1		
合 計	19	10	21	11
初 期 消 火 な し	3		7	

出火原因別件数

出火原因のトップは「たき火」の8件で、全体の約36.4%を占めています。

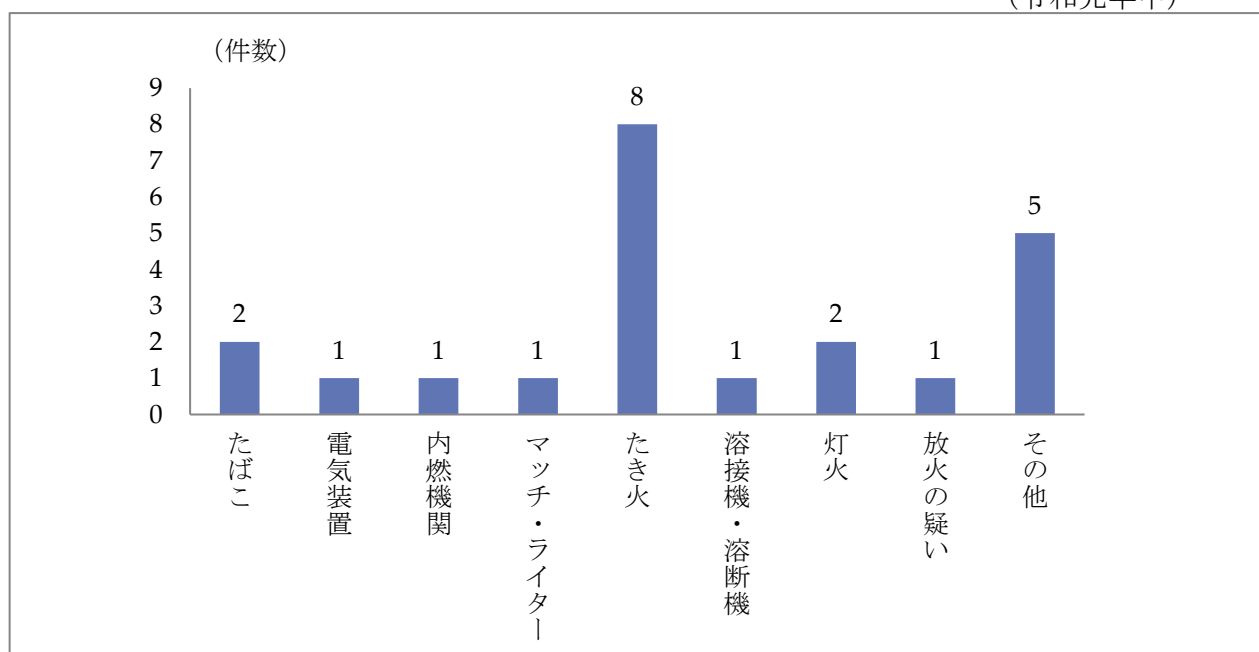
出火原因	R元	H30	増減
たばこ	2		2
こんろ		2	△ 2
風呂かまど			
炉			
焼却炉			
ストーブ		2	△ 2
こたつ			
ボイラー			
煙突・煙道			
排気管		1	△ 1
電気機器			
電気装置	1	2	△ 1
電灯・電話等の配線			
内燃機関	1		1
配線器具			
火あそび			
マッチ・ライター	1	1	
たき火	8	9	△ 1
溶接機・溶断機	1	2	△ 1
灯火	2	1	1
取灰			
火入れ			
放火			
放火の疑い	1		1
その他	5	6	△ 1
不明(調査中含む)		2	△ 2
合計	22	28	△ 6

△印は減少

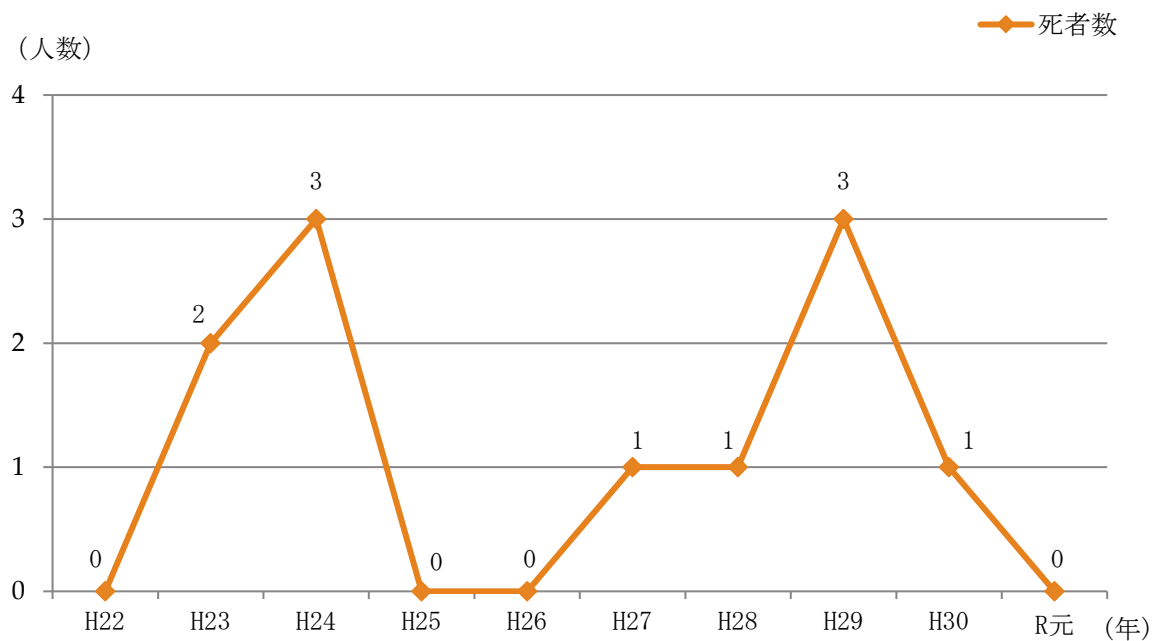
たき火欄内訳	R元	H30
たき火	2	4
虫焼	1	5
焼却	5	
合計	8	9

その他欄内訳	R元	H30
自然発火	1	
金属との衝撃の火花	2	
穀物乾燥機	1	
ロースター	1	1
交通機関内配線		2
ガスバーナー		1
燐炭の再燃		1
タイヤと路面の摩擦		1
合計	5	6

(令和元年中)



火災による死者数の推移



消防部隊出動状況

部隊出動件数は、昨年より106件減少の231件となっています。

(令和元年中)

種 別 \ 署 別	本 署	広 野 分 署	吉 川 分 署	合 計	対 前 年 比
偵 察	43	20	17	80	△ 43
災 害	80	35	32	147	1
応 援	1	1	2	4	1
風 水 害	0	0	0	0	△ 65
合 計	124	56	51	231	△ 106

(△印は減少)

※ 「偵察」 偵察・統計外火災・煙火・自火報・誤報・いたずら・捜索

「災害」 救急支援・油処理・危険物漏洩・ガス漏洩・その他 ※水防除く

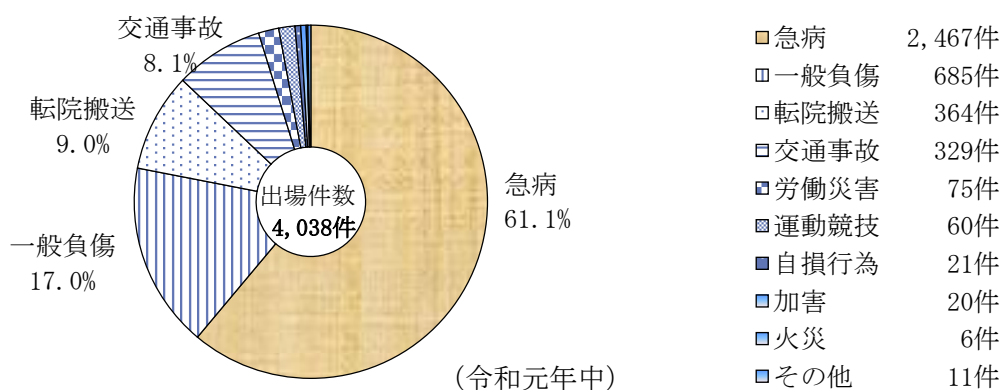
「応援」 近隣応援(境界、管轄高速道の出動)・兵庫県広域応援・緊急消防援助隊

救急編



救急出場件数

救急出場件数 4,038 件のうち急病が 2,467 件で 6 割を占め、続いて一般負傷 685 件、転院搬送 364 件の順となっています。



発生地区別出場件数

市内 10 地区の内 3 地区（三木地区、自由が丘地区、吉川地区）及び高速道の出場件数が増加しています。

地区	令和元年	平成 30 年	平成 29 年
出 場 件 数	4,038	4,036	3,784
三 木	1,169	1,141	1,140
三 木 南	378	394	342
別 所	364	367	334
志 染	316	322	278
細 川	151	163	135
口 吉 川	101	111	104
緑 が 丘	396	402	366
自由が丘	524	501	473
青 山	162	162	168
吉 川	418	404	377
高 速 道	53	40	43
そ の 他	6	29	24

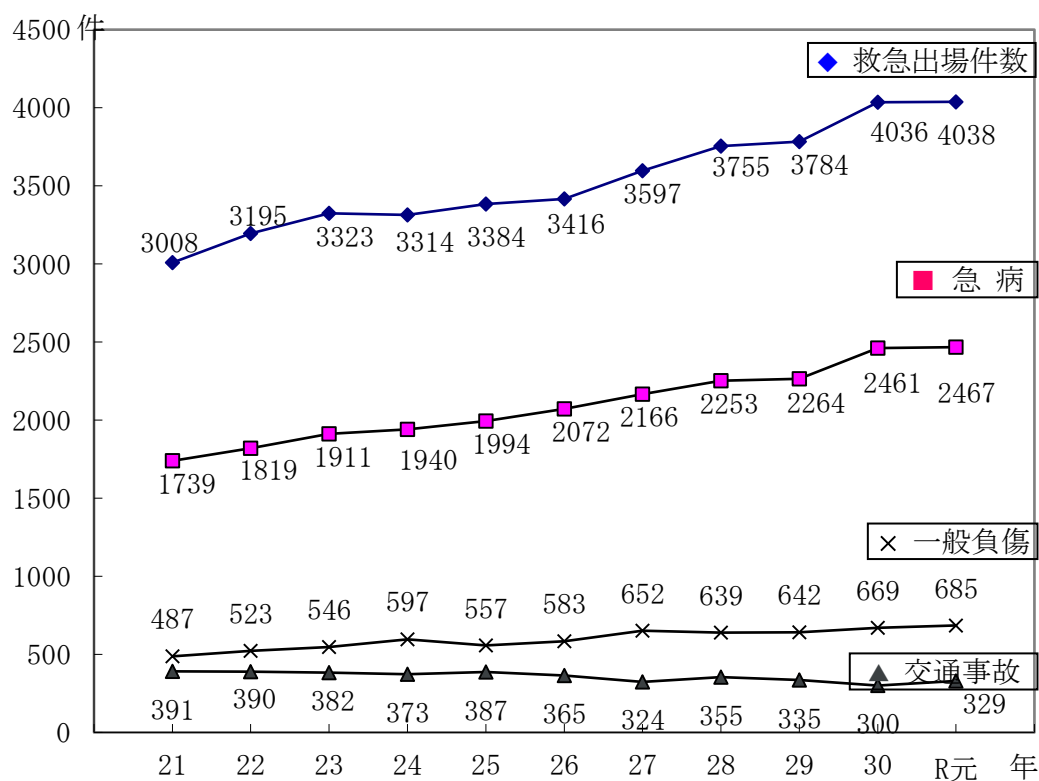
署別救急出場件数

本署 53.3%、広野分署 33.2%、吉川分署 13.5% の出場割合となっています。

事故種別	本 署	広 野	吉 川
火 災	4	1	1
自 然 災 害			
水 難			
交 通 事 故	188	96	45
労 働 災 害	45	13	17
運 動 競 技	29	27	4
一 般 負 傷	388	201	96
加 害	10	8	2
自 損 行 為	13	4	4
急 病	1,256	894	317
そ の 他	219	98	58
計	2,152	1,342	544

救急出場件数の推移

救急出場件数は前年比2件増加の4,038件で過去最多の出場件数となり、2年連続で4,000件を超えています。



事故種別救急出場件数

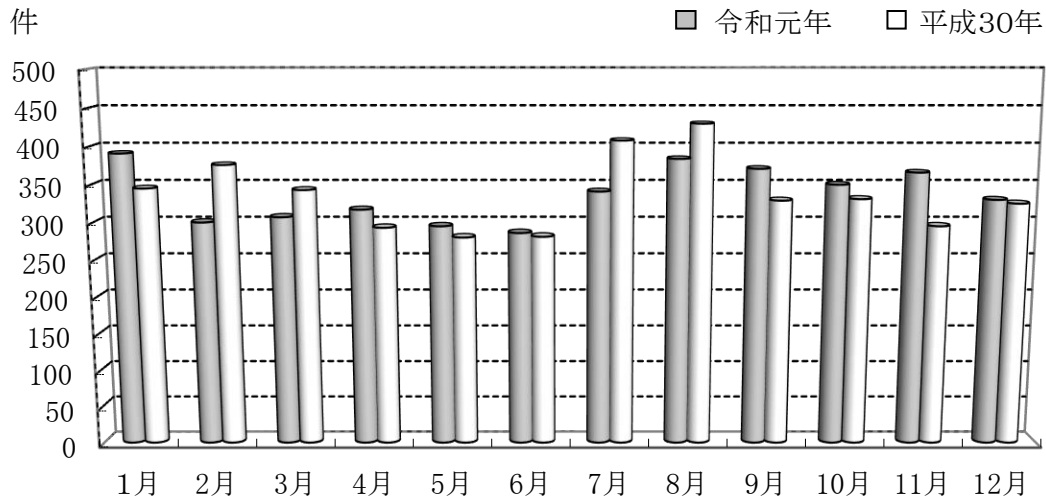
交通事故の増加と、労働災害の減少が目立っています。

年		令和元年	平成30年	増減
事故種別				
火災	災害	6	19	△13
自然災害				
水難			1	△1
交通事故		329	300	29
労働災害		75	98	△23
運動競技		60	44	16
一般負傷		685	669	16
加害		20	23	△3
自損行為		21	30	△9
急病		2,467	2,461	6
その他	転院搬送	364	377	△13
	医師搬送		1	△1
	資器材搬送			
	その他	11	13	△2
計		4,038	4,036	2

△印は減少

月別救急出場件数

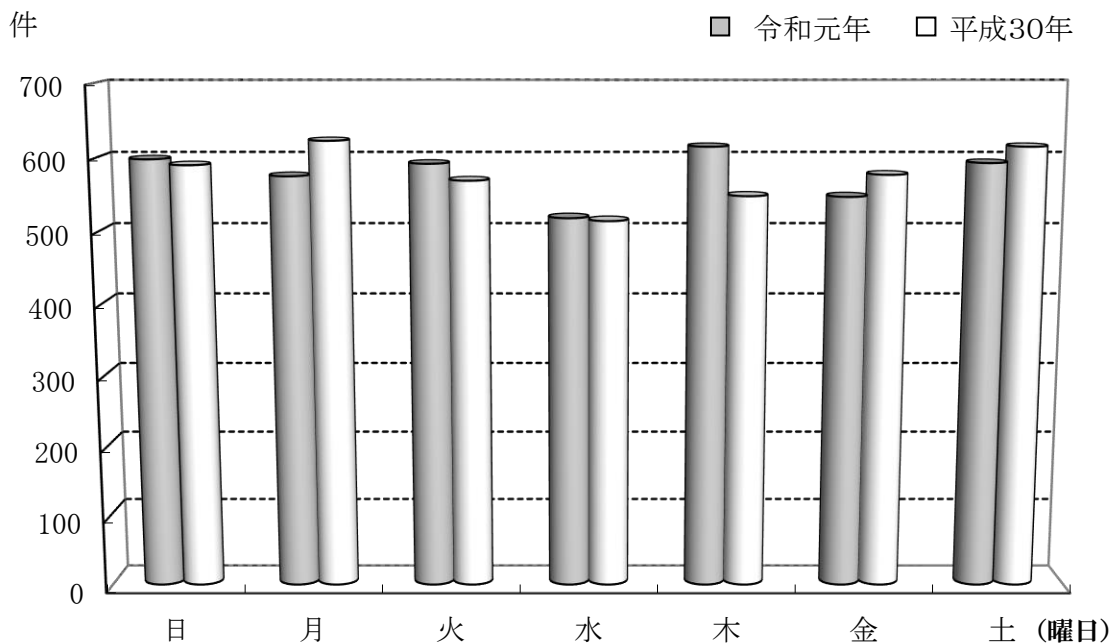
1月が最も多く、続いて8月となっています。最も少ないのは6月です。
1ヶ月平均336.5件、1日平均11.1件の出場です。



年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和元年	391	300	307	317	295	286	341	384	371	350	366	330	4,038
平成30年	345	376	343	293	280	281	408	430	329	331	295	325	4,036

曜日別救急出場件数

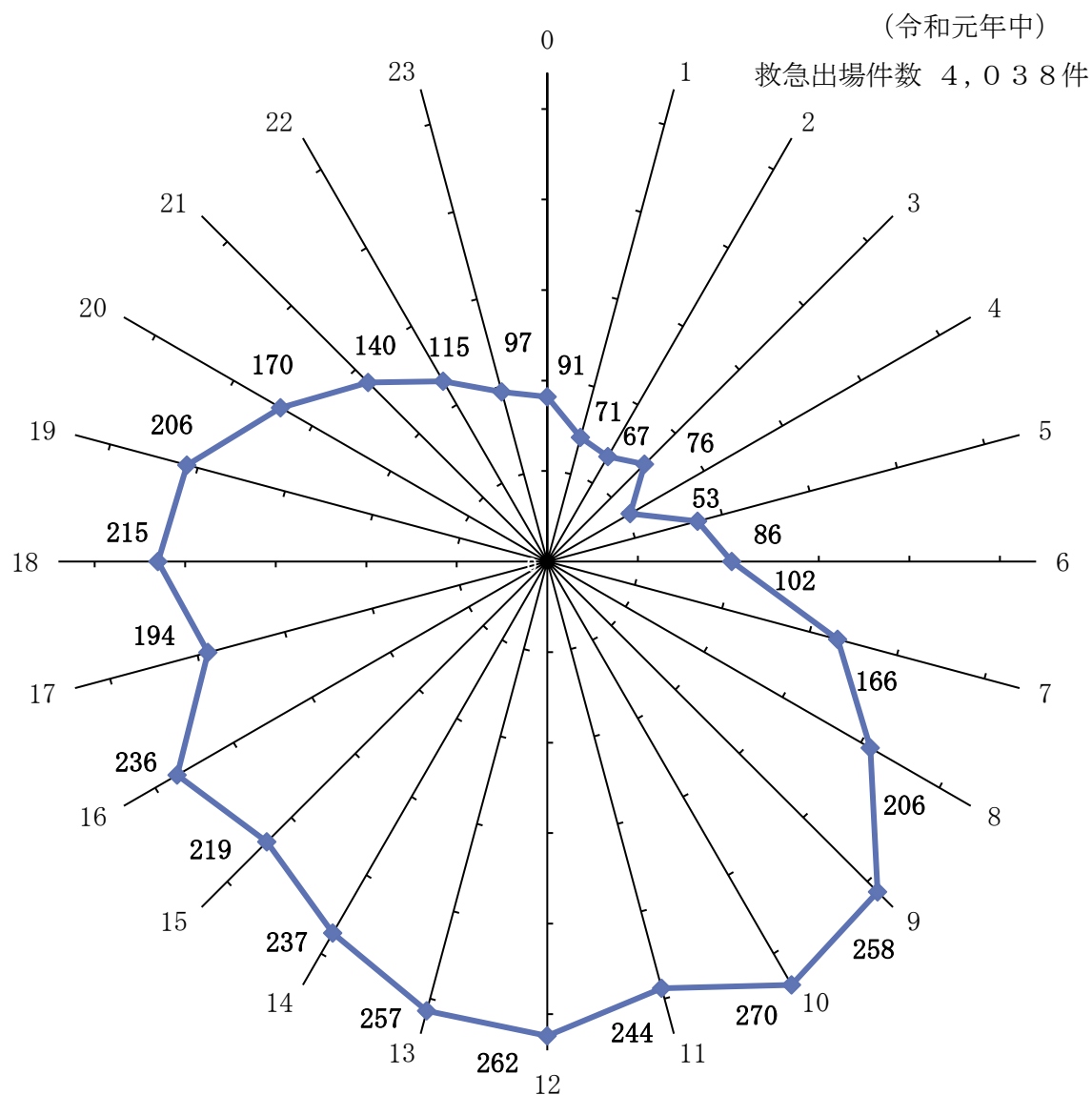
木曜日が最も多く、続いて日曜日となっています。最も少ないのは水曜日です。



年	曜日	日	月	火	水	木	金	土	合計
令和元年		598	575	592	518	615	547	593	4,038
平成30年		590	623	569	514	548	577	615	4,036

時間別救急出場件数

10時台が最も多く、最も少ないのは4時台となっています。



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

平均現場到着所要時間は7.8分です。5分以上10分未満で現場到着したものが2,611件で最も多くなっています。

(令和元年中)

事故種別 \ 所要時間	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上	計	平均時間 (分)
急病	21	234	1,700	479	33	2,467	7.7
交通事故	4	42	190	79	14	329	8.4
一般負傷	3	63	431	169	19	685	8.2
その他	9	163	290	85	10	557	6.9
計	37	502	2,611	812	76	4,038	7.8

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は39.2分で、最も多いのが30分以上60分未満の2,554人で全体の67.7%を占めています。

（令和元年中）

所要時間 事故種別	10分未満	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	計	平均時間 (分)
急病		34	562	1,558	116	3	2,273	37.4
交通事故		1	48	227	57		333	44.8
一般負傷		4	97	441	95	4	641	44.6
その他		9	157	328	29		523	36.8
計		48	864	2,554	297	7	3,770	39.2

事故種別救急搬送人員

交通事故の増加と、労働災害の減少が目立っています。

（令和元年中）

事故種別 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
令和元年	1			333	75	58	641	14	13	2,273	362	3,770
平成30年	10			277	95	43	620	19	15	2,262	379	3,720
増減	△9			56	△20	15	21	△5	△2	11	△17	50

（△印は減少）

傷病程度別救急搬送人員

軽症2,039人（54.1%）、中等症1,581人（41.9%）、重症117人（3.1%）、死亡33人（0.9%）の順となっています。

（令和元年中）

傷病程度 事故種別	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡									2	31		33
重症				14	3		11		3	70	16	117
中等症	1			56	30	14	249	4	5	888	334	1,581
軽症				263	42	44	381	10	3	1,284	12	2,039
その他												
計	1			333	75	58	641	14	13	2,273	362	3,770

発生場所別救急出場件数

住宅での発生が2, 194件で全体の54. 3%です。
そのうち急病が1, 788人で81. 5%を占めています。

(令和元年中)

発生場所 事故種別	住宅	公衆出入 場 所	仕事場	道路	その他	計
急 病	1,788	472	54	99	54	2,467
交通事故	1	17		306	5	329
一般負傷	368	159	5	103	50	685
そ の 他	37	435	72	4	9	557
計	2,194	1,083	131	512	118	4,038

事故種別年齢別搬送人員

高齢者（65歳以上）の搬送は2, 380人で全体の63. 1%です。
そのうち急病が1, 515人で63. 6%を占めています。

(令和元年中)

年齢別 事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
新生児（28日未満）			1		1
乳幼児（28日～6歳）	91	4	43	3	141
少 年（7歳～17歳）	76	36	27	34	173
成 人（18歳～64歳）	591	184	132	168	1,075
高齢者（65歳以上）	1,515	109	438	318	2,380
計	2,273	333	641	523	3,770

性別科目別搬送人員

性別では、男性が多くなっています。科目別では内科が1, 902人で最も多く、脳神経外科、整形外科、外科の順となっています。

(令和元年中)

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性 別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	199	105	319	330	391	271	1001	901	65	79	3	6
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		その他		合計	
性 別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人 員	15		9	5	9	15	29	8	7	3	2,032	1,738

高速道路における救急活動状況

(令和元年中)

事故種別 高速道別		急病	交通事故	一般負傷	その他	計
中国道	出動件数	6	1			7
	搬送人員	6	1			7
	不搬送					
舞鶴道	出動件数		1			1
	搬送人員		2			2
	不搬送					
山陽道	出動件数	27	10	6	2	45
	搬送人員	25	9	6	2	42
	不搬送	2	3			5
計	出動件数	33	12	6	2	53
	搬送人員	31	12	6	2	51
	不搬送	2	3			5

応急処置件数

(令和元年中)

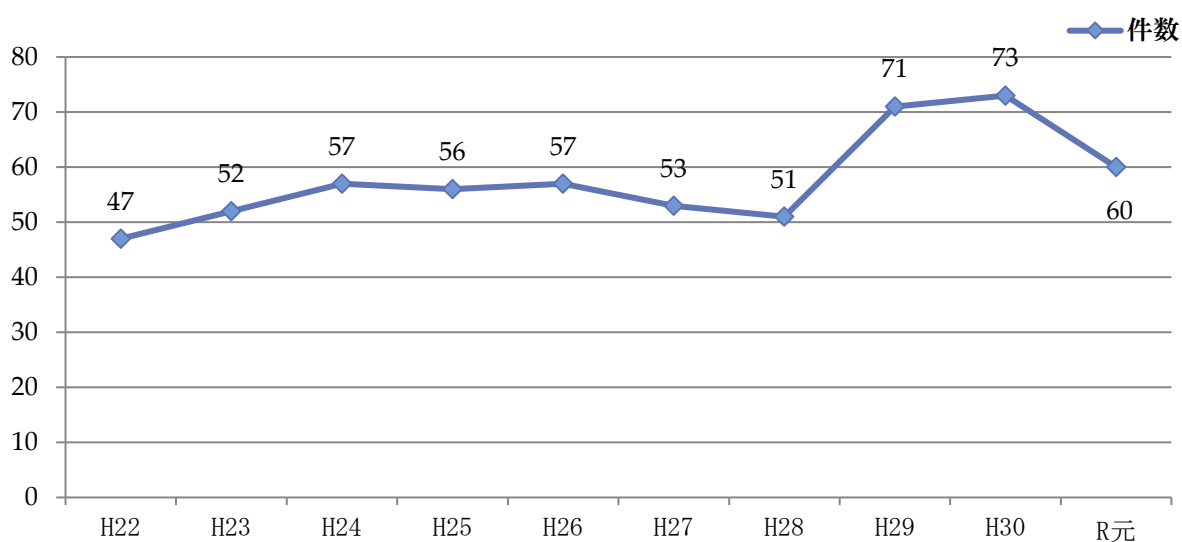
	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員(人)	2, 271	333	640	523	3, 767
止血	8	11	51	14	84
被覆	14	79	142	41	276
固定	7	135	80	44	266
保温	72	15	15	10	112
酸素吸入	364	32	31	102	529
人工呼吸	3			1	4
胸骨圧迫					
心肺蘇生	56	2	4	5	67
在宅療法継続	12		1	1	14
血圧測定	2, 186	329	617	514	3, 646
聴診器	245	68	32	48	393
血中酸素飽和度測定	2, 221	332	634	518	3, 705
心電図測定	1, 369	84	118	264	1, 835
気道確保	94	5	12	13	124
経鼻エアウェイ	2			1	3
喉頭鏡・鉗子			2		2
* ラリngeアマスク等	27			2	29
* 気管挿管	8		3		11
除細動	1				1
* 静脈路確保	41	1	3	3	48
* 心肺機能停止前	5		1		6
* 心肺機能停止後	36	1	2	3	42
* 薬剤投与	13		2		15
* 血糖測定	6				6
* ブドウ糖投与	2				2
その他	40	2	7	14	63
計	6, 754	1, 095	1, 749	1, 592	11, 190

* 印は、救急救命士の行う特定行為等

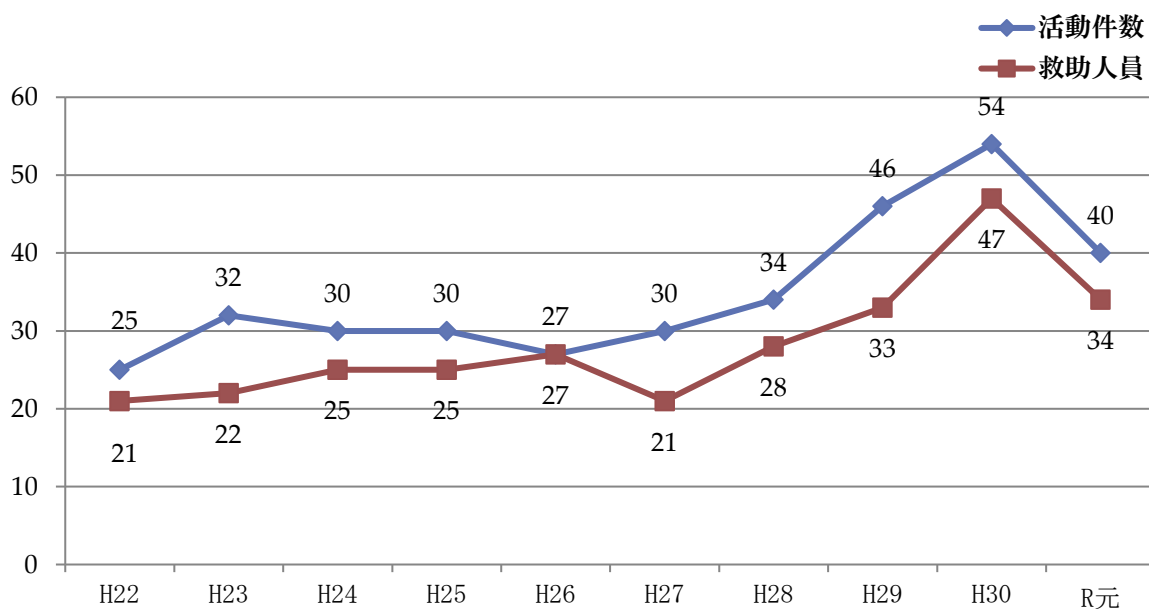
救助編



救助出動件数の推移



救助活動件数・救助人員の推移



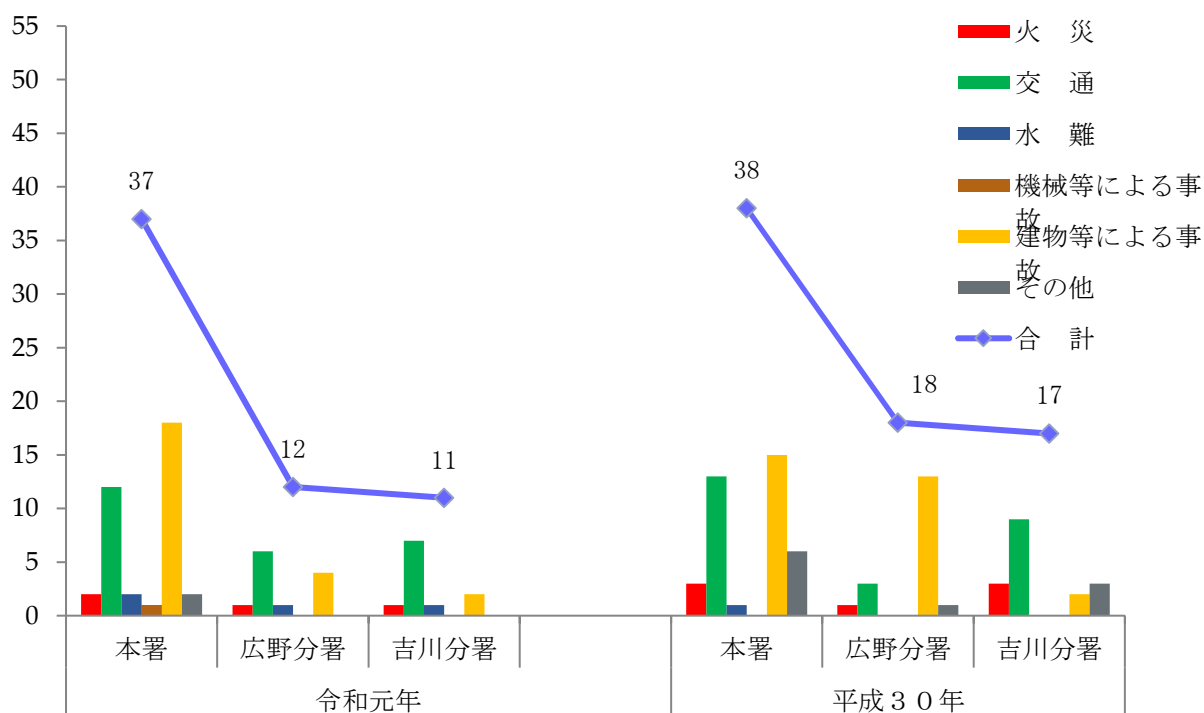
救助出動状況

出動件数 60 件で、前年比 13 件減少、救助人員については 34 人で、前年比 13 人減少となっています。

年 \ 区分	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動台数 (台)	出動人員 (人)
令和元年	60	40	34	181	506
平成30年	73	54	47	239	697

署別救助出動件数

本署の救助件数は1件減少、広野分署は6件の減少、吉川分署は6件の減少となりました。



地区別救助出動件数

三木地区が26件と最も多く、続いて吉川地区9件、志染地区6件の順となっています。事故種別では、交通事故が25件、建物等による事故が24件と全体の約81.6%を占めています。

(令和元年中)

種別		火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
地区	三木		7	1		17	1	26
	三木南	1	2					3
	別所	1	2	1	1			5
	志染		3	1		1	1	6
	細川	1		1				2
	口吉川		1					1
	緑が丘					1		1
	自由が丘		2			3		5
	青山							0
	吉川	1	6			2		9
	管外							0
	その他		2					2
	計							
計	出動件数	4	25	4	1	24	2	60
	活動件数	4	14	3	1	17	1	40
	救助人員		17	3	1	12	1	34

発生場所別救助出動件数

住居での火災・機械による事故・建物等による事故が２９件で、全体の４８．３％を占めています。

(令和元年中)

場所 \ 種別		火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
屋内	住居	4			1	24		29
	その他							0
屋外	高速道		2					2
	道路		23					23
	池川等			4				4
	その他						2	2
地下								0
その他								0
合計		4	25	4	1	24	2	60

指令編



指令業務

119番受信件数

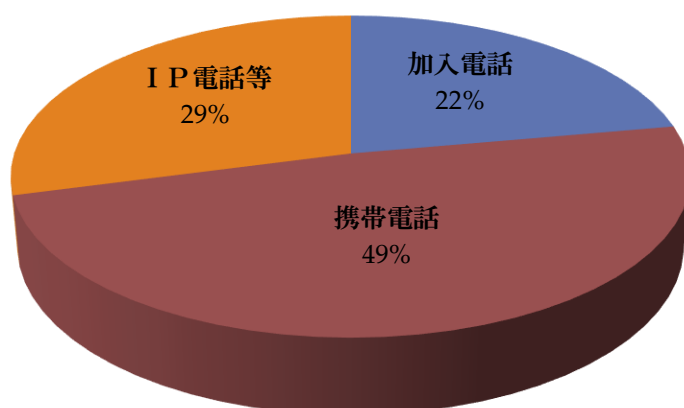
種 別	年別・構成比	令和元年 (件)	構成比 (%)	平成30年 (件)	構成比 (%)	前年比 (件)
火 災	災	42	0.6	54	0.8	△ 12
救 急	急	3,599	54.1	3,586	54.3	13
そ の 他 災 害	害	62	0.9	99	1.5	△ 37
火災・救急問い合わせ		425	6.4	540	8.2	△ 115
病 院 紹 介		1,487	22.3	1,464	22.2	23
ま ち が い		466	7.0	366	5.5	100
い た ず ら		17	0.3	15	0.2	2
訓 練 通 報		346	5.2	295	4.5	51
テ ス ト		212	3.2	189	2.9	23
計		6,656	100	6,608	100	48

※ その他災害とは、火災・救急に含まれない救助・水防等の災害です。

(△印は減少)

119番通報件数（回線区分別）

総通報件数 6,656 件



(令和元年中)

加入電話	1,477
携帯電話	3,241
I P 電話等	1,938
総通報件数	6,656

通信指令系統

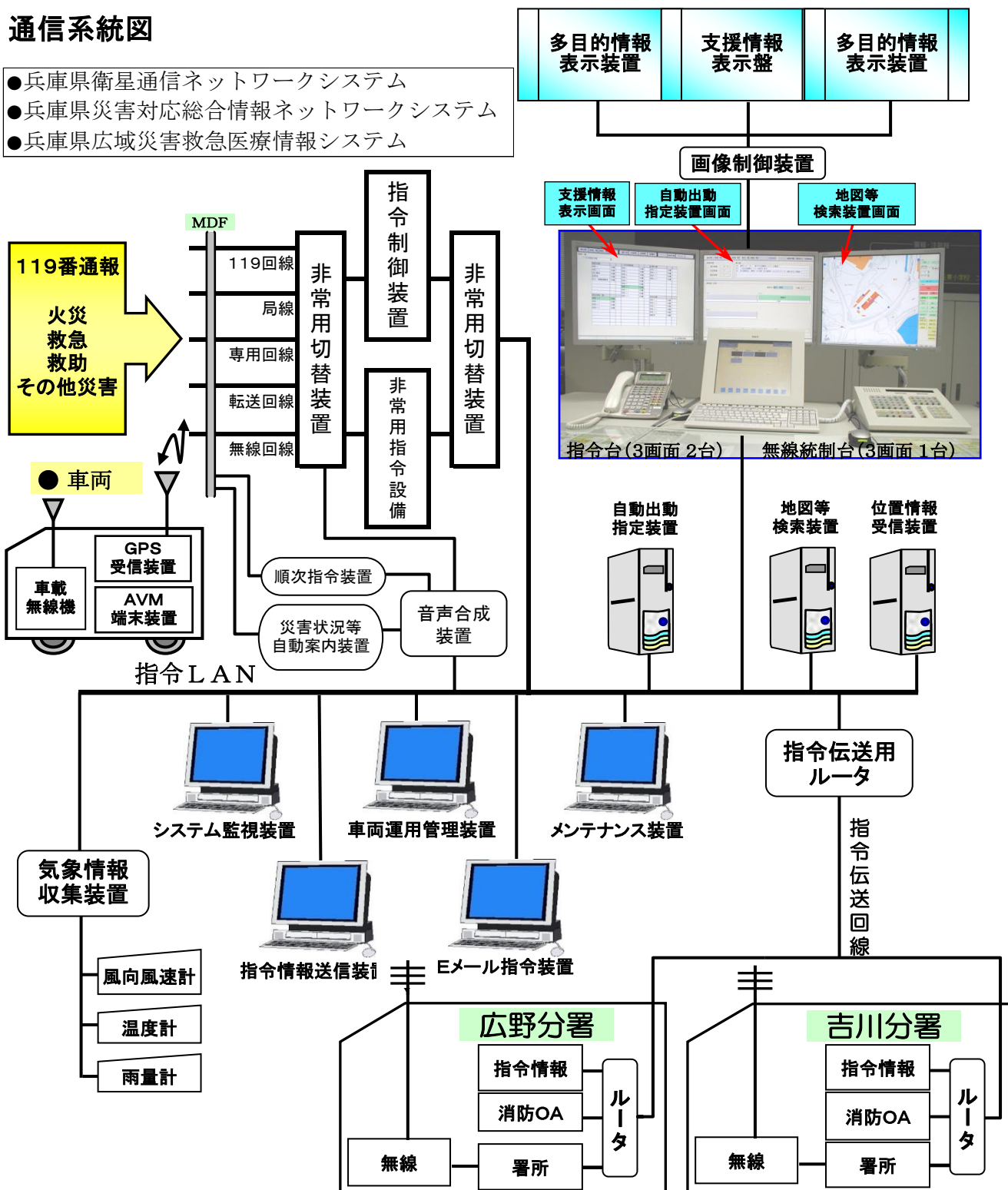
三木市消防本部では、119番通報の位置情報通知システム（統合型）などの機能を備えた高機能消防指令システムを導入しています。

同システムでは、携帯電話・固定電話・IP電話等からの119番通報があった場合、位置情報通知システムにより短時間で通報者の位置情報がモニター画面に表示されます。

こうした機能により、消防隊や救急隊が災害現場に到着するまでの時間が短縮され、また初動体制の強化が図られ、災害による被害の軽減・救命率の向上などが期待されます。

通信系統図

- 兵庫県衛星通信ネットワークシステム
- 兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム
- 兵庫県広域災害救急医療情報システム



高機能消防指令システム機器一覧

(令和元年中)

	機 器 名	数 量	備 考
1	指令装置		
	(1) 指令台	2 台	3 画面型 2 席 ISDN発信地表示対応
	(2) 自動出動指定装置		
	ア 制御処理装置	1 式	二重化対策
	イ ディスプレイ	3 台	T F Tカラー液晶
	ウ 補助記憶装置	1 式	各装置内臓のハードディスク
	エ 外部記憶装置	1 台	外付けハードディスク
	オ データ修正装置	1 台	
	(3) 地図等検索装置		
	ア 地図等検索装置	3 式	
	イ 地図用ディスプレイ	3 台	T F Tカラー液晶
	ウ スキャナ	1 台	
	(4) 長時間録音装置	1 台	音声デジタル方式・時刻録音/再生機能付き多チャンネル型
	(5) 非常用指令設備	1 台	I S D N対応(1 1 9 番含む)
	(6) 指令制御装置	1 式	I S D N対応(1 1 9 番含む)二重化構成
	(7) 携帯電話・I P電話受信転送装置	1 式	
	(8) 署所端末装置(電話機)	3 式	本署・吉川分署・広野分署
	ア 無線受令機(署所回線バックアップ用)	2 式	吉川分署・広野分署
	イ アンプ	2 式	吉川分署・広野分署
	(9) 1 1 9 番受付補助電話装置	4 台	
	(10) 拡張台	1 式	
2	表示盤		
	(1) 屋内広報表示盤	1 面	P C(広報機能ソフト付) 1 台
	(2) 支援情報表示盤	1 面	機械式
	(3) 多目的情報表示装置 7 0 インチプロジェクター	2 面	総合情報表示、病院運用表示、車両運用表示、地図情報等任意画面への切替
	表示盤端末装置及びディスプレイ	3 式	車両運用表示、病院運用表示 支援情報表示(玄関表示盤用)
3	無線統制台	1 台	
4	指令電送装置		
	(1) 指令情報送信装置	1 式	
	(2) 指令情報出力装置	4 式	本署・広野分署・吉川分署・指令室
	(3) 地図表示装置	3 式	4 0 インチ
	(4) 関係機関連絡用 F A X	1 式	
	(5) E メール送信装置	1 式	
5	気象情報収集装置	1 式	
6	災害状況等自動案内装置	1 式	
7	順次指令装置	1 台	
8	音声合成装置	1 式	
9	出動車両運用管理装置		
	(1) 管理装置	1 式	
	(2) 車両運用端末装置(G P S 地図表示型)	1 7 式	
	(3) 車外設定端末装置	2 1 式	
10	システム監視装置	1 式	

	機 器 名	数 量	備 考
11	電源設備		
	(1) 無停電電源装置 (C V C F)	1 式	
	(2) 直流電源装置 (DC-12V)	1 式	
	(3) 直流電源装置 (DC-48V)	1 式	
	(4) 無停電電源装置 (署所設置)	3 式	
12	消防無線電話装置		
	(1) デジタル無線		
	ア 260MHz無線電話装置 (遠隔制御器付)	2 台	活動波 1 ・ 活動波 2
	イ 260MHz無線電話装置 (遠隔制御器付)	4 台	共通波 ・ 統制波 1 ・ 2 ・ 3
	ウ 無線電話装置	3 台	吉川分署 (活動波 1 ・ 活動波 2 ・ 共通波)
	エ 空中線	8 基	スリープ型 (本署 : 4 吉川 : 4)
	オ 妨害波除去フィルタ	2 式	本署 ・ 吉川総合公園
	カ 同軸避雷器	4 台	
13	災害情報画像伝送装置	1 式	デジタルカメラ ・ FOMA受信カード ・ 通信ソフト含む
	(1) F O M A 電話機	2 台	
	(2) 静止画処理端末装置	1 式	
14	庁内電話交換装置	1 式	
15	消防 O A システム		
	(1) 情報処理装置		
	ア W E B サーバ	1 台	
	イ D B サーバ	1 台	
	ウ バックアップサーバ	1 台	
	(2) 支援情報端末	1 5 台	
	(3) 消防 O A システム (W e b 方式)	1 5 式	
16	庁舎監視装置		
	(1) 監視用カラー C C D カメラ	5 台	屋外用 4 台 屋内用 1 台
	(2) 監視用カラーモニターテレビ	2 台	
	(3) 録画装置	1 式	
17	無線受令機	1 式	空中線付き 署所設置
18	車載型ノートパソコン		
	(1) 車載型ノートパソコン	1 台	
19	4 0 インチ液晶ディスプレイ	2 式	DVD 一体型 VTR、スピーカー含む 作戦室 : 1 ・ 2 階事務室 : 1
20	ホワイトボード	1 台	電子式 (1 階作戦指令室)
21	聴覚障害者用 F A X	1 台	
22	県医療システムゲートウェイ装置	1 式	県医療システム連携用装置

消防通信施設状況

(令和2年3月31日現在)

区分	回線種別	回線数	区分	回線種別	回線数
指令装置	119番受付回線	4	指令装置	順次指令回線	2
	119番携帯電話受付回線	4		Eメール指令回線	1
	指令台加入電話回線	2		無線前進基地局専用回線	6
	衛星通信回線	2		兵庫県災害対応総合情報ネットワーク回線	1
	高速道専用回線	1		兵庫県広域災害・救急医療情報システム回線	1
	災害問合せ回線	2		消防無線モニターシステム回線	1

デジタル無線

(令和2年3月31日現在)

消防無線	基地局	みきしょうほんぶ 【三木市消防本部】 活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1・2・3	10W	1基
	前進基地局	みきしょうよかわ 【吉川総合公園】 活動波1ch、活動波2ch、主運用通波	10W	1基
	陸上移動局（車載用）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3、防災相互波	5W	22局
	陸上移動局（携帯用）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	1W	20局
	陸上移動局（可搬型）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	5W	1局
	陸上移動局（卓上型）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	5W	2局

アナログ無線

(令和2年3月31日現在)

署活系	本署	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	33局
	広野	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	7局
	吉川	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	7局

火災出動体制

(令和2年3月31日現在)

出動区分	偵察出動			第1出動			第2出動			第3出動			特命出動	応援出動
管内区分	本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	管内全域	隣接地域
出動部隊数	本部						1	1	1	2	2	2	特命により 必要な 部隊数	要請 部隊数
	本署	1		2	1	1	3	2	2	3	3	2		
	広野		1	1	2		1	2		2	2	1		
	吉川			1		2			2			2		
基準出動隊数	1			3			5			7				

消防無線通信施設

(令和2年3月31日現在)

署所	無線局種別	呼出名称	配置場所	方式	空中線電力	メーカー	購入年月日	備考
消防本部	基地局	みきしょうほんぶ	指令室	デジタル	10W	NEC	平成26年 3月31日	市単
	前進基地局	みきしょうよかわ	吉川総合公園	デジタル	10W	〃	平成26年 3月31日	市単
	陸上移動局(車載用)	〃 5	消防 5号車積載	デジ・アナ	〃	〃	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃 2 1	消防21号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 2 3	消防23号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
消防署	陸上移動局(車載用)	みきしょう 1	消防 1号車積載	デジ・アナ	5 W	NEC	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃 3	消防 3号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 4	消防 4号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 6	消防 6号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 7	消防 7号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 8	消防 8号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 1 0	消防10号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 1 1	消防11号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 1 2	消防12号車積載	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	〃	〃 3 0	消防30号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 8 0	消防80号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	陸上移動局(可搬型)	みきしょう 3 0 0	消防 7号車積載	デジタル	5 W	〃	平成26年 7月31日	市単
	陸上移動局(携帯用)	みきしょう 2 0 1	消防署	〃	1 W	〃	平成26年 7月31日	市単
	〃	〃 2 0 2	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 3	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 4	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 5	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 6	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 7	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 0 8	消防署	〃	〃	〃	平成28年12月15日	〃
	〃	〃 2 0 9	消防署	〃	〃	〃	平成29年12月20日	〃
	〃	〃 2 1 0	消防署	〃	〃	〃	平成31年 3月25日	〃
	〃	〃 2 1 1	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	〃	〃 2 1 2	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	陸上移動局(署活系)	みきほんしょ No, 1 ～ 2 3	消防署	アナログ	1 W	I COM	平成28年1月18日	市単
	〃	No, 2 4、2 5	消防署	〃	〃	〃	平成29年12月25日	〃
	〃	No, 2 6 ～ 2 8	消防署	〃	〃	〃	平成31年3月25日	〃
	〃	No, 2 9 ～ 3 3	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃

広 野 分 署	陸上移動局(車載用)	みきしょう 2 0	消防20号車積載	デジ・アナ	5 W	〃	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃 5 2	消防52号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	国庫
	〃	〃 5 3	消防53号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃 6 0	消防60号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	寄贈
	陸上移動局(携帯用)	〃 2 3 0	広野分署	デジタル	1 W	N E C	平成26年 7月31日	市単
	〃	〃 2 3 1	広野分署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 3 2	広野分署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 3 3	広野分署	〃	〃	〃	平成30年 11月4日	〃
	陸上移動局(卓上型)	〃 3 0 1	広野分署	デジタル	5 W	N E C	平成27年 11月4日	市単
	陸上移動局(署活系)	みきひろの No, 1 ~ 7	広野分署	アナログ	1 W	I C O M	平成28年 1月18日	市単
吉 川 分 署	陸上移動局(車載用)	みきしょう 2 2	消防22号車積載	デジ・アナ	5 W	〃	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃 8 1	消防81号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 8 2	消防82号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 9 0	消防90号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	国庫
	陸上移動局(携帯用)	〃 2 5 0	吉川分署	デジタル	1 W	N E C	平成26年 7月31日	市単
	〃	〃 2 5 1	吉川分署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 5 2	吉川分署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 2 5 3	吉川分署	〃	〃	〃	平成27年 1月20日	〃
	陸上移動局(卓上型)	〃 3 0 2	吉川分署	デジタル	5 W	N E C	平成27年 11月4日	市単
	陸上移動局(署活系)	みきよかわ No, 1 ~ 7	吉川分署	アナログ	1 W	I C O M	平成28年 1月18日	市単

消防団編

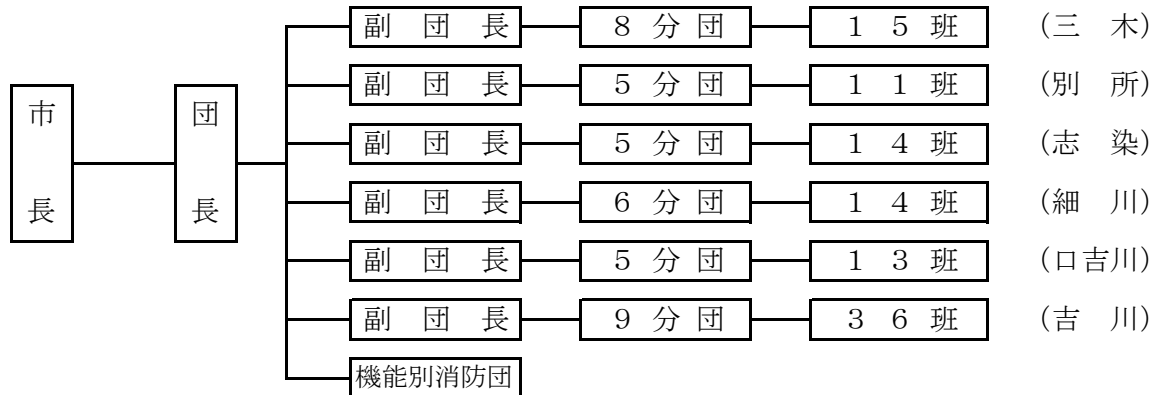


消防団の現況

消防団は、本業を持ちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という強い精神で、地域の安全・安心を守るため活躍している人の集団です。

団長以下1,336名の団員が消防・防災に関する知識や技術を習得し、各種災害から地域住民の生命や財産を守るために活躍しています。

機 構



令和元年度消防団の主な行事

4月14日	新正副分団長会議及び新入団員教養訓練
4月28日	令和元年度三木市消防大会
5月24日	北播消防協議会総会（加東市）
7月14日	北播消防協議会ソフトボール大会（加東市）
7月25日	緊急自動車安全運転講習会
7月27日	みっきい夏まつり花火警備
8月30日～ 8月31日	三木市消防団幹部視察研修（福井県）
9月29日	みっきいみんなで防災
10月25日	正副分団長会議
10月27日	兵庫県広域防災センター実戦デモ訓練
11月 2日～11月 3日	三木金物まつり2019特別警備
11月 9日～11月15日	秋季全国火災予防運動実施
11月10日～11月24日	秋の訓練強化月間に伴う各地区消防訓練
11月16日～11月17日	消防団員指揮幹部科（分団指揮課程）入校
12月 1日	消防団員現地訓練
12月 7日～12月 8日	消防団員指揮幹部科（現場指揮課程）入校
12月29日～12月30日	年末火災特別警戒
1月19日	自由が丘連合自主防災訓練で倒壊家屋救出、救急搬送訓練実施
2月14日	北播磨地区若手消防団員意見交換会（加東市）
3月 1日～ 3月 7日	春季全国火災予防運動実施

消防団員在職年数

(令和2年4月1日現在)

在職年数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総計
05年未満				7	21	21	203	252
05年～09年			10	18	35	34	163	260
10年～14年			14	22	20	16	180	252
15年～19年		2	6	13	5	9	149	184
20年～24年		2	7	8	9	14	152	192
25年～29年		2	5	3	10	5	96	121
30年以上	1		1		2	3	68	75
総計	1	6	43	71	102	102	1,011	1,336

消防団員年齢調べ

(令和2年4月1日現在)

年齢区分	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総計
18才～19才							1	1
20才～24才				1		7	30	38
25才～29才			1	6	9	7	89	112
30才～34才			6	12	22	16	143	199
35才～39才			14	20	24	22	209	289
40才～44才		2	8	18	22	29	194	273
45才～49才		3	9	13	18	17	186	246
50才～54才		1	5		6	2	92	106
55才以上	1			1	1	2	67	72
総計	1	6	43	71	102	102	1,011	1,336
平均年齢	67.0	46.6	40.1	38.7	38.9	38.3	40.6	40.2

消防団分団・階級別実員数

(令和2年4月1日現在)

分団・班名			階 級	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	計
団 本 部				1	6					26	33
三 木	第 1 分 団	宿原・与呂木・平井				1	2	3	3	27	36
	第 2 分 団				1	1	1	1	17	21	
	第 3 分 団	岩宮・久留美				1	1	2	2	25	31
	第 4 分 団				1	1	1	1	14	18	
	第 5 分 団	跡部・加佐東・加佐西				1	2	3	3	33	42
	第 6 分 団				2	1	1	1	12	17	
	第 7 分 団	平田・大村・鳥町				1	2	3	3	41	50
	第 8 分 団				1	1	1	1	14	18	
	小 計			0	0	9	11	15	15	183	233
別 所	第 1 分 団	高木・小林				2	1	2	2	31	38
	第 2 分 団	東這田・興治				1	1	2	2	29	35
	第 3 分 団	西這田北・西這田南・花尻				1	2	3	3	34	43
	第 4 分 団	石野・下石野				1	1	2	2	32	38
	第 5 分 団	正法寺・和田				1		1	1	11	14
	小 計			0	0	6	5	10	10	137	168
志 染	第 1 分 団	戸田・三津田・御坂				1	2	3	3	42	51
	第 2 分 団	大谷・井上・志染中				1	2	3	3	30	39
	第 3 分 団	窟屋・高男寺・細目				2	2	3	3	30	40
	第 4 分 団	安福田・東吉田・吉田				1	2	3	3	38	47
	第 5 分 団	四合谷・広野				1	1	2	2	19	25
	小 計			0	0	6	9	14	14	159	202
細 川	第 1 分 団				1	1	1	1	19	23	
	第 2 分 団				1	1	1	1	17	21	
	第 3 分 団				1	1	1	1	15	19	
	第 4 分 団	増田・豊地・佐野				1	2	3	3	23	32
	第 5 分 団	金屋・桃津・高篠・高畑				1	3	4	4	35	47
	第 6 分 団	細川中上・細川中・西・脇川				1	3	4	4	32	44
	小 計			0	0	6	11	14	14	141	186
口 吉 川	第 1 分 団	久次・里脇				1	1	2	2	18	24
	第 2 分 団	槇・大島				2	1	2	2	29	36
	第 3 分 団	笹原・殿畑・南畑				1	2	3	3	24	33
	第 4 分 団	保木・楮原・三和				1	2	3	3	23	32
	第 5 分 団	東中・西中・桃坂				1	2	3	3	23	32
	小 計			0	0	6	8	13	13	117	157
吉 川	第 1 分 団	稲田・金会・福吉・毘沙門				1	3	4	4	35	47
	第 2 分 団	市野瀬・東田・楠原・奥谷				1	3	4	4	35	47
	第 3 分 団	豊岡・南豊岡・南水上・北水上				2	3	4	4	29	42
	第 4 分 団	吉安上・吉安下大沢・大畑・西奥・米田				1	4	5	5	32	47
	第 5 分 団	鍛冶屋・貸潮・渡瀬法光寺・出晴				1	3	4	4	29	41
	第 6 分 団	山上・長谷・上松・田谷・湯谷				1	4	5	5	24	39
	第 7 分 団	新田・上荒川・畑枝福井				1	2	3	3	21	30
	第 8 分 団	富岡・前田・上中				1	2	3	3	25	34
	第 9 分 団	古川・実楽・古市・有安				1	3	4	4	18	30
	小 計			0	0	10	27	36	36	248	357
合 計				1	6	43	71	102	102	1011	1,336

消防団ポンプ現勢一覧表

(令和2年4月1日現在)

所 属		消防ポンプ	機 種	経年	ポンプの性能		配置年月		
地区	分団・班				形 式	級			
三 木	1	宿原	小型動力ポンプ	シバウラ	01/07	一段タービン	B 3	H30.09	
		与呂木	小型動力ポンプ	シバウラ	03/06	一段タービン	B 3	H28.10	
		平井	軽四輪積載車	スズキ	11/05	搬送車タイプ	—	H20.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	23/05	一段タービン	B 3	H08.11	
	第 2 分 団	積載車	ニッサン	10/08	—	—	H21.08		
		小型動力ポンプ	ラビット	16/05	一段タービン	B 3	H15.11		
	3	岩宮	軽四輪積載車	スズキ	13/02	搬送車タイプ	—	H19.02	
			小型動力ポンプ	トーハツ	00/07	一段タービン	B 3	R01.09	
		久留美	小型動力ポンプ	トーハツ	07/05	一段タービン	B 3	H24.11	
	第 4 分 団	消防ポンプ自動車	イスズ	02/02	二段バランスタービン	A 2	H30.02		
	5	跡部	小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B 3	H09.11	
		加佐東	軽四輪積載車	スズキ	15/01	搬送車タイプ	—	H17.03	
			小型動力ポンプ	トーハツ	14/02	一段タービン	B 3	H18.02	
		加佐西	軽四輪積載車	ダイハツ	00/07	デッキタイプ	—	R01.09	
			小型動力ポンプ	トーハツ	00/07	一段タービン	B 3	R01.09	
	第 6 分 団	積載車	ニッサン	08/07	—	—	H23.09		
		小型動力ポンプ	ラビット	10/02	一段タービン	B 3	H22.02		
		7	平田	小型動力ポンプ	トーハツ	13/02	一段タービン	B 3	H19.02
			大村	小型動力ポンプ	ラビット	21/05	一段タービン	B 3	H10.11
			鳥町	小型動力ポンプ	シバウラ	01/07	一段タービン	B 3	H30.09
		第 8 分 団	消防ポンプ自動車	トヨタ	01/02	二段バランスタービン	A 2	H31.02	

別 所	1	高木	軽四輪積載車	スズキ	04/05	—	—	H27.11
			小型動力ポンプ	シバウラ	09/06	一段タービン	B 3	H22.10
		小林	軽四輪積載車	ダイハツ	22/12	搬送車タイプ	—	H09.04
			小型動力ポンプ	ラビット	23/05	一段タービン	B 3	H08.11
	2	東這田	小型動力ポンプ	トーハツ	00/07	一段タービン	B 3	R01.09
			軽四輪積載車	スズキ	12/05	搬送車タイプ	—	H19.11
		興治	小型動力ポンプ	シバウラ	06/05	一段タービン	B 3	H25.11
			軽四輪積載車	スズキ	11/05	搬送車タイプ	—	H20.11
	3	西這田北	小型動力ポンプ	ラビット	26/05	一段タービン	B 3	H05.11
			軽四輪積載車	ダイハツ	16/04	搬送車タイプ	—	H15.12
		西這田南	小型動力ポンプ	ラビット	18/05	一段タービン	B 3	H13.11
			軽四輪積載車	スズキ	12/01	搬送車タイプ	—	H20.03
		花尻	小型動力ポンプ	ラビット	23/05	一段タービン	B 3	H08.11
			軽四輪積載車	スズキ	13/02	搬送車タイプ	—	H19.02
	4	別所機動隊	小型動力ポンプ	ラビット	15/04	一段タービン	B 3	H16.12
			積載車	ニッサン	09/07	—	—	H22.09
		石野	小型動力ポンプ	トーハツ	09/07	一段タービン	B 3	H22.09
			軽四輪積載車	ラビット	25/05	一段タービン	B 3	H06.11
		下石野	小型動力ポンプ	ダイハツ	14/02	搬送車タイプ	—	H18.02
			軽四輪積載車	ラビット	05/06	一段タービン	B 3	H26.10
染	5	正法寺	小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B 3	H09.11
			軽四輪積載車	ラビット	27/05	一段タービン	B 3	H04.11
	5	和田	小型動力ポンプ	ダイハツ	08/06	搬送車タイプ	—	H23.10
			軽四輪積載車	トーハツ	07/05	一段タービン	B 3	H24.11

志 染	1	戸田	軽四輪積載車	ダイハツ	10/08	搬送車タイプ	—	H21.08
			小型動力ポンプ	シバウラ	06/05	一段タービン	B 3	H25.11
		三津田	小型動力ポンプ	ラビット	19/05	一段タービン	B 3	H12.11
			軽四輪積載車	ダイハツ	10/08	搬送車タイプ	—	H21.08
	2	御坂	小型動力ポンプ	ラビット	20/05	一段タービン	B 3	H11.11
			軽四輪積載車	三菱	33/05	トラックタイプ	—	S61.11
		大谷	小型動力ポンプ	ラビット	33/06	一段タービン	B 3	S61.10
			軽四輪積載車	シバウラ	02/07	一段タービン	B 3	H29.09
		志染機動隊	救助資機材搭載	イスズ	09/07	—	—	H22.09
		志染中	小型動力ポンプ	シバウラ	09/07	一段タービン	B 2	H22.09

所 属		消防ポンプ	機 種	経年	ポンプの性能		配置年月	
地区	分団・班				形 式	級		
志 染	3	窟屋	軽四輪積載車	スズキ	11/05	搬送車タイプ	B 3	H20. 11
			小型動力ポンプ	トーハツ	12/04	一段タービン	B 3	H19. 12
		高男寺	小型動力ポンプ	ラビット	19/05	一段タービン	B 3	H12. 11
		細目	小型動力ポンプ	ラビット	24/04	一段タービン	B 3	H07. 12
	4	安福田	小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B 3	H09. 11
		東吉田	小型動力ポンプ	ラビット	05/06	一段タービン	B 3	H26. 10
		吉田	小型動力ポンプ	ラビット	26/05	一段タービン	B 3	H05. 11
	5	四合谷	小型動力ポンプ	シバウラ	09/06	一段タービン	B 3	H22. 10
		広野	小型動力ポンプ	ラビット	23/05	一段タービン	B 3	H08. 11

細川	第 1 分団	軽四輪積載車	スズキ	15/01	搬送車タイプ	—	H17.03	
		小型動力ポンプ	シバウラ	03/06	一段タービン	B 3	H28.10	
		小型動力ポンプ	ラビット	08/05	一段タービン	B 3	H23.11	
	第 2 分団	小型動力ポンプ	トーハツ	11/05	一段タービン	B 3	H20.11	
	第 3 分団	小型動力ポンプ	シバウラ	09/05	一段タービン	B 3	H22.11	
	4	増田	小型動力ポンプ	ラビット	24/04	一段タービン	B 3	H07.12
		細川機動隊	消防ポンプ自動車	トヨタ	19/07	二段バランスタービン	A 2	H12.09
		豊地	小型動力ポンプ	ラビット	21/05	一段タービン	C 1	H10.11
		佐野	小型動力ポンプ	ラビット	26/05	一段タービン	B 3	H05.11
	5	金屋	小型動力ポンプ	ラビット	37/07	一段タービン	B 3	S57.09
		桃津	小型動力ポンプ	ラビット	31/02	一段タービン	B 3	H01.02
		高篠	小型動力ポンプ	トーハツ	04/05	一段タービン	B 3	H27.11
		高畑	小型動力ポンプ	ラビット	18/05	一段タービン	B 3	H13.11
	6	細川中上	小型動力ポンプ	ラビット	19/05	一段タービン	B 3	H12.11
		細川中	小型動力ポンプ	ラビット	25/05	一段タービン	B 3	H06.11
		西	小型動力ポンプ	ラビット	27/05	一段タービン	B 3	H04.11
		脇川	軽四輪積載車	ダイハツ	18/01	搬送車タイプ	—	H14.03
			小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B 3	H09.11

口	1	久次	軽四輪積載車	スズキ	12/01	搬送車タイプ	—	H20. 03	
			小型動力ポンプ	ラビット	24/04	一段タービン	B 3	H07. 12	
		里脇	軽四輪積載車	スズキ	09/04	搬送車タイプ	—	H22. 12	
			小型動力ポンプ	ラビット	19/05	一段タービン	B 3	H12. 11	
	2	楨	軽四輪積載車	ダイハツ	16/04	搬送車タイプ	—	H15. 12	
			小型動力ポンプ	シバウラ	03/06	一段タービン	B 3	H28. 10	
		大島	軽四輪積載車	ダイハツ	14/02	搬送車タイプ	—	H18. 02	
			小型動力ポンプ	ラビット	16/05	一段タービン	B 3	H15. 11	
	吉	3	笹原	軽四輪積載車	スバル	29/08	トラックタイプ	—	H02. 08
				小型動力ポンプ	ラビット	29/05	一段タービン	B 3	H02. 11
			殿畑	軽四輪積載車	スズキ	12/05	搬送車タイプ	—	H19. 11
				小型動力ポンプ	トーハツ	11/02	一段タービン	B 3	H19. 02
南畑			軽四輪積載車	スズキ	12/01	搬送車タイプ	—	H20. 03	
			小型動力ポンプ	ラビット	30/05	一段タービン	B 3	H01. 11	
4		保木	軽四輪積載車	スズキ	13/02	搬送車タイプ	—	H19. 02	
			小型動力ポンプ	ラビット	26/05	一段タービン	B 3	H05. 11	
		裾原	軽四輪積載車	スバル	18/03	トラックタイプ	—	H14. 01	
			小型動力ポンプ	ラビット	18/03	一段タービン	B 3	H14. 01	
		三和	小型動力ポンプ	トーハツ	13/02	一段タービン	B 3	H19. 02	
川		5	東中	軽四輪積載車	スズキ	05/05	搬送車タイプ	—	H26. 11
	小型動力ポンプ			トーハツ	14/02	一段タービン	B 3	H18. 02	
	西中		軽四輪積載車	スズキ	05/05	搬送車タイプ	—	H26. 11	
			小型動力ポンプ	ラビット	18/02	一段タービン	B 3	H14. 02	
	桃坂		軽四輪積載車	スズキ	12/01	搬送車タイプ	—	H20. 03	
			小型動力ポンプ	ラビット	20/05	一段タービン	B 3	H11. 11	
	口吉川機動隊		積載車	日産	11/05	—————	—	H20. 11	
			小型動力ポンプ	トーハツ	13/02	一段タービン	B 3	H19. 02	

所 属		消防ポンプ	機 種	経年	ポンプの性能		配置年月		
地区	分団・班				形 式	級			
吉	1	稲田	軽四輪積載車	ミツビシ	32/03	トラックタイプ	—	S63.01	
			小型動力ポンプ	トーハツ	04/05	一段タービン	B 3	H27.11	
		金会	積載車	ニッサン	29/09	—	—	H02.07	
			小型動力ポンプ	ラビット	29/09	一段タービン	B 2	H02.07	
		福吉	軽四輪積載車	スバル	22/05	トラックタイプ	—	H09.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	05/06	一段タービン	B 3	H26.10	
		毘沙門	軽四輪積載車	スバル	26/05	トラックタイプ	—	H05.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	08/05	一段タービン	B 3	H23.11	
	2	市野瀬	軽四輪積載車	スバル	17/05	トラックタイプ	—	H14.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	17/05	一段タービン	B 2	H14.11	
		東田	軽四輪積載車	ダイハツ	00/07	搬送車タイプ	—	R01.09	
			小型動力ポンプ	トーハツ	00/07	一段タービン	B 3	R01.09	
		楠原	軽四輪積載車	スバル	16/05	トラックタイプ	—	H15.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	16/05	一段タービン	B 2	H15.11	
		奥谷	軽四輪積載車	スバル	29/01	トラックタイプ	—	H03.03	
			小型動力ポンプ	シバウラ	02/07	一段タービン	B 3	H29.09	
	3	豊岡	軽四輪積載車	スバル	18/06	トラックタイプ	—	H13.10	
			小型動力ポンプ	トーハツ	12/04	一段タービン	B 3	H19.12	
		南豊岡	軽四輪積載車	スバル	16/05	トラックタイプ	—	H15.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	16/05	一段タービン	B 2	H15.11	
		南水上	積載車	トヨタ	34/07	—	—	S60.09	
			小型動力ポンプ	ラビット	34/07	一段タービン	B 2	S60.09	
		北水上	軽四輪積載車	スバル	19/06	トラックタイプ	—	H12.10	
			小型動力ポンプ	ラビット	19/06	一段タービン	B 2	H12.10	
	4	吉安上	軽四輪積載車	スズキ	09/05	搬送車タイプ	—	H22.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	22/04	一段タービン	B 2	H09.12	
		吉安下・大沢	軽四輪積載車	スバル	26/04	トラックタイプ	—	H05.12	
			小型動力ポンプ	ラビット	26/04	一段タービン	B 2	H05.12	
		大畑	軽四輪積載車	スバル	26/04	トラックタイプ	—	H05.12	
			小型動力ポンプ	ラビット	26/04	一段タービン	B 2	H05.12	
		西奥	積載車	ニッサン	27/02	—	—	H05.02	
			小型動力ポンプ	シバウラ	06/05	一段タービン	B 3	H25.11	
米田		軽四輪積載車	スバル	26/04	トラックタイプ	—	H05.12		
		小型動力ポンプ	ラビット	18/06	一段タービン	B 2	H13.10		
川		5	鍛冶屋	軽四輪積載車	ミツビシ	38/01	トラックタイプ	—	S57.03
				小型動力ポンプ	ラビット	22/04	一段タービン	B 2	H09.12
	貸潮		軽四輪積載車	スバル	20/05	トラックタイプ	—	H11.11	
			小型動力ポンプ	トーハツ	07/05	一段タービン	B 3	H24.11	
	渡瀬・法光寺		軽四輪積載車	ダイハツ	08/06	搬送車タイプ	—	H23.10	
			小型動力ポンプ	ラビット	17/06	一段タービン	B 3	H14.10	
	出晴		軽四輪積載車	スバル	16/05	トラックタイプ	—	H15.11	
			小型動力ポンプ	トーハツ	16/05	一段タービン	B 3	H15.11	
	6	山上	軽四輪積載車	ダイハツ	03/06	搬送車タイプ	—	H28.10	
			小型動力ポンプ	ラビット	20/05	一段タービン	B 3	H11.11	
		長谷	軽四輪積載車	スバル	22/04	トラックタイプ	—	H09.12	
			小型動力ポンプ	ラビット	22/04	一段タービン	B 2	H09.12	
		上松	軽四輪積載車	スバル	25/06	トラックタイプ	—	H06.10	
			小型動力ポンプ	ラビット	25/06	一段タービン	B 2	H06.10	
		田谷	軽四輪積載車	ダイハツ	16/05	トラックタイプ	—	H15.11	
			小型動力ポンプ	ラビット	16/05	一段タービン	B 3	H15.11	
湯谷	軽四輪積載車	スバル	15/02	トラックタイプ	—	H17.02			
	小型動力ポンプ	ラビット	19/06	一段タービン	B 3	H12.10			

所 属		消防ポンプ	機 種	経年	ポンプの性能		配置年月	
地区	分団・班				形 式	級		
吉	7	新田	軽四輪積載車	スバル	22/04	トラックタイプ	—	H09. 12
			小型動力ポンプ	ラビット	08/05	一段タービン	B 3	H23. 11
		上荒川	軽四輪積載車	スズキ	06/05	搬送車タイプ	—	H25. 11
			小型動力ポンプ	ラビット	30/02	一段タービン	B 2	H02. 02
		畑枝・福井	軽四輪積載車	スバル	17/05	トラックタイプ	—	H14. 11
			小型動力ポンプ	ラビット	10/02	一段タービン	B 3	H22. 02
	8	富岡	軽四輪積載車	ダイハツ	03/05	搬送車タイプ	—	H28. 11
			小型動力ポンプ	シバウラ	06/05	一段タービン	B 3	H25. 11
		前田	積載車	トヨタ	22/04	—	—	H09. 12
			小型動力ポンプ	トーハツ	11/05	一段タービン	B 3	H20. 11
上中		軽四輪積載車	スバル	26/05	トラックタイプ	—	H05. 12	
		小型動力ポンプ	ラビット	26/04	一段タービン	B 2	H05. 12	
川	9	古川	積載車	ニッサン	23/04	—	—	H08. 12
			小型動力ポンプ	トーハツ	11/04	一段タービン	B 3	H20. 12
		実楽	軽四輪積載車	スバル	15/02	トラックタイプ	—	H17. 02
			小型動力ポンプ	ラビット	15/02	一段タービン	B 3	H17. 02
		古市	小型動力ポンプ	ラビット	24/05	一段タービン	B 2	H07. 11
		有安	小型動力ポンプ	ラビット	27/05	一段タービン	B 2	H04. 12
		吉川機動隊	救助資機材搭載	イスズ	07/01	—	—	H25. 03
			小型動力ポンプ	トーハツ	07/01	一段タービン	B 2	H25. 03

消防団員報酬・退職・新任状況

報 酬

(令和2年4月1日現在)

役 職	団 長	副団長	専任・正副分団長	部 長	班 長	団 員
報酬額(年)	207,000	126,000	36,000	10,800		

退職事由

(令和2年4月1日現在)

退職団員数	退		職		事		由
	自己都合	定年等	傷病		死 亡		統 合 整 理
			公 務	そ の 他	公 務	そ の 他	
75	74					1	

退職団員の在職年数

(令和2年4月1日現在)

退職団員数	退 職 団 員 在 職 年 数						
	5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
75	8	15	7	7	7	11	20

新入団員年齢別

(令和2年4月1日現在)

新任団員数	入 団 年 齢								新入団員 の中で41 歳以上の 再入団
	21歳 未満	21 ～25	26 ～30	31 ～35	36 ～40	41 ～45	46 ～50	51歳 以上	
89	2	15	11	9	19	6	9	18	23

消防団員出動状況

火災出動及び火災シーズン中における警戒、各種災害への対応、並びに各種教養訓練等を行っています。

(令和元年中)

区 分	種 別	火 災	水 防	警 戒	訓 練	その他
	回 数	83	0	0	1,505	208
人 員	数	321	0	0	8,766	1,340
	平均出動人員	3.9	0	0	5.8	6.4

消防団員関係表彰状況

郷土愛護の精神に基づき、崇高かつ重大な責務に対し特に自ら進んで、その使命達成に努められた功績により表彰を授与されました。

(令和元年度)

種別			階級	団 長	副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	計
消防庁長官表彰		永年勤続功労章			1						1
日 本 消 防 協 会 長 表 彰	功 績 章			1							1
	精 績 章									3	3
	勤 続 章									10	10
兵庫県知事表彰	功 労 章					1					1
	永年勤続功労章									2	2
	親子二代の賞										0
	家族の賞				3		2		18	23	
兵 庫 県 消 防 協 会 長 表 彰	功 績 章			1	3						4
	精 績 章				1	2	2		2		7
	勤 続 章				1		3	2	22		28
	精 勤 章				1	4	1		7		13
	家族の賞	3 0 年							1		1
		4 0 年									0
北 播 消 防 協 議 会 長 表 彰	優 良 綬		口吉川第1分団久次班								
	功 績 章				3				1		4
	功 労 章				3	2	1	1	5		12
三 木 市 長 表 彰					3		1		3		7
三 木 市 長 家 族 の 賞					1	1	1		3		6
三 木 市 消 防 長 表 彰					3	1			2		6
三 木 市 消 防 署 長 表 彰					3	1			2		6
三 木 市 消 防 団 長 表 彰					3	6	7	11	41		68
三 木 市 消 防 団 長 分 団 表 彰			三木・別所・志染・細川・口吉川・吉川各1班								
計				3	28	18	18	14	122		203

令和元年版 消防年報

〒673-0433
兵庫県 三木市福井1933番15
三木市 消防本部

TEL 0794-82-0119
FAX 0794-82-9167